

1. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		商店街（代表者）	販売量の動き	・5月の売上は2月と比べると増えている。ただ、青果市場価格が低迷していることで出荷の動きが鈍い。6月も緩やかな動きになりそうで、例年とは全く違う動きとなっている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前々年の11.8%となっているが、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったことの影響が少しずつ出てきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道の場合、夏に向けて春先の販売量が増えてくる傾向がある。今年は新車種の人気が高いことで、その傾向に拍車がかかっており、販売量が例年よりも上乗せされている。周りをみても同じような状況にあり、売上目標を達成している店舗や営業マンが多くみられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ワクチン接種の予定が遅れていることもあり、来街客が増加してこない。そのため、危機的状況にある店舗が月を追うごとに増えている。区域内では1週間の客が2～3人という物販店もみられる。5月も廃業する店舗が出ており、地域全体としても最低の状態が継続している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍のなか、客のマインドに変化はみられない。積極的なイベントを行うことができないなど、苦しい販売状況にあるため、景気に大きな変化はみられない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月と変わらない状況が継続している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は減少しているものの、販売台数の目標に対する達成率は3か月前と変わらずに推移している。売上は見込んでいた目標に近い数字が出ている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3～4月と販売量が上向きになってきていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って緊急事態宣言が発令されたことで、5月に入ってから新車販売の動きが止まってきている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊需要については、依然として低調に推移している。団体の募集型旅行はほぼキャンセルとなっており、スポーツイベントやコンサートイベントに関連した需要が多少みられる程度である。個人旅行もビジネスを目的とした直前予約のみみられる程度である。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・来客数の動きは当然悪くなっている。回復する見込みが全くないというのが今の状況である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・悪いまま何も変わっていない。緊急事態宣言の発令、ワクチン接種の遅れなど、良いニュースが見当たらない。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・5月の売上は3か月前とほぼ変わらない。前年と比べてもほとんど変わらない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置、緊急事態宣言が相次いで発令されたが、周りの状況は数か月前とさほど変わっていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、新型コロナウイルスのワクチン接種がどうなるのかをとても気にしている。当地の感染状況が非常に悪いこともあり、景気は段々と悪くなってきている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・5月に入り緊急事態宣言が発令されたことで、不要不急の外出が控えられるようになっており、どうしても移動しなければいけないビジネス客以外、ほとんど見掛けられない状況となっている。一般的な観光客は全くみられず、まれに若い世代の小グループ旅行を見掛ける程度である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大により、北海道においても緊急事態宣言が発令されたことで、引き続き厳しい状況にある。
		スーパー（役員）	単価の動き	・前年は新型コロナウイルス感染防止のため、単価の高いマスクや衛生用品などの商材が不足するほど爆発的に売れていたこともあり、売上は前年を数%下回って推移している。客単価も前年は2けたの増加となっていたが、今年は前年から4%程度下回っている。一方、来客数については、ここ数か月増加傾向で推移している。ただ、全体的には緊急事態宣言が発令されたことで、大型店の営業体制に不安定な部分が生じており、判断に難しい面が生じている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・緊急事態宣言が発令されたが、今までのような食料品のまとめ買いはみられなかった。客がコロナ慣れしてきている様子を感じられ、これまでと同じような動向が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長が見込まれていることもあり、景気はやや悪くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発令により、周辺の宿泊施設や飲食店などの動向が落ち込んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は横ばい又は上昇しているものの、来客数が減少している。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・前年と比べると、来客数も売上も落ち込んでいる。また、電話での問合せが増えている。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発令に伴って、外出を控える消費者や休業する店舗が増えていることで、当店の来客数も減少している。現状の売上は前年並みをキープしているが、来客数が前年比90%台と落ち込んでいる。客単価を上げるように販売活動を行っているが、今後、来客数が一層減少すると、売上減少につながる懸念がある。
		その他専門店 【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・客の様子から明らかなコロナ疲れが感じられる。ワクチン接種の予約が停滞していることも影響している。
		その他専門店 【ガソリンスタンド】（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言下の自粛ムードにより販売量が減少している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・1～2月は景気が悪いなかでも回復しつつあるようにみられたが、現在は予約の減少、宴会のキャンセルなどの動きがみられ、来客数の減少が目立つようになってきた。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・4月に関東や関西で緊急事態宣言が発令されたことで、ゴールデンウィークを含めて、本州方面からの観光客、ビジネス客の落ち込みが続いていたなか、北海道においても緊急事態宣言が発令されたことから、道内容についても減少傾向となっている。
		旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・北海道独自の観光支援策である「新しい旅のスタイル」の5月までの延長が決まった矢先に、緊急事態宣言が発令されたことで、施策自体が停止となったため、恩恵を受けることができなかった。来客数などは3か月前と変わりがなく、かなり厳しい状態が続いている。市内では新たに同業者の店舗が1店閉店となった。当社では週2日の臨時休業を開始するなど、人件費の削減を図り始めている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・コロナ禍で景気が落ち込んでいるなか、緊急事態宣言が発令されたことで景気が一段と悪くなっている。また、緊急事態宣言が延長されそういため、今後の動向がますます悪くなるのではないかと懸念している。
		通信会社（企画担当）	それ以外	・大型商業施設や大手スーパーなどに店舗して販売を行っている分については、来客数が微減する程度で済んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的に出店販売自体を禁止する施設が増えている。出店数が減っていることで、全体の販売量にも影響が出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光名所（従業員）	それ以外	・緊急事態宣言が発令されたことから、当施設もそれにあわせて臨時休業とした。3か月前の2月は新型コロナウイルスの第3波が収束し始めたことで状況が改善し、これから少しずつ良くなっていくと前向きに期待していたが、現在はとても残念な状態まで落ち込んでいる。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・5月中旬に発令された緊急事態宣言の影響で月後半の売上が極端に悪くなっている。来客数は通常時の半分程度に減少している。特に高齢者施設からの来客は皆無となっている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言が発令されたことで、外出を控える客が増えている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発令されたことで、特に旅行者が減少しており、予断を許さない状況が続いている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で分譲マンションのモデルルームを訪れる客が減っている。それに伴って、販売戸数も当然のように減少している。こうした状況は当分続くと思われる。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響により商店街、店舗共に、来客数が大きく落ち込んでいる。客の滞留時間も減っており、必要な用事だけ済ますとすぐに帰る客が増えている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発令され、百貨店や商業施設では土日の休業を要請されることになった。また、まん延防止等重点措置の発令に伴って酒類提供時間の短縮を要請されていた飲食店では、酒類提供を行う場合の休業を要請されることになったため、夜型の飲食店は軒並み休業せざるを得なくなった。零細企業はもう限界を超えている状況にある。こうしたなかで緊急事態宣言の延長が決定しており、これ以上、企業に無理を強いことはやめてほしい。週末にはほとんどの店舗が休業している一方で、日中の中心部は人波が絶えていないため、企業だけに苦勞を押し付けたくない。
	×	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・5月16日に緊急事態宣言が発令されたことで、ほぼ全ての客先が営業を自粛している。当社の売上も当然落ち込んでおり、5月の売上は前々年の30%にとどまる見込みとなっている。
	×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発令されたことで来客数が顕著に少なくなっている。大阪府や東京都などに緊急事態宣言が発令されたタイミングで来客数が減り始め、対象地域が拡大されるたびに段々と来客数が少なくなっている。特に北海道においては、百貨店に対して時短営業に加えて、土日の休業要請が出された影響が非常に大きい。食品部門については土日も営業しているが、売上面ではかなり厳しい状況にある。
	×	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・北海道に緊急事態宣言が発令されてから駅周辺の人の往来が極端に減っており、当店の来客数も減少している。緊急事態宣言の延長が決まったこともあり、このまましばらくは状況が改善しないことが見込まれる。
	×	百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・北海道においても緊急事態宣言が発令されたことに加えて、近郊の新型コロナウイルス感染者の数が高止まりしていることから、客の動きが極端に悪くなっている。以前は高齢者が外出を控える傾向にあったが、直近はそれより若い世代にも同様の傾向がみられるようになっている。
	×	スーパー（店長）	来客数の動き	・5月16日に発令された緊急事態宣言に伴って、専門店街が土日休業となったため、来客数が激減している。広域商圏のショッピングセンターとしては非常にダメージが大きい。
	×	スーパー（従業員）	来客数の動き	・前年の緊急事態宣言発令時には、来客数の減少による落ち込み分を大きく上回る客単価の上昇がみられたが、現在は前年よりも来客数の落ち込み幅が大きくなっているうえ、買上点数の減少に伴って客単価も低下している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発令されたことで、酒類の出荷量がほぼゼロになっている。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年からの新型コロナウイルスの影響が続き、購買意欲が下がっているなかでの緊急事態宣言発令となり、影響が大きい。当業界は補償もないため、全く人出がないなかでも営業しなければならず、どうしようもない状況となっている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は観光客も多くみられ、当店でも行列ができるくらい盛況だったが、緊急事態宣言が発令されたこと、当地の新型コロナウイルス感染者数が増えていることから、月後半は来客数が激減している。緊急事態宣言の延長も見込まれるため、今後も景気の低迷が続くことが懸念される。
	×	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年も5月は営業自粛の影響で悪かったが、今年も月後半から休業しているため、景気は悪い。売上は前年との比較では5割以上の増加となりそうだが、前々年との比較では2割程度の水準にとどまる見込みである。ゴールデンウィーク期間中はランチの利用客が増えて喜んでしたが、結果的には緊急事態宣言の発令に伴って休業を余儀なくされた。協力支援金の支給は有り難いが、来年の税負担が増えないように、原価還元セールや10万円以内の器材投資などで有効利用したいと考えている。また、6月1日より改正食品衛生法が完全施行されるが、多くの飲食店が未対応であり、特にテイクアウト料理でのトラブル発生を心配している。客からのクレームがあれば保健所による行政指導が行われることも考えられるため、新型コロナウイルス対策よりも影響が大きくなる懸念がある。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は、前々年の水準には至っていないものの、来客数が徐々に増えてきていたが、ゴールデンウィーク最終日から来客数が減少に転じており、歯止めが掛からない状況にある。札幌市におけるまん延防止等重点措置の発令、北海道における緊急事態宣言の発令が相次いだことで、当店では閉店時間の前倒し、ランチのみの時短営業の実施と営業の自粛を行っており、景気は一気に悪くなっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・現在は休業しているため、景気の良しあしを判断できる状況にはない。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・長期にわたる人流抑制政策のため、事業活動が停滞している。北海道において緊急事態宣言が発令されたことで既存の予約はほぼキャンセルとなり、現在は休業中である。また、緊急事態宣言の延長も現実となったため、新しい予約も皆無である。
	×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数、特に変異株による感染者数が増えたことで、北海道において緊急事態宣言が発令された。当地も特別措置区域となったため、人の行動が制限されており、経済が止まっている状態にある。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・5月16日に北海道において緊急事態宣言が発令されたため、人の移動が極端に減少している。特に夜の繁華街は20時を過ぎると真っ暗になるため、人が全く歩いておらず、タクシーの利用もない。売上は前年よりも減少しており、新型コロナウイルス発生以前の前々年と比較すると50%以上の落ち込みとなっている。客がいないことから、休業するタクシーも日を過ごすことに増えてきている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・緊急事態宣言の発令後は、夜の売上が激減した前年よりも一段と厳しい状況となっている。車両の稼働を本来の10分の1に抑えたとしても、人件費すら確保できない状況にある。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・夜間の人出が減少している。特に緊急事態宣言の発令後は、当然だが客が極端に減っている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・緊急事態宣言の発令に伴って、外出自粛の動きが進んでおり、タクシー需要が顕著に落ち込んでいる。さらに、酒類提供の自粛もあり、経済的に金が回っていない状況にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・5月16日に北海道において緊急事態宣言が発令されたことで、夜の街関連の居酒屋、スナックなどでは午後8時までの営業自粛要請が出されたため、極端に人の動きがなくなった。タクシーの稼働状況もひっ迫しており、前年よりも厳しい状況となっている。
	×	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・第3次ウッドショックと呼ばれるほど、木材の単価が異常に高騰している。それに伴って建材などの単価も上昇傾向にあり、仕入れをしづらくなっている。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの第4波に伴って緊急事態宣言が発令されたことで、家具業界の景況感も足踏み状態に転じている。ただ、3か月前と比べると景気はやや良くなっている。
		建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・公共土木工事については、予定どおりに新年度受注分の着工期を迎えている。一方、民間建築についても年度前半の工事量が確保できている。
		輸送業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・春先から、農産物関連の荷動きが好調に推移している。飲料関連も堅調に推移している。一般消費が上向き傾向にあることから、全体的には例年並みの物量に戻りつつある。ただし、建材、紙パルプ関連の動きは鈍い。
		食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注状況は景気が悪いまま全く変わらない。
		コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が良い方に転んでいる客と悪い方向に転んでいる客が極端に分かれており、判断に悩むところである。飲食、観光については想像以上に悪い状況にあるものの、ICT分野については巣籠り需要、テレワーク需要が強まっていることで、売上が大きく伸びている。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・外食、ホテル業は引き続き厳しい状況にあるが、当社の売上はレンタル需要が堅調に推移していることでほぼ前年並みで推移している。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・設備投資の状況に大きな変化は感じられない。ただ、緊急事態宣言の発令に伴って、特に観光関連業種では厳しい状況が継続している。
		食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・5月の販売量は前年比マイナス40%であったが、3か月前は前年比マイナス36%だったため、景気はやや悪くなっている。
		金属製品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3月の住宅着工件数が前年より減っていることもあり、4月の受注量が前年よりも落ち込んでいる。また、住宅用木材の高騰及び不足が表面化してきていることもマイナスである。
		建設業(従業員)	取引先の様子	・仕事量が減少傾向にある。また、木材単価が高騰していることで、今後の工事契約者数が減少する可能性が高まりつつある。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・当社の受注量や案件数だけをみた場合の景況感は悪くないが、周囲の取引先の業績や営業状況などをみると、新型コロナウイルス対策に伴う経済活動の抑制によって景況感がやや悪い方向に振れているとみられる。
		司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、緊急事態宣言が発令されたことで、人と物の動きが抑制されている。経済が低迷した状況において、不要不急とみられる不動産取引も減少している。営業活動もリモートでは難しい状況であり、景気が良いとは言えない。
		司法書士	取引先の様子	・不動産業や建築業が主な取引先であり、新築注文住宅が伸び悩んでいるため、これに関連して土地売買も低調に推移している。一方、建売住宅は注文住宅よりは堅調であるが、これは注文住宅よりも価格が低く抑えられている影響とみられる。これらのことから不動産取引は低価格傾向にあり、景気も下降気味に推移している。
	その他非製造業[鋼材卸売](従業員)	受注量や販売量の動き	・地域によるばらつきはあるが、全体的にベース商材の動きが悪くなっており、設備の入替えや機器の購入に対する意欲が薄れてきている。	
	×	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・既存大口客の取扱量が前年と比べて減少傾向にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	金融業（従業員）	取引先の様子	・北海道にも緊急事態宣言が発令され、多くの飲食店、大型商業施設、観光施設が休業に追い込まれている。コロナ禍により経済活動が大幅な制約を受けており、3か月前と比べて景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が増加傾向にある。これまでは営業などの即戦力を求める求人依頼が多くみられていたが、ここに来てコロナ禍前のような未経験者も対象にした求人が増えてきている。前年は新型コロナウイルスの流行に伴って、4月以降は未経験者を対象にした求人がストップしたが、業容拡大に向けて、経験の有無にかかわらず人手を求める人材需要が回復してきていることがうかがえる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の有効求人倍率は1.18倍となり、前年を0.20ポイント上回った。新規求人数が前年を上回っていることから、景気はやや良くなっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響や緊急事態宣言の発令による飲食店へのダメージはあるものの、第1次産業及び第2次産業の求人数については若干の増加傾向がみられるなど、業種間による温度差がみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地域における4月の有効求人倍率は0.82倍であり、3か月前と比べて0.02ポイント下回った。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・2022年卒大学生の就活が3月から始まっているが、採用企業の間口は前年と同様に狭い。本学の学生は、コロナ禍でも業績を左右されないような企業よりも、B to Cの中小企業を目指す傾向があるため、かなり苦戦している。企業側も収益が上向くような要素がないため、非常に慎重である。北海道は中小企業が圧倒的に多いため、本学のような道内私大の学生にとっては厳しい状況が続いている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言が再び発令された影響で、これまで比較的順調に推移していた求人件数に陰りが出始めている。新型コロナウイルス感染者数の動向とワクチン接種の進捗などへの様子見ムードが高まっており、予定していた求人募集を先延ばしするケースが続出している。ただ、採用ニーズ自体がなくなったわけではなく、求職者の就職意欲も衰えているわけではない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・春先は自粛要請が和らぎ、消費マインドが上向き始めていたことから、これから経済活動が活発になっていくことへの期待感があつたが、再度の緊急事態宣言の発令とワクチン接種の遅れによって、一部の巣籠り需要が生じている分野以外、経済活動が上向くような要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雇用調整助成金の問合せなどが非常に増えている。緊急事態宣言の発令を受けて、景気はかなり悪化しているとみられる。
	x	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルス感染者数が急増したことで、緊急事態宣言が発令され、農業や建設、自動車整備などの一部業種や短期勤務の新型コロナウイルス対策関連の求人案件を除けば、採用ニーズ、マインドに急ブレーキが掛かっている。掲載申込みが大幅に減っている。

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		-	-	-
		百貨店（買付担当）	お客様の様子	・来客数は回復していないが、購買意欲の高い客が多い。店舗セールも要因ではあるが、衣料品のまとめ買いや高額宝飾等、通常より決定までの時間が短く接客時間が比較的短かった。新型コロナウイルスの影響で長居をしないというよりは、ストレス解消や買物を楽しんでいる様子が見られた。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・冬場に比べて除雪代や光熱費の負担はないものの、新型コロナウイルスの影響でイベントや行楽による人出が減り、売上の的にもかなり厳しい。補助金等の対象にも入らないので、ただ利益が減り続けている状態である。乗り切ることができるのが常に不安しかない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の微増が販売額の微増につながっているが、平年と比較すると共にやや下回っている。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・県内の新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向になってから、来客数が増えてきている。大きな売上ではないが、一時期よりは持ち直している。
		その他専門店 〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・夏物の動きが少し良くなってきている。恐らくほとんどの企業は買い控えの状態だったが、もう買わざるを得ない状況となったのだろう。
		観光名所（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大の状況が比較的落ち着いてきている。
		競艇場（職員）	単価の動き	・来客数に変わりはないが、大口客が来ていたため客単価は上がっている。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・当県においては、新型コロナウイルス感染の人数も抑えられ、県境をまたぐ業務についても対面での打合せが多くなり始めている。また、新年度となり官公庁からもまとまった数の業務が発注され、落札価格の低下はみられるものの、県が最低制限価格の適用範囲を拡大したこともあり、低価格落札にも一応の歯止めが掛かっている。県内の全ての自治体に最低制限価格の適用が拡大すれば、受注者の収益の安定性も図れるようになり、景気の上向きにも貢献するものとみている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍の長期化から外出が増加し、商店街の来街者数は回復傾向であるが、飲食店を中心に店舗内での滞留時間は減少しているため、売上アップにはつなげられていない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・月間売上額は大きな変動はないが、内訳としては客単価の高い客に偏った売上になってきている。そのため、日々の売上額の変動が大きくなっている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・相変わらず商品の動きは少ない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・地域内の新型コロナウイルス感染者数の増減に合わせて来客数も増減を繰り返しており、全体としては回復には至っていない状況である。
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・ここ3か月の来客数は前々年比でほぼ3割減少している。様々な営業施策を試みるものの、コロナ禍で基本的にはダイナミックな動員施策は打てず、消費者の反応は鈍いため、苦戦を強いられている。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・5月の平均1品単価、来客数、買上点数、買上単価はいずれも、前年比の推移は前月とほぼ同じである。飲食店や土産品店、観光地商店、宿泊施設などへの人も少なく、飲食店への納入企業や地場食品メーカー、酒造メーカーも影響を受けている。消費傾向は変わらず良くない状況が続いている。雇用調整助成金の延長その他支援制度で何とかつないでいるようである。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・コロナ禍で来店頻度は下がっていたが、客単価が前年を上回る傾向が続いていた。しかし、5月はゴールデンウィークも厳しく、来客数は前年比97.0%、客単価は99.9%と、買物動向は節約志向が高まっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月はゴールデンウィークがあったが来客数が伸び悩んでいる。前年のゴールデンウィークは一部休業したが、今年は休まず営業した。それでも来客数は少なく、営業する意味は余りなかった。平日はそこそこで、客が訪れる時間帯は集中型から分散型に変わってきている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数が戻らない。特に日曜日が悪い。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年比104%と伸長しているが、前年の緊急事態宣言の影響が大きく、直近のトレンドでは変化はみられない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・現在も繁華街、観光地の来客数減少は続いている。ようやく新型コロナウイルスのワクチン接種が始まっているが、国民全員に行き届くにはまだ時間が掛かる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	単価の動き	・前年と比べ、来客数は改善傾向にあるが、単価が伸びない。所得が下がっている世帯、あるいは学生が増えているのではないかと。楽観視はできない状況である。
		衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言などには該当しない地域であるが、旅行や会食などを自粛しているため、洋服を新調する購買意欲が湧かない。そのために、来客数も減っている。
		衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・前年同時期と比較すれば日常を取り戻しつつあるが、新型コロナウイルスの感染状況に合わせて、買物などは必要最小限にとどめている消費者がまだまだ多いようである。
		衣料品専門店(総務担当)	お客様の様子	・営業時短要請等により、来客数は減少し売上は8掛けになっている。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・エアコンなどの季節商材の売上は好調である。テレビの大型化で有機ELなどの比率も高くなってきたが、東京オリンピックなどの需要の盛り上がりはない。新型コロナウイルスの感染者数も落ち着いてきたので前年のような特需も起きていない。
		家電量販店(店長)	来客数の動き	・前年は10万円の定額給付金があり、来客数が大きく伸びた。今年は減少しているものの、前々年との比較では微増となっている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・半導体の不足により車の納期がかなり伸びてきている。車検までに間に合わず、仕方なく車検を取るケースも増えてきている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・販売量は2月と比べ受注は増加傾向にあるが、今月は半導体不足による納期遅れの影響で売上は伸びておらず、前年実績と比べるとその分が不足している。
		乗用車販売店(従業員)	来客数の動き	・徐々に客足は増えつつあるが来客数は横ばい状態である。受注も増えつつあるが横ばい状態である。
		その他専門店【食品】(経営者)	販売量の動き	・ゴールデンウィークは県外からの来客数が減り、それに伴い販売量も減少している。
		その他専門店【靴】(従業員)	販売量の動き	・来客数が減少しており、売上も前年比では121%だが、前々年比では70%と大きく減少している。
		その他小売【ショッピングセンター】(統括)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、飲食店を始め来客数が減少しており、依然厳しい状況にある。
		観光型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・5月に引き続き6月の客足も伸びない。東京オリンピック・パラリンピックが終わるまでは駄目かもしれない。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かず、相変わらず自粛傾向が続いている。売上は半減の状態が続いている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・旅行業につき依然大変厳しい状況にある。商材の特徴ゆえ販売傾向が感染状況の影響を受けることと、東北旅行においては、東北の人流に限らず首都圏マーケットの人流が販売の主であることにより、まだ反転の気配がみえない。一部県での感染状況の改善、並びに地域観光支援事業が始まったことで、若干の回復基調がみられる。販売チャネル別では、来客数が極めて低調で推移しており、店頭販売が苦戦している。その分、Web予約、コールセンター予約は健闘しており、客の外出自粛、非接触サービスへの代替希望が確認できる。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・2月に起きた当県の地震の調査でタクシーの一時的な需要があり、それが続いているため、結構な仕事量となっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されたためか、1日の乗車回数が前月比で約1.2倍となっている。ただし、売上金額は前月から上昇していない。つまり、近場利用の客が増加しているということであるため、景気が上向きと判断するのは難しい。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化はみられない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で良しあし様々である。感覚的には悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光名所（職員）	来客数の動き	・様々な自治体での緊急事態宣言発出により、本日に来客数が減っている。県内では緊急事態宣言の発出はないが、新型コロナウイルスの感染者数が増えている地区があり、県民も余りうろついている。乗船客も土産店を訪れる客も圧倒的に減っている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客はなるべく出費をしないように間隔を置いて来店しているようである。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・投資先としてRC賃貸集合住宅建築を考える客が増え、受注が増えている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・周辺は本日に自粛しており、人の動きも少ない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が更に悪化して、巣籠り状態が続いていると理解している。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・来客数が回復しないなかで、以前のようなまとめ買いもなく、販売数量も伸びていない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前と比較すると客の買上金額が減少している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルス感染が拡大した状況のなかで客が殺到した。その影響が大きく、現在は若干の低迷しており、売上の伸び率が下がってきている。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・前年の特需の反動は下旬に掛けて生鮮食品を中心に改善傾向にあるが、まとめ買いの強かったグロサリー商品の買上点数のマイナスが続くと予測される。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は新型コロナウイルスの影響もあるが、それにプラスして天候が不順であったことが大きい。それによって客の流れが鈍くなり、売上が下がったとみている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの来客数減少が響き、今月の売上は厳しい数値である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・コロナ禍が継続しており、来客数は前年同時期と比べ鈍化傾向である。週末の天候も来客数の減少に影響している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・依然、新型コロナウイルスの感染者数や変異株の多発により客足がさっぱりで、売上が半減している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・感染者数の増加により前月以上に来客数が減少している。低単価商品のニーズによる客単価ダウンも重なり、日々の売上確保に苦戦している状況である。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の発出により、会議や出張等がなくなったことで、スーツやワイシャツの需要が減少している。さらに、結婚式の自粛により礼服が売れない。
		乗用車販売店（店長）	単価の動き	・台数は前年と単純比較できないものの、急激に1台当たり車両単価の下落がみられる。これに伴い1台当たり収益の確保が難しくなってきているので、早急な対策が必要である。
		自動車備品販売店（経営者）	それ以外	・県内の新型コロナウイルス感染者数増加の影響もあり、県内移動も少なくなっているようで、それに従い各店舗の売上も下がっている。関わりのある業種では自家用車の移動距離が前年から少なくなり、じわじわと消耗部品の交換が減るなどの影響が出始めている。大型車は受注量減少による出荷量減少の影響があるが、通販に関わりのある運送業車両は例年と同様である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・前年の緊急事態宣言時との比較では大きく回復しているものの、前々年比では大きく減少している。コロナ禍や自動車構造の変化等様々な要因があり、景気動向によるものだけではないが、外出自粛要請は燃料油販売数量の減少につながっている。
		高級レストラン（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種が行き渡るまでは、景気は上向かない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夜の入客が一層少なくなっている。
		観光型旅館（スタッフ）	それ以外	・4月下旬～5月初めに掛けての当県他市独自の緊急事態宣言が、報道などにより県全体と捉えられた。また、当市の高校でクラスターが発生したことにより、やや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言、また、県独自の緊急事態宣言発出により人の往来が減少していることが影響し、個人客の来店数も激減している。また、先行き3か月の受注状況においても予約をキャンセルする客が増加傾向にあり、繁忙期である夏休み商戦においても影響は深刻さを増している。団体旅行案件については前月同様にほぼ皆無の状況が継続している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・ボーナスを支給しない企業が多くみられる。ホテル業や飲食業界では決算状況が赤字になっており、打撃を受けている。GDPも戦後最悪の状況であり、6～7月も消費動向が下降すると考える。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・コロナ禍により、販売量については飲食業に次いで宿泊業の売上の低迷が継続している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染者が継続的に出て拡大し続けているため、訪問による対面説明などができず、契約が停滞している。電話などで訪問によらない加入説明などもしているが、市中感染がまん延してきているため、緊急性もなく、商談も延期になるものが増えてきている。また、節約のためということで、解約者も少しずつ増えてきている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・製品が売れない。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・22日まで休園した前年と比べて今年は営業できているだけいい。まん延防止等重点措置は11日で終了したものの、コロナ禍前の前々年との比較では半分を少し下回っている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・前年は月半ばに緊急事態宣言が解除され、後半はその反動で売上がある程度回復した。今年は月初めにまん延防止等重点措置が解除されたものの、来客数は前年の勢いとは違って鈍化しており、リターンの期間も延びている。今も警戒中の状態が続いているようである。
		美容室（経営者）	単価の動き	・まん延防止等重点措置の適用により顔そりを自粛しており、その分単価が下がっている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・感染状況は一向に良くならないばかりか次第に悪化しており、客も不安な様子である。買い控えや外出自粛などにより低調のままである。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・住宅設備機器はエアコン以外の動きが鈍くなっている。リフォーム工事は高額の工事が減っている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	来客数の動き	・5月は大型連休があるため、年間でも1～2番目に来場組数が多い月だが、緊急事態宣言などの影響もあり、来場組数は前月と同程度である。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街が閑散としている。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークがあり少し人の流れがある状態であった。しかし、4月からの時間短縮営業が引き続き行われていたため、繁華街は20時になると真っ暗になり、人の流れはストップし、人は全く来ない状態である。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少が止まらない。コロナ禍での外出控え、あるいはコロナ禍で仕事が思わしくない人等が徐々に増えていっていることの影響をもちに受けている。
	×	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・隣接する市の飲食店で新型コロナウイルスのクラスターが数件発生し、取引先飲食店のほとんどが営業自粛や時間短縮営業を実施したため、中旬以降の販売量が急激に減少している。
	×	スーパー（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルス関連商材が前年と比べて落ち込んでいるため、客単価が前年を割っている。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・当県では新型コロナウイルス感染者数も減ってきており、3～4月に掛けて少しずつ東京への出張が増えてきて、スーツの需要も喚起されてきていた。しかし、東京の感染者数が増えてきてからは出張もなくなり、スーツやジャケットの購入客が伸び悩んでおり、苦戦している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・年度末は公共投資関係があったが、公共事業等が少なくなっている。また、一般、民間の受注量が少なくなっている。
	×	その他専門店 [酒](経営者)	来客数の動き	・東京を含む主要都市の緊急事態宣言下で飲食店はとどめを刺された状態である。根拠のないアルコール販売・持込み停止でますます先行きが見えなくなっている。地元の店頭販売は薄利の家飲み需要も徐々に減っているような感じがある。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・レストランを取り巻く環境は厳しいと毎月のように言っている。緊急事態宣言が出ている都道府県もあり、当県では時短要請がなされている。特にディナータイムは5月中に1組しか来ていないような状態である。非常に厳しく、お手上げの状態である。
	×	一般レストラン (経営者)	それ以外	・当店はまん延防止等重点措置の対象地域にあり、4～5月は全休している。ワクチンの普及率が一番の鍵になるのではないかとみている。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・やはり時短営業の影響が大きい。客がほとんど来ない状態が続いている。平日に客が会社帰りに寄っても、それが18時半近くだと、19時までにアルコール提供を終えないといけい旨を伝えと、だったらいいやと帰っていく客も多々いる。
	×	一般レストラン (経営者)	それ以外	・学校関係の大会での大規模な新型コロナウイルスの感染拡大があり、それに関連した家族や職場の同僚等の外出に対する目線が厳しくなっているため、街中の飲食店は昼の部ですら状況が悪化している。週末も郊外のチェーン店に何とか人が入る程度で、このまま対策がなければ閉店を視野に入れている店も増えてきている。
	×	テーマパーク (職員)	単価の動き	・地域独自の感染拡大防止対策により不要不急の外出ができない。また、都道府県の緊急事態宣言によりかなり来客数も減り、来客しても買物をしない傾向がかなり強い。急に客単価が下がっている。
企業 動向 関連 (東北)		建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・公共、民間共に大型案件を受注している。
		建設業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・街中を歩いていると空室率がまだ目立つところはあるが、空き地については工事の動きが徐々にみられてきているようである。
		広告代理店(経営者)	受注量や販売量の動き	・新年度に入り、コロナ禍だけで済まされない状況になってきている。
		農林水産業(従業員)	それ以外	・地元旅館の宿泊者はほとんどいない状況であり、パート従業員も仕事がなく大分困っている。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・売上は前年比ではプラスになっているが、前々年比では半分程度である。早くワクチン接種が終わって人の動きが出てこないと非常に厳しい。
		食料品製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・販売量は前年比100%だが、前々年比では80%と低水準である。まだまだ苦しい状況に変わりはない。
		出版・印刷・同関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・5月からはイベントの季節であるが、2年連続の中止は厳しい。
		電気機械器具製造業(企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・半導体不足による価格高騰が一段落し、徐々に従来の価格帯、傾向に戻りつつある。現時点の景気に大きな変化はない。
		輸送業(経営者)	受注量や販売量の動き	・取引先の生産量、出荷量が減ったままで、なかなか増加に転じない。高齢者のワクチン接種が始まりプラス要因はあるものの、緊急事態宣言が延長の見込みもあって、更なるマイナス要因も出てきた。5月の売上予想は前年比で3%減、前々年比で23%減である。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・依然として新型コロナウイルスの影響が大きく、客はそれどころではないといった反応である。
		金融業(営業担当)	取引先の様子	・県独自の感染警戒レベルは5段階中4が続いており、飲食業、ホテル業等は厳しい状況が続いている。一方、国産材の需要増加から製造業は業況が良いなど、業種で格差がある。
		金融業(広報担当)	取引先の様子	・一部繁華街でのクラスター発生に伴う時短営業等の制約は解除されたが、客足は戻っていない。飲食業界とその関連業者の苦戦は続いている。
	広告業協会(役員)	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置は解除されたが、感染者は下げ止まり状態で、イベントの中止も前年同様相次いでおり、広告業界復活の兆しはまだみえない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き感染状況の見通しが立たず、東京オリンピックの開催可否による関連イベントの受注減少などのリスクが見通せない。
		経営コンサルタント	それ以外	・1年以上コロナ禍での停滞感が続いており、日常化してしまっている感がある。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・街の温泉街における客足がまだ低調であり、先般のゴールデンウィークでもにぎわいはみられなかった。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの影響もあり、米などの主要作物の価格が下落している。一方で、農業資材の価格は若干上昇しており、収益を圧迫している。
		出版・印刷・関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年同時期よりも、約10%売上が落ちている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・設備保全においては、予防保全対応ではなく、事後保全の傾向にある。
		公認会計士	取引先の様子	・客の月次、決算状況から判断している。飲食業、小売業、サービス業の業績が前年と比べ低下傾向が続いており、今のところ回復の兆候がみられない。建設業等はさほど大きな減少はみられないが、全体的な景気は少し悪くなっている。
		コピーサービス業（従業者）	受注量や販売量の動き	・可もなく不可もなくほとんど変化がない。ただし、粗利率が低下して厳しい状況である。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の延長、適用地域の拡大、酒類提供の終日停止により飲食店を中心とした酒類の動きがストップしている。
	×	窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・地域間格差はあるものの、東北全体としての出荷は前年比2けたのマイナスとなっている。
	×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・予定されていた受注が新型コロナウイルスの影響で後る倒しになっている。
	×	輸送業（従業者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が発出され売上が低迷している。
	×	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	取引先の様子	・取引対象のほとんどは地場のスーパーだが、来客数が前年比で5%ほど減少し、売上もそれに準じて5%前後減少しているところが多くなっている。
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月の売上が1月と比べ15%増と好調である。4月1日現在の稼働数が初めて1500人の大台に到達している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・一時、中途採用を停止した企業のなかで、募集再開をする企業が増えている。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・Webなどを使い会議が開かれるようになり、文字起こしの仕事も増えてきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較して、新規求人数はほぼ同数だが、有効求人数は約400人増加している。
		学校〔専門学校〕	採用者数の動き	・有効求人倍率が微増している。しかし、減少している業種もあるため、分野ごとでみた場合、一概にはいえないかもしれない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・業界によって差が非常に大きく開いている。同じ小売業でも、アパレル、靴、宝飾品は厳しいが、巣籠り消費のガーデニング関係、ゲームソフトといったところは求人も堅調に伸びている。外食やホテル、宿泊、旅行、パチンコなどのアミューズメントの求人は相変わらず非常に厳しい推移になっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・実施の方向で検討されていた春や夏の祭りも、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出されたことで中止や縮小の判断となり、期待外れとなった。旅行や、飲食、イベント関係はますます悪化し、巣籠り需要に関わるスーパーや食品業界は好調が続いている。家具のフェアなども集客、売上共に好調である。好調、不調の2極化は変わらず続いている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・大型連休で新型コロナウイルス感染者数が急増し、変異株も確認されるなど、県民は今まで以上に飲食店の利用を控えている状況である。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・月間有効求職者数が減らず、高止まりしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数はコロナ禍において回復しておらず、1年前から横ばいのままである。飲食サービス業で求人募集が減っているものの、自動車部品や産業機械製造業からの求人募集が増え始めている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雇用調整助成金の活用について減少がみられない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・少子高齢化の影響により減少していた求職者が増加している。
	×	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・飲食業、ブルー系企業の採用は一向に回復していない。
	×	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大により、夏祭り等イベントの中止が決定している。

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)		-	-	-
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・客の動きは悪いままだが、1～3月の緊急事態宣言が解除されたことで、飲食店等の納入先への納品量が増えている。
		スーパー（商品部担当）	それ以外	・世間の景気は相変わらずだが、当店ではまん延防止等重点措置や地域経済活性化の恩恵を受け、売上が増えている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・当地域では新型コロナウイルスの影響から、少し良くなっている。3か月前と比べ、早朝から午前中の客の動きがかなり良くなってきている。半面、昼の動き等は多少落ち込んでいる。全体的には3か月前と比べて、少しは良くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上100%、来客数99%、客単価100%となっている。ゴールデンウィーク中は、新型コロナウイルスの影響で11日間休業する企業もあり落ち込んだが、月後半は前年を上回る日が増え、1か月のトータルでは前年並みとなっている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・高齢者も家に籠もっている状況が続いており、来客数はそれほどでもない。ただし、購買に関しては、いきなり購入していく客もいて、1か月を押し並べると、例年並みの販売量となっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・少しだけ、動き始めた気がするが、新型コロナウイルスの感染拡大で、延期が繰り返されているため、増加はしていない。
		通信会社（局長）	来客数の動き	・当店の来客数に変化はみられないが、周囲の飲食店には客足が戻ってきている。その反面、閉店する飲食店も増えてきている。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・新規の相談案件が出てきている。新型コロナウイルスの影響が長引くなか、今後を想定して少しずつ動き出しているようである。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・今月も新型コロナウイルスの感染者数が減らない。当地も警戒レベル4となっているので、皆外出を控えているようである。大型店も人通りが少ないと感じている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・回復基調にあった来客数も、まん延防止等重点措置の適用に伴い再び鈍化傾向となっている。食料品は比較的好調なもの、非食品分野は軒並み厳しい状況である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・行楽地沿いの店舗なので、ゴールデンウィークは客の来店が余り見込めなかった。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが発生してから1年が経過したが、ほとんど客の来ない状態である。街中はひっそりとした状況が続いている。特に、祭礼行事が全滅状態なので、当店にとっては大変である。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・夏の天候と東京オリンピック需要があるのかどうかで変わってくる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車、中古車販売は今一つ伸び悩んでいる。その反面、車検等の整備売上は順調に推移しているので、ほっとしている。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は人の動きもあり、来客数もやや増えていたが、連休明けからは天候不順もあったため、来客数が落ちてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔靴小売業〕 (経営者)	来客数の動き	・直近3か月の売上は前年よりは上向いている。3年前との比較で、前年と今年の動向をみると、まだ利益を確保するほどの回復には遠い。3年前と前年の比較では70%台で推移している。新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置適用地域に該当しているため、客の動きが鈍い状態が続く。
		一般レストラン 〔居酒屋〕(経営者)	来客数の動き	・来客数は1組当たりの人数が1~3人と少なく、また、天候にも純粋に比例して左右される傾向がある。1~2人で行動し、雨が降る日は帰る。予定した飲食行動は少ない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・飲食が新型コロナウイルスの感染を拡大するという偏見が、いまだ大きいと感じる。
		旅行代理店(経営者)	来客数の動き	・東京都の緊急事態宣言や当県のまん延防止等重点措置の発出により、旅行需要の回復がみられない。
		旅行代理店(所長)	来客数の動き	・当地区の新型コロナウイルス感染者は、少数にとどまり落ち着いてはいる。ここ数日は減少傾向ではあるが首都圏の感染拡大が止まらず、個人もさることながら、林間学校や団体等、教育旅行のキャンセルや延期が多く出ており、厳しい状況にある。
		競輪場(職員)	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍のなかで、入場者数等に特に変化はみられない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大の状況が、地方の大都市へと拡大してきており、当地のような田舎にも影響が出てきている。来街者の減少により入店者が少ないため、売上は減少し、なじみの客は節約志向で最小限の買物で済ましている。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークくらいまでは何とか良かったが、連休後、観光客を含めて来店客数が大きく落ち込んでいる。恐らく、新型コロナウイルスの感染拡大のせいではないか。
		家電量販店(店員)	販売量の動き	・前年は1人10万円の特別定額給付金が支給され、大型耐久消費財が多く売れたが、今月は前年同月比で88%、前月比では115%と、徐々に販売量が落ち始めている。エアコン、冷蔵庫、洗濯機、テレビ、スマートフォン関連等の商材が好調である。
		家電量販店(営業担当)	販売量の動き	・前年は、マスク、消毒剤、体温計、パーティションといった新型コロナウイルスの感染対策商材の購入が企業からも多くあったが、今では普及したため、前年比90%と苦戦している。
		乗用車販売店 (販売担当)	来客数の動き	・自動車販売と修理をしているが、来客がめっきり減っている。新型コロナウイルスの影響で、来店客が少ないので、修理は当店から客のところに取り出向いている。その分、手間も掛かるので、売上も少なくなる。
		その他専門店 〔燃料〕(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大のため、受注減が続いている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークが明けて急激に暇になっている。高齢者は相変わらず動かない。連休明けから新型コロナウイルスの変異株感染者が増えたことも影響している。
		その他飲食〔給食・レストラン〕(総務)	競争相手の様子	・事業所給食部門の一部では、入札参入企業が増加する等、最終的に契約条件が厳しくなる傾向がみられる。他部門での業績悪化をばん回するための方策の1つとして、取り組んでいる結果とも考えられる。
		都市型ホテル (支配人)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、4月中旬から市町村の飲食店に対して営業時間短縮要請が出ていたため、やや悪くなっている。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・宿泊は、4月からゴールデンウィーク期間までは好調に推移していたが、連休以降は急激に落ち込んでいる。料飲部門は、県からの時短要請の影響もあり、今のところ、浮上の見込みすら立たない状況である。
		タクシー(経営者)	お客様の様子	・昼も夜も人の動きが悪く、前年同月と比べて15%の減少である。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の影響で、来客数や販売数の鈍化、実績低迷が続いている。
		通信会社(総務担当)	来客数の動き	・高齢者で外出自粛要請を守る方が一定数いるため、来店予約をキャンセルするなど、来客数が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（総務担当）	来客数の動き	・今月16日から新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が県内の一部で適用となったことから、コンペ等の予約キャンセルが増えてきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・2019年の年金2000万円問題を始め、漠然とした将来不安が非常に根強く、消費や投資を手控える傾向が続いている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・東京都に再発出された緊急事態宣言で、客の不要不急意識が高まり、消費にもその意識があるようで、買物や自動車整備にも影響が拡大してきている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったものの、旅行、宴会等を実施できる状況にはなっていない。旅客、娯楽、飲食業を中心に、いまだ厳しい状況が続いている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・材木不足により住宅建築のめどが立たず、客の動きが鈍い。米国からの木材が輸入できない限り、この状態からは脱却できないと予想される。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・客の動き自体も悪く、巣籠りでインターネット関連業界は好景気かもしれないが、一般家庭や一般販売店はかなり厳しい状況ではないか。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍以前の2019年と比較した売上達成率は、2月は40%に対し、今月は28%である。当店の立地する観光地は、首都圏からの来客が多くを占めており、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され続けているため、来客が望めない状況である。また、土産を買って帰っても、周囲に配ることができないことから、土産物の購入も望めない。
	×	百貨店（店長）	来客数の動き	・当県のまん延防止等重点措置の適用以降、来客数の減少が顕著である。
	×	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・現状だと、新型コロナウイルスのワクチン接種が終わるまでは、客は出てこないような状況である。当店の客は高齢者が多く、年金受給者の割合も相当高いので、本当に人が出てこない。特に、今月は顕著でひどい状態である。人が生きていける政策を、早めに打ってもらわないと、私たちも生きていく術がなくなってしまう。
	×	乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・全てを新型コロナウイルス禍のせいにはしたくないが、収束していない現状では、観光客もドライブイン、レストラン、物産店に来ないので、当社の顧客は困っている。ワクチン接種が進まないため、客も感染を気にして外出しないため、販売も少ないが、徐々に修理関係も、少しのきずなら直さない、多少の故障は我慢する、とあって、家から出ない現象が起きている。早くワクチン接種が進んで、感染状況が落ち着くのを待っている。
	×	住関連専門店（店長）	それ以外	・緊急事態宣言が6月中旬まで延長になる予測で、飲食、観光業や航空会社の不振が長引いている。切り札である新型コロナウイルスのワクチン接種も思った以上に進んでいないため、悪くなっている。
	×	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・県独自の飲食店への時短要請の影響が過大である。20時までの営業では来客がほぼない。
	×	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・飲食業界に対する自粛や休業要請により、外食産業への消費が停滞している、というよりも皆無である。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・首都圏の緊急事態宣言等の適用で、地方まで影響が出ており、利用客がいなくなっている。夜から深夜にかけて人通りがなくなっている。家飲みで慣れてきて外で飲むのがおっくうになったという客が多い。地方では、今後もこの状況はしばらく続くように思う。
	×	タクシー（役員）	それ以外	・政府の新型コロナウイルスの対策がひどすぎて、どうにもならない。
	×	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間に、首都圏に対して、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が発出されたことから、来客数が例年を大きく下回っている。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言発出中のためか、すっかり夜の街が閑散としている。飲食店、スナック、居酒屋等、店が閉まって苦しい状況下であり、撤収や倒産もちらほら出てきている。事務所関係の引き合いもほとんどない。土地は、価格の安い物件には引き合いがちらほらあるが、それ以外は全く動きがない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
企業 動向 関連 (北関東)		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・協力工場である熱処理会社各社の仕事量が増加し、スポット生産への対応等が困難となる状況が増えており、納期対応に苦慮する事案も増えている。	
		化学工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ゴールデンウィーク明けの受注や出荷量の戻りが予想より早く順調になってきている。	
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社も新年度を迎え、新型コロナウイルス騒ぎにも巻き込まれず、こつこつと営業している。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体不足解消のめどが立っておらず、自動車の減産は続いている。	
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・前年は特別定額給付金の支給があり、全体的に前年の15%増の実績と高めただったが、今年もインターネット通販向けのレジャー用品、バーベキューコンロ、キャンプ用品、テーブルチェア等、また、料理家電等の物量が多く、前年同様の物量を確保している。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・全国的には依然として、緊急事態宣言の発出地域もあり、地域経済は回復というにはほど遠い。新型コロナウイルスの影響を受けにくい、あるいはそうした環境から遠いところにある業種が、通常に近い経営を維持している。	
		司法書士	受注量や販売量の動き	・ほとんど変わらないので回答の判断を1ランク変えるほどではないが、数字の上で言えば、ほんの少しずつ良くなっている。	
		社会保険労務士	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染拡大による経済活動低下の影響を受ける業界は、いまだに厳しい状況が続いている。	
		その他サービス業[情報サービス]（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は納入案件が多くあったが、商談件数、受注量共に、特段変化はみられない。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・材料がまず手に入らず、もうそろそろ止まってしまうので、そうなると売上がゼロになってしまう。材料価格は大体10倍に高騰しているが、売値は変わらない。また、今、発注しても、入荷は6～8か月後とのことで、在庫は持っていないので、どうにもならない。これが続けば、会社存続の危機にもさらされることになる。	
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・人の動きが少なくなっているようで、賃貸の入居退居に伴う仕事も少ない状態である。	
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置が発出されたため、入居テナントの飲食店が休業し、清掃等業務が休止したり、介護老人保健施設等の業務も当面延期になったりしたため、売上が減少している。	
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当地も自治体の新型コロナウイルスの感染拡大地域となっていたため、飲食業界を始めとしてサービス業は営業自粛期間であり、相変わらず広告出稿はない。	
		×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は前々年の半分と、悪くなっている。
			建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。新年度がスタートしてから、公共工事は前年の55%しか発注がない。新型コロナウイルス禍のなかでのスタートで影響を受けている。今後の発注については、現在は予想もつかない。ただ、コロナ禍による不況で影響を受けている業種は多数ある。経験のない状況での経済である。今はワクチン接種をいかに実施するかし手の打ちようがない。全国民が自粛することが大事である。当社決算は、前年比10%増の受注があるので、今のところは安心である。
雇用 関連 (北関東)		学校[専門学校]（副校長）	採用者数の動き	・次年度の企業の採用状況は、業界によってばらつきがある。先日実施した合同企業説明会では、おおむね例年どおりだが、場合によってはこのチャンスに良い人材を確保したいという動きもあるようで、「人」は動くと思われるので、景気にも良い影響が出るとみている。	
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・人材派遣の依頼数は回復してきている一方で、中途採用の選考ハードルが高くなっていると感じる。	
		人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・派遣先の採用数が増加しているため、やや良くなっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・飲食業の事業所では求人募集が再開され、派遣求人では製造業派遣の求人が増加している。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・生鮮食料品や食材等は多少増えていると、スーパーの人出等を見ても分かる。住宅関連等は、改装、改装が多少みられただけで低迷している。製造工場は従業員の車両台数が少ないので、稼働はかなり少ないとは思いますが、横ばいと思受けられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は1.10倍と前月比0.1ポイント下回ったが、前年同月比では変わらない。有効求人数は前年同月比8.1%増と22か月ぶりの増加となっている。新規求人数は前年同月比25.2%増と、3か月連続で増加している。
		*	*	*
	x	*	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (南関東)		*	*	*
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	来客数の動き	・来客数が増えてきている。エアコンの問合せも多くなってきている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは、近場の商業施設では遠出を控えた家族連れの来店が目立ち、多くの客でにぎわった。気温上昇もあり、アパレル関連が好調であった。その後は、継続営業中の食品売場では、週末は引き続き好調であるものの、平日の来客数は減少傾向にある（東京都）。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・今年の緊急事態宣言は前年に比べて客が慣れているというが、ふだんの生活に戻りつつあるように見受けられる。新しい生活様式ということで考えれば、前々年に比べるとまだまだの数字だが、前年よりは食料品や衣料、住まいの品も15%くらい伸びている。ビジネス関連商材の動きは良くないものの、ふだん着や日常の買回り品のような物の購買は底を打って上がってきているようである。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・客が外食をしなくなり、可処分所得が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前年度は中止したスクール水着の販売があり、2学年分の販売がある。また、実用衣料品の売上が好調である。外出着については相変わらず良くないが、全体では前年比で少し増加している。
		家電量販店（経営企画担当）	来客数の動き	・5月に入り、緊急事態宣言が再発出されている状況下でありながら、数字を見ると客のレジ清算数は大きく伸びている。当然ながら国内客の需要がけん引しており、売れ筋商材も、一時のような2極化の状況ではなく、ほぼ全ての品目で前年を超えている（東京都）。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	販売量の動き	・3か月前よりは良化しており、前年比でも良くなっているが、2年前と比べると売上が減少している（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	それ以外	・緊急事態宣言下ではあるが、前年度に講じた、将来的に黒字転換見込みのない取引先からの撤退等の対策が奏功し、収益が大幅に改善している（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・東京には緊急事態宣言が再発出されたが、当県はまん延防止等重点措置適用にとどまったため、ゴールデンウィークは当地域に人が集まり好調であった。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・3か月前と比べてMNPによる解約数が減っている（東京都）。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前の2月は、この新型コロナウイルス禍のなかでも観光地の閑散期に当たる。5月はゴールデンウィークを挟んだので、2月よりはやや良くなっている（東京都）。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・直接当社の仕事とは関係がないが、取引先で聞いた話では、これから新しい案件が予定されているようである。その中の幾つかは、当社も関わっていけるかもしれない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約106%となり、やや良い。また、3か月前と比べても少し増えているので、やや良くなっている。前月、前々月は販売量が落ち込んだが、今月はゴールデンウィークで商談ができる時間、回数が増え、販売量の増加につながっている。
		商店街(代表者)	それ以外	・緊急事態宣言の影響で、飲食店は壊滅状態である。一方、その他小売店は、都心が沈む分、少し郊外の当地域には多くの人々が来ている。しかも、路面店で構成されている街なので、大型商業施設が自粛要請を受けるとなお更人が来る。物販と飲食の差がひどく、足して2で割ると「変わらない」となる(東京都)。
		一般小売店[家電] (経理担当)	販売量の動き	・エアコンの動きは良いようである。訪問活動はできないが、問合せを受けてうかがう形で営業している。キャンペーン商材はなかなかお勧めできるような状態でなく、テレビの動きは止まっている。防犯カメラや電気工事などの動きもある。
		一般小売店[印章] (経営者)	来客数の動き	・路面店だからかと思うが、とにかく客が少ない。経済が沈んでいる。当店の業種だけかもしれないが、非常に元気がない。
		一般小売店[祭用品] (経営者)	来客数の動き	・外出する人が少なくなり、自宅からインターネットでの購入が増えているため、店頭販売が激減している。
		一般小売店[傘] (店長)	来客数の動き	・必要に応じた買物をする人は一定数いるが、人出は戻っていない。
		一般小売店[茶] (営業担当)	販売量の動き	・店舗では来客数、売上共に前年より増加しているが、イベントや出勤抑制のため、納品や卸などの会社関係の消費が減少し続けている。
		一般小売店[茶] (営業担当)	販売量の動き	・新茶の時期とはいえ、例年並みの売上である。可もなく不可もなくという感じである(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出下で休業要請に従って生活必需品のみの営業となっており、通常営業ができない状態が続いている(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	それ以外	・東京都に対する緊急事態宣言延長に合わせ、当地域のまん延防止等重点措置適用も延長されており、今月も来客数の推移や客の動向から景気が良くなったという意識は感じられない。
		百貨店(経営企画担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言下、来客数は依然として厳しい状況となっている。生活必需品の売場は営業を再開しているが、前年をとらえるまでは回復しておらず、状況は変わらない。なお、購買単価の変動は余りなく、売上が厳しい状況の主因は来客数の減少ととらえている(東京都)。
		スーパー(販売担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言中のため、営業時間が短縮されている。当然ながら来客数も前年まで届いていない。販売量も前年を大きく下回り、売上が伸びていない状況が続いている(東京都)。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・来客数は前年を上回っているものの、買上点数、単価が軒並み前年を大きく下回っている。客も特売品は買ってくれるが、それ以外の物、必要のない物は買ってくれないので、点数が伸び悩んでいることが大きな要因である(東京都)。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・緊急事態宣言に伴い、特に酒類の売上が伸びている。生鮮品等については、前年同時期ほどではないが堅調に推移している。マスク等の感染防止対策商品はほとんど売れていない。
		スーパー(店長)	単価の動き	・売上、来客数は前年並みを維持しているものの、単価の上昇がみられてこない。安価な物へと志向がシフトしている(東京都)。
		スーパー(営業担当)	来客数の動き	・前年の今頃は異常な状態のため、それと比べると今年は販売量並びに買上単価が大幅に落ち込んでいるものの、来客数の増加が支えている。さらに、販売促進経費を抑えているため、営業利益段階においては堅調に推移している(東京都)。
		スーパー(販売担当)	単価の動き	・客単価が1割下がっている。求人数、応募数も減少傾向にある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・深夜の来客数はほぼゼロに近いくらいで厳しい状態が続いているが、昼の売上には変化がない。安定した状態が続く、新型コロナウイルス慣れしたかのようである。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用が続いているため、近隣の大きな公園の門も閉鎖されており、来客数が減っている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・土建関係と思われる職人の客には、仕事が多少ある人と、全くない人がいる。それぞれどういう現場なのかは分かりかねるが、仕事のある人となない人が半々の状況なので、余り良くはないのではないかと。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の再発出に加えて、梅雨入りが早くなった地域もあったため、全体的に天候が悪く、販売量の低下にもつながっている（東京都）。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言の更なる延長に伴う影響が大きい。特に、当社が扱う呉服、ドレス等は、ハレの日需要が高く、イベント開催そのものが不透明な状況にある（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	来客数の動き	・中高年層の外出がまだまだ少なく、衣料品への影響が大きい。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・他店の値段を見て来店する客が増えているので、即日成約が減ってきている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。前年度の5割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の新規受注は取れるが、半導体不足が原因で、新車の登録台数が前年より減少している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量も来客数も低水準で変わらない。必要があつての代替になっている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・展示会ができないため、新車の販売が全体的に落ちてきている。自粛のために車に乗る機会が少ないので、買換え需要も減っている。また、車検などでも、自粛で走行距離数が短いため、工賃も下がっているし、オイル交換や点検の異常も減ってきているので、全体的に良くない（東京都）。
		乗用車販売店（渉外担当）	お客様の様子	・先行きが不透明なため、客が購買に慎重になっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言にも世間が慣れてきて、特に変化はない（東京都）。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・販売量の動きが前年と比べて多くなると、景気が良いとはいえない。
		高級レストラン（仕入担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言等の影響で新型コロナウイルス禍における現状に変わりはなく、厳しい状況が続いている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・曜日によってばらつきがあるものの、周辺はIT関係企業が多いので、客足が減少している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が再発出されているので、飲食店には余り客は来ない。もう手の打ちようがない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・3か月前の2月1～27日までの前年比は、売上38.7%、来客数36.9%である。今月5月1～30日までの前年比は、売上128%、来客数139.7%である。3か月前は緊急事態宣言で2店舗休業していたが、今月は1店舗の休業である（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置、緊急事態宣言等により、ツアー募集が思うようにできていない（東京都）。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・前年の緊急事態宣言下と比べると、今回は、昼間の街の人出はとて多いが、残念ながらタクシーの利用は比例して増えておらず、利用増に直結していない。夜間はというと、一部を除き、飲食店での酒の提供がないため、仕事にならない。残業を終えた会社員を多くのタクシーで奪い合うしかなく、正直に言って打つ手がない。新型コロナウイルスのワクチン接種が徐々に進んでいるので、これが最後の緊急事態宣言だと信じて耐え忍びたい（東京都）。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍のなかで緊急事態宣言が再発出されたので、人の動きが更になくなってきている。特に、夜は本当にひどいものである。昼間も多少影響が出ている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・客からの問合せ状況は、2019年の同月と比較してほぼ同じである。緊急事態宣言再発出の影響を受けて、一定数の訪問拒否やキャンセルはあるものの、前月比でも増加傾向にはない（東京都）。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・小規模な仕事だが、CMの依頼が例年並みに出てきている。時計やアクセサリ、眼鏡などの需要が堅調なためではないか（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響が長期化しており、積極的な営業活動が制限されるなか、限られた客の奪い合いの状況は変わっていない。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・引き続き緊急事態宣言が延長される可能性があり、積極的な営業やイベント開催ができず、獲得が鈍化している。カスタマーセンターの機能高度化、DXによる販売網の再整理を行っている最中である。
		通信会社（局長）	お客様の様子	・前年よりは契約数は上向きであるが、前々年よりは相当悪い状況は変わらず、しばらくはそのトレンドが続く（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規契約、コース変更共に必要最低限のプランを選択する傾向は変わらない。
		通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・案件が少しずつ増加してはいるが、人材があふれており、今後の動向が不透明である（東京都）。
		通信会社（経理担当）	競争相手の様子	・携帯電話を主軸にセット割引販売する競合他社に負けている。携帯電話、テレビ、インターネット、固定電話、電気、ガスなどセット割引にする範囲が広がっており、乗換えを条件に、解約違約金、解約工事費の補償金、無料期間など、より高額な特典を得るためには、全てのサービスを乗換えすることになっている。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染再拡大の影響が強く、当社の訪問営業を避ける世帯も多いなど、営業機会の減少から新規契約獲得件数が伸び悩んでいる（東京都）。
		競輪場（職員）	それ以外	・建て替え後の開業を7月に予定していたが、新型コロナウイルスの影響は大きく、10月に延長した。不確定要素が多いが、景気的には変わらない。ポジティブに考え、客を迎える準備期間、検討期間が延びたと捉えて頑張りたい。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響を心配していたが、多少の商品単価低下はあるものの、来客数の減少はみられない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・民間の相談件数は非常に少なくなっている。新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったが、収束の見通しは立たず、しばらくは厳しい状況が続くそうである。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・計画等の話は多少来てはいるが、実になる手前で全て止まってしまう（東京都）。
		設計事務所（職員）	それ以外	・どちらかといえば、売上面、発注件数からはやや下向きのように感じるが、悪いとまではいえない（東京都）。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・3か前と比べて大きな変化はない。以前と同様、土地の仕入れに苦戦している。不動産業界はどの企業も同様なので価格が下がらない。逆に、販売が好調で在庫がなく、悩ましい状況である。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・展示場への来場者数はここ数か月ほとんど変わりがなく、販売量にも大きな増減はない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・最近、来客数が少しずつ減ってきている。また、物を買うことやレンタルするということに対して、客がとて慎重になっている。そのようなことから、なかなか商売に結び付かないというのが現状である。
		一般小売店 [和菓子] (経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、降雨日が続く、客足が鈍くなっている。
		一般小売店 [文具] (販売企画担当)	来客数の動き	・今月は天候不順で降雨日が多かったこと、また、新型コロナウイルスの影響で商店街などの店も閉まっていることもあってか、来客数が極端に減っている。外商の案件等も大幅に減っている。
		百貨店（広報担当）	来客数の動き	・緊急自体宣言再発出に伴う休業要請による営業フロア縮小や、外出自粛マインドの長期化によって来客数が大きく落ち込み、現時点では回復の兆しが見えない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画宣伝担当）	来客数の動き	・店が営業していないがもしれないと思っている客がいる。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数が減っている。
		スーパー（経営者）	競争相手の様子	・4月が一番悪く、5月に入って多少は良くなってきているものの、3か月前と比べればまだまだ悪い。特に、前年の反動と、近くに競合店ができたことの影響が大きい。
		スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルスの影響で内食需要が高まり、小麦粉、パスタ、カレー、調味料の動向が大きく伸びたが、今年はその反動で前年伸びた商材の売上が未達である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響と、店が周りに増えていることからそう感じる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言で来客数が減っている（東京都）。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・コンビニ店舗は2極化しており、ショッピングセンターや都心に立地する店舗は悪くなっているものの、郊外や住宅街に立地する店舗は良くなっている。これは、20時に店が閉まったり、酒の提供がなかったり、緊急事態宣言が延長されたことなどの影響によるものと考えている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が続いていることで、大型連休の来客数も例年に比べると少なく、客の戻りも鈍いように感じる（東京都）。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・緊急事態宣言延長の発表以降、スーツ、ワイシャツ、スラックスなどのビジネス衣料品購入目的の来店客が大きく減少している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言下において、販促活動自粛が実店舗に大きな影響を与えている。その反面、インターネット通販は好調に伸びている。パソコン等のテレワーク需要商材はほぼ一巡したようである（東京都）。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・業種によって違いがあると思うが、新型コロナウイルス変異株が広がるなかでの緊急事態宣言下で来客数が減少している（東京都）。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・前年同月と比べると販売達成率は100%を超えているが、先行きに不透明な点が多く、なかなか購入検討に踏み切れない客も以前に比べて増えていると感じる。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・生産遅れがあり、売上につながらない。新型コロナウイルスの影響により景気動向が鈍化し、販売量が減少傾向にある。
		住関連専門店（統括）	来客数の動き	・外出自粛等によって、人の動きが大分少なくなっている。
		その他専門店【ドラッグストア】（経営者）	来客数の動き	・前年の今頃はマスク不足等で新型コロナウイルスバブルだったため、来客数も大幅に増えていた。今年はドラッグは不調だが、全社合わせると前々年並みである。
		その他小売【ショッピングセンター】（統括）	販売量の動き	・当社はショッピングモールを運営しているが、まん延防止等重点措置の影響で非常に厳しい。飲食店でのアルコール提供自粛、周辺住民の巣籠り等の影響が大きい。前年のように専門店休業とはなっていないが、全体としては前々年の同時期の8割強となっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が延長され、アルコールの提供ができないことが相当厳しく効いてきている。料理屋全般にいえることだが、飲みに行く意味がないので、全く客が来ない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・度々の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用で、経済がかなりスローダウンしてきている。車で都内を走っても通行量の少なさに驚かされる。知人がテナントで入居している東京駅付近の商業施設を兼ねたビルのオフィスの出社率は20%ほどだと聞いている。当社の飲食部門も、時短とアルコールの提供中止により、特に夜間の売上が激減している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が長引くことによって経営状態が悪くなり、倒産、廃業する企業が増えている（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・緊急事態宣言が延長され、申込みが一切発生していない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長でタクシーの利用者が増えている。自分自身も元の状態に戻っていないことを実感しているし、それが普通のことと感じてしまっている（東京都）。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言発出中のため、客が新規設備投資を控えているため、販売量が減少してきている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客宅へ直接訪問しての提案や営業活動は今後も困難なため、新しい手法への切替えを行っているが、当面は客としても外部からの接触は避けたいという傾向は変わらないので、厳しい状況が続く。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・契約件数がやや減少している。反響営業の問合せはほとんど変わらないが、緊急事態宣言下で攻めの接触型営業ができなくなっていることが原因である（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の再度の延長により、景気低迷が継続している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響なのか、ある年代から上の客の来店頻度がだんだん鈍っている。
		その他サービス [福祉輸送] （経営者）	来客数の動き	・再度の緊急事態宣言で、客の消費に対する感覚が冷え込んでおり、来客数も少ない（東京都）。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染の長期化によって、設計等の計画もなかなか前に進まず、かなり厳しい状況である。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・受注の伸びが2～3か月前と比べると鈍化している。
		その他住宅[住宅管理・リフォーム]（経営者）	競争相手の様子	・新型コロナウイルス禍が長期化しているため、同業者の中にも廃業したところがあると聞いている。
		その他住宅[住宅資材]（営業）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響とともに東京オリンピック前の仕事を抑える傾向が顕著になっており、建材の動きが鈍ってきている（東京都）。
	×	一般小売店[家具]（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が再発出されているので当然だと思うが、とにかく客が少ない（東京都）。
	×	一般小売店[食料雑貨]（経営者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が適用されている。
	×	一般小売店[文房具]（経営者）	販売量の動き	・東京都の緊急事態宣言の影響で、取引先飲食店からの売上が激減している。一般の買物客についても、来客数及び商品の購入点数が減少しており、売上が2割強落ち込んでいる（東京都）。
	×	一般小売店[生花]（店員）	来客数の動き	・3か月前の3月はお彼岸や、今年は余りなかったが、卒業式シーズンで需要のある月である。5月は母の日があったが、さほど売れなかったため、やはり3月の方が良かった（東京都）。
	×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されず、このままの営業条件であるならば、来客数の伸びは期待できないが、解除され、お中元商戦やイベントも行うことができれば、集客を期待できる（東京都）。
	×	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の適用区域に指定され、来客数が減少し、厳しい状況が継続している。婦人紳士衣料等の動きが特に厳しい。
	×	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染の収束が不透明で、緊急事態宣言の延長に次ぐ延長により、客の消費行動の慎重さがずっと継続している。全館休業ではないものの、生活必需品のみの販売であり、消費マインドも上がらず、身の回りの景気は悪いとしか感じられない（東京都）。
	×	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の再発出に伴い、生活必需品以外は休業したため、来客数が減る上、販売できるカテゴリーが限られており、直近3か月に比べて売上が大きく減少している（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	百貨店（営業担当）	単価の動き	・3か月前は緊急事態宣言が明けて、それまで買物を我慢していた客が、ブランド品や宝飾時計など、高単価な商材を買っていた時期だが、現在は豪華品と呼ばれるアイテムは展開を中止しているため、3か月前と比べて3割ほど売上が減少している（東京都）。
	×	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言再発出に伴う営業休止要請への対応により、営業範囲が限定されている（東京都）。
	×	百貨店（販売促進担当）	それ以外	・緊急事態宣言が長引き、経営的なダメージはもちろん精神的なダメージも大きい。東京オリンピックの開催後、間違いなく再び緊急事態宣言が出る。今の東京オリンピック開催のための政府の動きには絶望感がない（東京都）。
	×	百貨店（副店長）	販売量の動き	・4月中旬頃までは復調の気配が見えたが、3回目の緊急事態宣言発出以降、休業要請もあり厳しい状況が続いている。そのなかでも、食品などのイエナカ需要は比較的堅調である（東京都）。
	×	百貨店（財務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言等の再発出に伴い、臨時休業の対応を実施している（東京都）。
	×	スーパー（ネット宅配担当）	競争相手の様子	・競合店の出店と、天候不順で降雨が多く、売上が苦戦している。
	×	その他専門店 [貴金属]（統括）	それ以外	・緊急事態宣言の再発出により休業店舗が増加したため、売上が減少している（東京都）。
	×	その他専門店 [雑貨]（営業担当）	それ以外	・東京都からの営業自粛要請に伴い休業している（東京都）。
	×	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍が長期化するなかで、収入は減少傾向にあり、預貯金も目減りして、景気は悪化の一途をたどっている（東京都）。
	×	その他小売[生鮮魚介卸売]（営業）	お客様の様子	・今年に入り、緊急事態宣言中ではなかった日数が28日間しかないのだから、景気うんぬんという問題ではない（東京都）。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・5月中旬から来客数が激減している。当地域はまん延防止等重点措置の対象地域だが、飲食店にとって時短営業及び酒類提供自粛は致命的である。当店では飲料売上は総売上の15%程度だが、客は酒類提供自粛に起因して来店を控えているようである。
	×	高級レストラン（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の施策はやむを得ないと考えるが、飲食店にとってアルコール提供NGは致命的である。令和元年5月と比べると売上が20.2%となっている（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・時短営業とアルコール提供禁止で、売上はほとんど半分以下になっており、景気はかなり悪い。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・政府の要請に従って酒を提供していないので、夜はほぼ閉めている。昼も、客がほぼ1人でしか来店しないので、来客数が半減している。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言のなか、20時までの時短営業をしている。アルコールも出せないで、本当に最悪というか、この先どうなるのか、悪くなる一方である（東京都）。
	×	その他飲食[居酒屋]（経営者）	それ以外	・営業時間短縮、アルコール類提供禁止なので、良くなりようがない（東京都）。
	×	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・当市も4月28日からまん延防止等重点措置の対象地域になり、酒類の提供ができないことに加えて、宴席、宴会関係が全くなく、稼働率が20%を切っている。今は最悪の状況である。
	×	都市型ホテル（支配人）	それ以外	・新型コロナウイルス感染拡大防止対策による緊急事態宣言の再発出、まん延防止等重点措置適用の影響により、宴会客、合宿客等が消失している。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置によるアルコール提供の禁止に伴い、ディナー帯のキャンセルが相次ぎ、元々少ない予約が更に減っている。宿泊も相変わらず低空飛行が続いており、婚礼宴会についても例年の半分以下の売上と、厳しい状況になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・緊急事態宣言中で、単価を下げても、来客数の動きが変わらず、客が来ていない。売上は、単価が低下し、来客数も減少するという負のスパイラルに陥っている(東京都)。
	×	旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で販売量ゼロである。困ったものである。
	×	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・緊急事態宣言の再発出により、繁忙期であるゴールデンウィークの売上が2019年度と比べ30%程度、5月累計で50%程度となっている(東京都)。
	×	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス変異株の感染拡大によるまん延防止等重点措置、緊急事態宣言の影響で、教育旅行以外の問合せや受注が一切ない。
	×	旅行代理店(販売促進担当)	販売量の動き	・3回目の緊急事態宣言が発出されて、今月の販売量はぼろぼろになっている。具体的には、国内の主力事業である修学旅行が秋への延期になり、ほぼ数字がなくなっている。海外は推して知るべしである。また、国内も、緊急事態宣言の影響でゴールデンウィークに個人旅行を多く受注できなかったため、悪くなっている。少し良い情報としては、新型コロナウイルスのワクチン接種の手伝いやそれに付随した業務が発生しているため、それが数字を補っている(東京都)。
	×	旅行代理店(営業担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言延長という状況下では、旅行需要どころか来店客も皆無である。
	×	タクシー運転手	それ以外	・1日の売上が数千円にしかならない。経費を引いたら大赤字である。経済産業省の一時支援金で何とか食いつないでいるが、この新型コロナウイルス禍で耐え忍ぶことができず、廃業に追い込まれる個人タクシー事業者が続出している。とにかく仕事にならないほどの不況である(東京都)。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・昼間はコンスタントに仕事があったので何とかしのげていたが、ここにきて昼、夜と仕事が減り、非常に厳しい日が続いている。夕方6時頃からほとんど無線が鳴らず、1~2時間に1回営業できれば良い。駅からの利用もまた同じである。
	×	タクシー(経営者)	来客数の動き	・終日アルコール提供自粛が致命的である。ただでさえ2割ほど落ち込んでいた売上が、4割に迫る落ち具合となっている。大都市圏以外からタクシーがなくなる日もそう遠くない気がしている。
	×	タクシー(団体役員)	来客数の動き	・飲食店でのアルコール類の提供がなくなったことにより、大きな景気減退につながっている。
	×	ゴルフ場(従業員)	それ以外	・今はまん延防止等重点措置の対象地区に属している。食料調達以外の買物に行かない、外食をしない、旅行に行かない、不要不急の外出をしない、多くの人々がこの生活を1年以上続けている。景気は悪くなっているとしか言いようがない。
	×	ゴルフ場(経理担当)	来客数の動き	・ゴルフは新型コロナウイルス禍でも取り組めるスポーツとして注目を浴びているが、来場客の中心は単価の低いメンバーであり、コンペや接待などの法人利用は皆無で、収益性は低い。大衆コースと位置付けられる同業他社においては、高稼働率を維持し、強気の料金設定を行っているところもみられる。まん延防止等重点措置の影響でアルコール飲料の提供ができず、レストラン部門は多額の損失を被っており、到底利益を出せる状況にない。
	×	その他レジャー施設[ボウリング場](支配人)	それ以外	・緊急事態宣言による休業要請が出ているため、営業ができない(東京都)。
	×	その他サービス[フィットネスクラブ](マネージャー)	お客様の様子	・緊急事態宣言の再発出により休業している(東京都)。
	×	住宅販売会社(経営者)	来客数の動き	・当社は不動産ディベロッパー業と総合建設業である。当社が都内数か所に保有している賃貸用のホテルでは、緊急事態宣言が延長となったことなどもあって観光客及びビジネス客がほとんどいない。そのため、ホテルからの賃料がきちんと入らない。また、建設業の方でも、公共工事以外の新規プロジェクトは少なく、民間からの受注はほとんどない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
企業 動向 関連 (南関東)		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年の今頃は新型コロナウイルスの経済への影響を受け、40%減の受注量だったが、現在は海外向けを中心にコロナ前の受注量が多かった時期と同じか、それを超える受注量となっている。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・前年の反動で2けたの伸びである（東京都）。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年の2月以降、受注量が前年同期より増加してきている（東京都）。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が2年前の水準に戻っている。原材料等の価格改定も取引先で対応してもらえている。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・取引先からの見積りの要望が増えているように感じる。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き新型コロナウイルスの影響を受けているものの、僅かながら物量が増加傾向にある。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	取引先の様子	・民間の公共事業が順調に進んでおり、人手不足になっている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・東京オリンピック、パラリンピックの政府方針が開催の方向に固まってきたように見受けられ、開催に向けた準備が始まっていると感じる。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・酒類関係なので、3か月前も非常に悪かったのだが、回復の兆しが全く見えない（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前は徐々に回復してきている感があったが、まん延防止等重点措置が適用されている現在は、年配客の来店が減っている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月くらいずっと景気が悪い（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言の延長により、今後の経済が更に冷え込み、不況が拡大することに懸念を抱いている。この先どのような動きができるのか不安である。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・足元の受注は3か月前よりは多いが、例年の季節要因であり、マーケットは縮小したままである。とりわけインバウンド需要がないのが苦しい。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、化粧品容器の受注が芳しくない。基礎化粧品はそうでもないが、メイクアップ関連、特に口紅容器は壊滅状態である。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で取引先における海外からの受注が少なく、新年度の仕事の動きがまだ鈍い。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年、大型連休前後は仕事量の増減が激しく、今年も同じような動きであることに変わりはない。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・大手自動車メーカーの生産台数は前年を上回る予想であるが、半導体不足による工場の稼働停止の可能性も出てきており、どう転ぶかはまだ不透明である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今のところ予定どおりに受注できているが、これから先の仕事が見当たらない。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・荷主の業種によって濃淡がある。食品系は好調だが、建築資材関係は引き続き伸び悩んでいる（東京都）。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・現在は閑散期となり、物量は例年どおり落ち着いており増えてこない。
	金融業（役員）	取引先の様子	・資金需要の側面より判断している。主に、小売、サービス業については横ばい、建設業関連は新規工事に動きがあり、不動産、賃貸関連は比較的活発な動きである。	
	不動産業（総務担当）	取引先の様子	・ビル賃貸業を営んでいるが、緊急事態宣言により飲食店舗は営業時間の短縮に加え酒類の提供ができず、さらには出生率の低下でビル内の人口が減少しているため、売上が激減している。賃料を減額しても営業継続が困難と嘆く店舗が増えている。退去されても、その後入居してくれる店舗も皆無なので、ギリギリのところまで賃料の減額要請に応じている状況である（東京都）。	
	広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルス禍ではあるが、前年のどん底状態に比べれば、若干だが戻りつつある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		税理士	それ以外	・夜に近隣駅まで歩いているが、新型コロナウイルスの影響で商店街、飲食店が全て閉まっている。テイクアウトだけ営業している店もあるが、本当に静まり返っている（東京都）。
		社会保険労務士	取引先の様子	・ここにきて雇用調整助成金の問合せが増えているようである（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気の復調がみられない。取引先工場等の稼働状況も相変わらず悪く、受注量が低い状態が続いている。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規契約については現状の人手不足を反映した時間単価で契約できているが、既存契約の単価値上げができない状況にある（東京都）。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が再発出されたこともあり、学校のクラブ活動などは停止、イベントも中止となっている。地方への出張撮影も延期となっており、低迷が続いている（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑、ゴム印、名刺印刷をしている。客は法人関係で、納入する客と個人の来店客とがいる。印鑑リフォームの注文を全国から通販で受けているが、3か月前の2月と比べると、やや下向きになってきていると感じる（東京都）。
		その他製造業〔鞆〕（経営者）	取引先の様子	・得意先は店頭販売が主体なので、新型コロナウイルスの影響で客足が鈍くなれば、当然売上は伸びない。それに伴う大波小波で状況がなかなか良くならないというのが現状である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響による稼働日の減少と、緊急事態宣言下での需要の落ち込みにより、売上が大きく減少し、厳しさが増してきている（東京都）。
		輸送業（経営者）	競争相手の様子	・運送業では客単価の大幅な安値営業が始まっているようである（東京都）。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・製造業や建設業は横ばい若しくはやや上向き傾向にあるものの、飲食業、サービス業は非常に苦戦している。良い業種と悪い業種の2極化が更に激しくなっている。
		金融業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の様子だが、緊急事態宣言が再発出され、飲食業はますます売上が減少している。不動産業では、テレワーク需要が高まっているので、土地やマンションの価格が上がっている。土地の仕入価格が高いので物件購入が難しく、売上が減少傾向にある。巣籠り需要によりレンタルビデオ業やタブレットの売上は好調である。全体的に景気は落ち込み傾向である（東京都）。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・閉店した百貨店跡地に、家電量販店を中心とした大型店舗が5月末にオープンする。また、前年に閉店した食品スーパーの跡地にも、別の食品スーパーがオープンした。緊急事態宣言のなか、当事者は大変な思いをしているだろうが、いずれにせよ市民にとっては吉報である。この間、多くの地権者は収入が途絶え大きな痛手だったが、50年以上を掛けて皆の賛同を得て開発した駅前広場なので、大いなる発展を望んでいる（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・新規案件が減少していることと、宣伝予算が少なくなっていることによる（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・まん延防止等重点措置などの影響により、飲食店では売上の大幅な減少が続いている。
		税理士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響はまだ続いており、時短営業をしている飲食店への協力金給付が遅い都道府県があり、経営が苦しくなっている。ワクチン接種は始まったが、景気を動かす状況には至っていない。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・いつもより受注量及び相見積りの件数が減ってきている。また、案件の先延ばしが増えている（東京都）。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子	・4月は良くなかったが、今月に入り、建設土木工事関係が少し動いている。ただし、絶対量がないため、今までは隔週土曜日休みだったのが、今度から毎週休みになってしまっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	出版・印刷・同 関連産業（所 長）	取引先の様子	・緊急事態宣言によりイベント等の計画が縮小や中止となり、かつてないほど案件数が激減している。
	×	プラスチック製 品製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・今年に入ってからほぼ緊急事態宣言が発出されているなか、悪さがずっと続いているが、更に全体の動きも悪くなっている。
	×	建設業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・新型コロナウイルスの影響で流通が全く止まっているので、経済的には良くない。
	×	建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の再発出の影響などもあり、木材価格の高騰や品薄状態がある。
	×	経営コンサル tant	取引先の様子	・金属加工の中小企業では、大幅に受注が減っている。発注先の手企業への輸出減少や半導体の入荷減少による製造停止などで、影響を受けている（東京都）。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社 （営業担当）	求人数の動き	・募集が前々期比と同等にまで回復している（東京都）。
		人材派遣会社 （経理担当）	採用者数の動き	・緊急事態宣言下ではあるが、派遣における契約件数イコール雇用者数が大手企業を中心に増加傾向にある。派遣社員にも在宅勤務が増加していることも要因の一つかと思われる。業界特性は特でない状況である（東京都）。
		人材派遣会社 （営業担当）	周辺企業の様子	・製造業でのエンジニア派遣ニーズは、まだ通常には戻っていないものの、徐々に回復傾向にある。
		求人情報誌制作 会社（営業）	求人数の動き	・まん延防止等重点措置適用で景気が停滞しているところではあるが、人々の慣れもあり、以前のようなどん底というわけではない。店も時短営業で開店しているし、それなりの経済活動になっているのではないだろうか。その上で、景気も少しずつ上向いているという印象である。
		職業安定所（職 員）	採用者数の動き	・前年同月比で新規求人数の減少傾向は変わらないが、減少幅は縮小しており、紹介件数及び就職数は増加に転じている。
		人材派遣会社 （社員）	それ以外	・会社の業績などに変化はないが、自身を含めた周囲の消費動向は、新型コロナウイルスの影響で低迷したままである（東京都）。
		人材派遣会社 （社員）	採用者数の動き	・企業からの求人数が絞られ、前年比での受注が少ないまま推移しており、5月はその動きが顕著である（東京都）。
		人材派遣会社 （支店長）	それ以外	・引き続き新型コロナウイルスによる影響がある。紹介求人は低調で、派遣求人は期間限定でのニーズは比較的多いが、長期案件は少ない（東京都）。
		人材派遣会社 （営業担当）	求人数の動き	・特需的な短期求人は継続してあるものの、長期安定型の求人は横ばいである。
		民間職業紹介機 関（経営者）	採用者数の動き	・2021年新卒採用の内定率が50%を超え、企業は次年度採用に向けて動き出している。インターンシップのイベントも好調に推移している。ただし、多くの企業は新型コロナウイルス禍での様子見状態で、それほど積極的ではない（東京都）。
		民間職業紹介機 関（経営者）	採用者数の動き	・新規求人数が少なくなっている。また、求職者数もかなり限定され、紹介しにくくなってきている。まだしばらくはこの状況が続く（東京都）。
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・3か月前と比べて求人数が減少している。
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言の影響もあるが、受注が3か月前比で20%以上減少している。前年同月比では200%以上の推移となっているが、前々年の求人数の70%程度の水準しか戻っていない（東京都）。
		求人情報誌制作 会社（広報担 当）	採用者数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の延長があり、先行きが見えず、事業計画を立てにくくなっている。イベントの開催をなかなか決められず、計画できたとしても、実行できるかどうか分からないことが多く、事業に支障が出ている。資金繰りの予想ができないと採用計画が立たない（東京都）。
	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は緊急事態宣言の影響下にあった前年と比べて微増程度であり、全体として低調傾向にある（東京都）。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔大学〕 (就職担当)	それ以外	・緊急事態宣言の再発出に伴い、休業している商業施設が多いため、人が動かず、景気が停滞している(東京都)。
	×	求人情報誌製作 会社(所長)	求人数の動き	・採用数が激減している。
	×	新聞社〔求人広 告〕(担当者)	求人数の動き	・とにかく最悪の状態である。医療関係と一部の配送関係の募集があるだけで、他はほとんど出ない。

5. 甲信越(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)		遊園地(職員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大や、学生団体の減少があった2月と比較すると、今月もいまだに緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の影響で、集客は伸び悩んでいるが、ゴールデンウィーク期間にCS(顧客満足)施策や、チケット販売の強化を実施した結果等により、1か月間の来場人員は、2月実績の2倍以上に増加している。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・1人当たりの買上点数が多くなっている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・車検及び一般整備は目標に達している。車両販売は新車の問合せや契約も若干ではあるものの増えてきている。車両販売に関しては、客の職業が、新型コロナウイルスの影響を受けているかどうかで、大きな格差が生じているようである。
		自動車備品販売 店(従業員)	単価の動き	・半導体不足の影響を受け、カーナビ等の高額商材が品薄で、売上が伸びにくいなかでも、客単価、来客数共に、前年を超えているので、景気はやや良くなっている。
		観光型旅館(経営者)	販売量の動き	・3か月前は新型コロナウイルス感染拡大の第3波により緊急事態宣言が発出されていたため、ほぼ売上がなかった。現在は第4波による緊急事態宣言中だが、僅かではあるものの、人が動いており、週末は25%程度の稼働率で営業している。しかし、平日は宿泊客がいないため、2週間前の時点で予約の入っていない日は、全て休業としている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・前年比148%と回復してきたが、前々年と比べると、まだ65%である。
		ゴルフ場(経営者)	お客様の様子	・予約は順調に推移している。相変わらずシニア層の来場が多い。ゴルフ場側で新型コロナウイルスの感染防止対策を強化することで、安心してプレーしている様子がうかがえる。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・ホームページからの物件問合せや見学の申込みが増加している。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・駅前立地のため、隣県の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用地域に囲まれて、主要幹線の新幹線乗車率が下がったままで、売上回復が見込めない。
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍のなかでも、生活自体は落ち着いているように見受けられる。ただし、消費意欲はみられず商材の動きは良くない。夏商戦に入ってきたものの季節商材の動きも鈍い。
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	販売量の動き	・夏物商材、エアコン、冷蔵庫等が、例年より少し遅れている。
		スーパー(経営者)	お客様の様子	・売上は前年比で3%増、来客数は5%減となっている。前々年度との比較では売上、来客数共に23%減である。新型コロナウイルス発生以前には、なかなか戻れない。現在、中小企業等事業再構築補助金の申請を地元信用金庫の支援を受けて準備中である。大きなイベントがないので、店内でパンの製造を検討中である。
		コンビニ(エリア 担当)	来客数の動き	・前年と比較して天候が悪い。
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・人が街に出てこない。
		家電量販店(店 長)	来客数の動き	・緊急事態宣言下での往来の影響もあり、来客数減少が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったが、ゴールデンウィーク中も客の動きが鈍く、回復までには時間が掛かりそうである。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前は、通常、降雪というハンディキャップがあるため、12か月のなかでも客足が非常に弱い時期である。例年なら今月はゴールデンウィーク等があり、天候も良く、2月に比べて客足がぐっと伸びる時期だが、当県独自の営業時間短縮要請に伴い、それほど変わっていない。昼の営業は良くなったが、ディナー営業は前月に比べて10%ほど落ちている。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・相変わらず、客の動きが全く止まった状態で、この先の受注もかなり減少している。ゴールデンウィークも動きが悪く、家族での日帰り旅行は見受けられた。新型コロナウイルスの感染状況もあるが、3か月前と変わらない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・地方の新型コロナウイルス感染拡大に加え、高齢者向けのワクチン接種の混乱等で、動きが止まっている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・OTT（オーバー・ザ・トップ、インターネット回線を通して行われるコンテンツ配信サービス）の問合せが増えてきている。テレビからオンデマンドでの視聴にシフトしつつある。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・陽気が良くなり、近県からの観光客が多少動きつつある。ただし、緊急事態宣言発出中の地域からの個人客、旅行社のツアー設定はほとんどなく、当然インバウンドも皆無である。新型コロナウイルス発生以前と比較すると、入込客数は3割にも満たない。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は1人暮らしで亡くなった高齢者のアパートの整理の仕事が多かった。亡くなった方と同様に高齢の兄弟からの依頼である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数は低位にある当地だが、客の気持ちは大都市並みで、完全な自粛ムードである。元々、来街者が減少傾向のところ自粛ムードが重なり、全く人影のない時間が長くなっている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年の巣籠りの反動と天候不順で、客足が鈍い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比では非常に悪い。買上点数は上がっているものの、1品単価が下がっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響を受け、来客数が落ちている。感染状況がずっと厳しいので、なかなか売上が伸びてこない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月は、午前中から昼にかけてと、客の動く時間帯がかなり変わってきて、厳しい状況になっている。理由は分からないが、客の動きが変わってきている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体不足の影響で新車の供給が滞っており、販売に影響が出始めている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・車両販売は台数的には、前々年実績を取り戻しつつあるものの、軽自動車の割合が増えており、従来のような購買意欲はみられない。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・いまだに新型コロナウイルスの感染拡大が収まる気配が見られないため、客足は遠のいている。
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのまん延の終息が見えないなか、度重なる時短要請にもかかわらず、補助金額も減額傾向にある。「もう限界」という事業者の声も聞こえるようになってきている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・今まで滞っていた仕事も、徐々に処理して落ち着き始めている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・新学期が始まり、クラブ活動もいろいろと動いて良くなると思っていたが、新型コロナウイルスの関係で、クラブ活動のほとんどが中止になっている。また、運動会も取りやめのところが多い。このような状況は店が始まって以来で、どうなるかと不安で仕方がない。
	×	百貨店（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったことでもあるのか、今月に入り、特に、高齢者の来店が極端に減っている。地方百貨店にとって上顧客である高齢者の来店が少ないのは、非常に影響が大きい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他専門店 [酒] (店長)	販売量の動き	・平日が非常に良くない。当店は月曜が休みだが、土日は多少客が来店しており、店を開けていることが功を奏している。もし、土日を休みにしていたら、もっと悲観的状況になっているのではないかと。
	×	スナック (経営者)	来客数の動き	・夜、出歩いている人はほぼいない。当地では時短も営業自粛要請も出ていないが、商売にならないため店を閉めているところも多い。新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったことで、接種が終わるまでは出歩かないようにしているのだと思う。とにかく、1日も早く接種を進めてほしい。耐えることしかできない。
	×	スナック (経営者)	お客様の様子	・皆さん御存じのとおり、飲食店はまるで駄目である。客の様子や来客数の動き等いろいろあるが、辞めていく店もある一方で、新規開店する店もある。今どうなっているのか本当に分からない。この新型コロナウイルスにはとても困っている。
	×	都市型ホテル (支配人)	お客様の様子	・緊急事態宣言発出により、宿泊予約のキャンセルが増えている。また、飲食店の時短営業も影響し、ビジネス客の業務後の楽しみも半減されており、出張の取りやめが目立っている。
	×	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出された都道府県からの利用が大幅に減少している。また、県独自に飲食関係への時短営業要請が出たことで、平日夜の動きはほとんどないに等しい。前年の、初めての緊急事態宣言中よりは利用状況は良いものの、ここ数か月でみると大幅に減少している。
	×	その他レジャー施設 [ボウリング場] (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言期間の延長、まん延防止等重点措置の対象地域拡大等により、外出自粛傾向が強まっているのか、客の動きが非常に鈍い。特に、夜間の来客は厳しい状態が続いている。
	×	その他サービス [貸切バス] (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの変異株感染拡大で、仕事はほとんどない。
	×	その他サービス [クリーニング] (経営者)	それ以外	・当地は観光地なので、観光業が非常に悪く、景気は良くない。
企業 動向 関連 (甲信越)		-	-	-
		建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染に対する警戒が長期化し、一部ではあるものの、気の緩みもみられる。もう一度気を引き締める必要がある。
		食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が再発出されており、延長案も飛び交い予断を許さない状況である。食料品は影響が少ないとはいえ、シェア、前年と比べた金額共に、上がってこない。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、相変わらず地元の警戒レベルも高く、ワークショップの来店者及び予約も低迷している。店舗販売、生産品の受注量も僅かである。
		金融業 (調査担当)	取引先の様子	・半導体関連の需要増加に伴い、製造業の需要も増加している。非製造業は新型コロナウイルスの影響を受けている。首都圏等で緊急事態宣言の期間が延長されたため、特に、観光関連需要が低迷しており、2極化傾向が続いている。
		金融業 (経営企画担当)	取引先の様子	・東京都に緊急事態宣言が発出されているが、新型コロナウイルス疲れではないが、観光産業は3か月前の宣言時と変わらない。他業種の取引先の様子も3か月前と変わらない。
		食料品製造業 (営業統括)	競争相手の様子	・緊急事態宣言等の再延長により、酒類を提供している飲食店等への影響が大きく、業界全体が大変苦戦している。
		電気機械器具製造業 (経営者)	それ以外	・通常量産品の部材ですら、入荷が懸念されている。
		新聞販売店 [広告] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・相変わらず、新型コロナウイルスの感染拡大が売上に大きく影響している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	食料品製造業 (製造担当)	それ以外	・原材料の仕入価格が今までで最高に上がっている。他社では、2回目の値上げを要請したら、それが直接の原因か分からないが、スーパー2店舗から契約を切られたそうである。原価、売価を上げないとやっていけないが、状況を見誤ると売上もなくなる場合がある。ただ、行動に移さないと結局は倒産に追い込まれるので、やるしかない。
	×	その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークは緊急事態宣言発出の影響で、デパートの宝飾売場が休業となり、路面店では来店客の大幅な落ち込みから、2~3日来客がほとんどないときもあるほどで、今年になってから、売上が最も悪い月となっている。新商材を見てもらいたくても、訪問を断られることも多く、売上のめどが立たない。
雇用 関連		-	-	-
		*	*	*
(甲信越)		求人情報誌製作 会社(経営者)	周辺企業の様子	・前月は募集広告を掲載する企業が多少増加したものの、今月に入り県内の新型コロナウイルス感染者数が増加したため、前月よりも募集広告掲載企業数が減少している。
		民間職業紹介機 関(経営者)	求人数の動き	・求人数が以前よりは良いものの、やや足踏み状態となっている。正社員採用が弱めで、採用基準も高くなり、慎重な姿勢がうかがえる。
		人材派遣会社 (営業担当)	それ以外	・夕方や土日の車や歩行者の通行量が減っているため、消費が激減している。一方、ドライブスルーの店舗等の利用は混んでいるものの、一時的なものであり、それ以外の客はない。ボーナス商戦どころかボーナスが出ない企業が更に増えるだろう。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・3月に増加し始めた宿泊業や飲食サービス業の求人が、他県ではあるものの、3度目の緊急事態宣言発出により、4月から大きく減少している。
	×	-	-	-

6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		コンビニ(商品 企画担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言発出中ではあるものの、一定の来客数があり3か月前と比較しても増えている。
(東海)		商店街(代表 者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチンもようやく接種が始まり、景気は良くなっていく。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、新型コロナウイルス感染者が急激に増加し、まん延防止等重点措置の適用から緊急事態宣言が発出され、また延長されたことで、週末を中心に来客数が増加しており売上増加につながっている。
		スーパー(商品 管理担当)	来客数の動き	・アウトドア人気による消費者の購買意欲の高まりにより、来客数は上昇してきている。目新しい物に対する購買行動で客単価も上がっており、売上は上向きであるといえる。
		スーパー(販売 担当)	来客数の動き	・コロナ禍で緊急事態宣言が発出されているなか、どこにも行けないため、特に土日はスーパーなどに家族連れで来店するので、売上は多い。
		スーパー(プ ロック長)	お客様の様子	・来客数について増加はみられない、特に夕方以降、夜間については変わらず減少が続いている。緊急事態宣言が出されても前年のような米、パスタ、小麦粉の買いだめはみられないが、客単価の上昇がみられ高額の動きが好調である。
		コンビニ(エリ ア担当)	来客数の動き	・前月と比較して来客数は3.7%、前年比でも2.3%改善できた。特に重点管理商品の米飯、ファーストフードが4~10%良くなっている。話題性のある冷凍ケーキで、冷凍食品が25%改善された。
		コンビニ(店 員)	販売量の動き	・暖かくなり、アイスクリーム、ドリンクや新商品の売上が好調である。
		乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・コロナ禍ではあるが、皆もう余り気にする様子もなく、今までどおりに車を買換える客が増えてきている。
		設計事務所(経 営者)	来客数の動き	・急ぎの案件依頼が数件あり忙しい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・コロナ慣れで、客足もほどほどにはある。真剣に考えている人のみに絞られた来場者が多い。
		商店街（代表者）	それ以外	・当地域には緊急事態宣言は出ていないが、客足は相当減っている。周辺の道路も、以前と比較すると混雑が減っているように感じる。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・季節的に繁忙期であるが、売上はほぼ横ばいである。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	販売量の動き	・取りあえず緊急事態宣言が解除されるまで、余り事態は変わらない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・ブレーキ、アクセル、急ブレーキの繰り返しで専門家という名の素人集団に振り回されて早1年半になるうとしている。海外勤務の邦人救済という名目の一時帰国者によって変異株が持ち込まれ、更に感染規模の拡大が進む。ワクチン後進国の行く末を案じる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・余り変化はない。生け花教室に納める花も、新型コロナウイルスの影響で前年から休んでいるところもあり元には戻っていない。店売りに関しては、そこそこの売上をキープしている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言でがたがたである。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・当地では3か月前と比して変わらない状況が続いている。隣接する県との関係から、当地でもまん延防止等重点措置が6月20日まで延長された。客のマインドは回復傾向にあるが、実際の消費は3か月前と変わっていない。付き合いの幅を狭くして様子を見ており、飲食店も生産者も必要以上の物は作らないといった様子で、変わらない状況が続いている。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	販売量の動き	・来客数は増えているが、購買に関しては、まだまだ様子見が続いているようである。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・大都市圏の緊急事態宣言及び隣県独自の非常事態宣言が延長し、自粛生活が続いている。来客数は例年には全く及ばず、滞在時間も短い。新型コロナウイルスに気を付ける生活が続いている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・相変わらず自分が必要とする物は、金額に関係なく購入する傾向がある。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・やっと持ち直してきたかと期待した矢先のまん延防止等重点措置の適用である。5月5日以降は激減している。
		スーパー（店員）	単価の動き	・まん延防止等重点措置により、5月の大型連休でのステイホームの呼び掛けで、自宅での飲食での買い出しがやや見受けられた。ただ、飲食店などの材料買い出しの注文が下げ止まりのままである。
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・緊急事態宣言が延長され、現状の消費者の生活様式に大きな変化はない。コロナ禍での消費パターンは各家庭でほぼ確立されているようで、売上にも大きな変化はない見込みである。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・梅雨入りし、来客数が減った。しかし、客単価が上昇し変わらない。
		コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・当地に緊急事態宣言が発出され大幅な減少が予想されたが、それほど大きな影響は出ていない。4月と同等の水準を維持している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年比でみると売上、来客数共に大幅に回復・伸長しているようにみえるが、実際のところ前々年比ではまだまだ10%近く足りておらず、3か月前と比べても改善していない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・2月の緊急事態宣言時に来客数が下落したが、今月も同様の動きであった。人通りなど店前の通行量は2月と比較しても大きな変化はみられないが、時短営業や企業の残業縮小などの影響などもあってか、夜間の人の往来が少なくなっていると感じる。このため、店舗でも夕夜間の売上、来客数が落ち込んでいる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数、売上共に前年比ではプラスであるものの、新型コロナウイルス発生以前の前々年比でみると、まだ7割程度の回復である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・来客数は前年比107%と好調だが、前年のコロナ禍での比較であるため、物足りない経営数値となっている。現在も当地では緊急事態宣言が継続されており、景気の回復は感じない。3か月前と比べても、悪い意味で状況の変化は感じない。
		衣料品専門店（販売企画担当）	お客様の様子	・来客も注文も、電話すら止まっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新規客の来店はかなり少なくなっており、月の販売台数の1割にも満たない。辛うじて自社客からの乗換えと専用業者への販売で前年並みの台数を維持している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言が出され、積極的な店頭への誘客が行いづらい。客へのアプローチが取りにくく、自社客中心の活動となっている。客との会話においても、家計における収入減少を心配する声が多く聞かれ、元気がない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・今月は新製品が出たことによる一時的な受注があるものの、緊急事態宣言が出ている地域があるなかで景気は上がっている気配はなく、かといって極端な落ち込みもない。ゴールデンウィーク前後も変わらず停滞が続いている。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・周りの同業者の話聞いても、余り良い話は出てこない。一般の人の話でも良い話は出てこない。
		その他飲食[仕出し]（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言による時短、休業などの制約で、落ち込みが激しい。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前の2月もそうであったが、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置が適用されると、当地は対象地域ではないが、一斉に市民、県民の動きがぱたっと止まって外出を自粛してしまうという現象が発生して、ほとんど稼働できていない。来客数が余りない状況で過ごしている。
		観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・今月は確かに3か月前より2倍の売上はあるが、それも時節柄のことで、前々年と比較すると20%にも満たない。したがって、ずっと低迷が続いており回復の兆しは一向にない。来月も緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が延長となり、景気の動向は更に悪化するものとみる。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・高齢者のワクチン接種はスタートしたものの、何の影響なのか、全く新型コロナウイルスの感染者数が減らず、むしろ当地は増えている状況である。旅行の新規予約は緊急事態宣言中には厳しい。前年同様の休業状態と同じにもかかわらず、給付金がないのは困る。個人経営者に手厚い補償を考えてほしい。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・旅行事業としては依然どん底の状態である。客との会話には旅行の話題もなくなった。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・コロナ禍の緊急事態宣言下で新規旅行申込みはほぼない。申込みがあった旅行も中止や延期にする客が大半で、前月に引き続き底辺の状態にいる。スポーツ団体も、学校関連は部活動の自粛などで対外試合などが中止となり、それに伴う貸切りバスや宿泊などの取消しが発生している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ゴールデンウィーク中はデパートや繁華街にも結構人出があつて良かったが、緊急事態宣言が発出されて酒類提供の自粛が始まってからは、酒を提供する飲食チェーン店などが休業になり、夜8～9時になると街はがらがらになってしまった。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・3か月前と比べて余り変化はない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・中小企業の訪問営業をしているが、在宅ではなく通常どおり営業をしている。客も普通どおり仕事をしており、受注数も変わりない。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・今月の入場者数はほぼ順調に推移している。予算的には少し足りないものの、コロナ禍で苦戦した前年と比べると大幅に伸びている。好調であった3か月前と比べると、今月は予算的に入場者数及びレストランの売上はややマイナスであるが、景気は変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他レジャー [プロスポーツ] (経営管理 担当)	お客様の様子	・来客数の減少から、景気は変わらないと判断する。
		美顔美容室(経 営者)	販売量の動き	・現在美容キャンペーン中であるが、皆マスクをして いるため余り必要ないと思っている客が多く、関連す る化粧品が余り出ない。
		美容室(経 営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークはあったが、皆外出を自粛しイ ベントもなかったため、前月に引き続き来客数は少な かった。
		その他サービス [介護サー ビス](職員)	販売量の動き	・年度替わりに加えて、緊急事態宣言で介護リフォー ム工事の引き合い自体が減少している。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・大きな変化はみられない。当地にも再度の緊急事態 宣言が発出され、どういう影響が出てくるかである。
		その他住宅[不 動産賃貸及び 売買](営業)	お客様の様子	・県独自の非常事態宣言が出て、部屋探しの客の動向 が減少している。
		商店街(代表 者)	お客様の様子	・緊急事態宣言が発出されたため、マインドとしては かなり悪い。
		商店街(代表 者)	販売量の動き	・前月同様、まん延防止等重点措置が適用されて以 降、客は必要最小限の商品しか購入しないため、販売 高につながらない。
		一般小売店[結 納品](経 営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスを何とかしてほしい。
		一般小売店[書 店](営 業担 当)	販売量の動き	・新年度用の受注は落ち着いたが、緊急事態宣言下で の影響も余り感じられず平常期に入ったものと思われ る。
		百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・来客数が全体的に減っている。平日でも少し売上は あるが、以前の4分の1くらいに下がっている。夕方 の会社帰りの客も少なくなって厳しい状態である。土 日になると若干の来客はあるが、スタッフが暇そうな 売場という印象になっている。
		百貨店(販売担 当)	来客数の動き	・ゴールデンウィークの来客数は思っていたよりもあ り、購入意欲のある客の来店で高額品が稼働したが、 期間を通して苦しい営業となった。緊急事態宣言の延 長で土日休業となり、状況は変わらず厳しい。
		スーパー(販売 担当)	販売量の動き	・来客数に余り変化はないようだが、購入点数が伸び 悩み、売上の起爆剤になるような商品群も出ていな い。
		スーパー(商品 開発担当)	販売量の動き	・緊急事態宣言発出により、売上は前月よりアップし たが、前年比100%以上で推移していた3か月前と比 較すると、5月は前年比98%前後になる見込みであ る。
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・元々連休明けは来客数が減ると覚悟はしていたが、 緊急事態宣言が発出されたのと重なり、商店街の人通 りは全くなく、なじみ客の来店もさっぱりであった。
		衣料品専門店 (売場担当)	来客数の動き	・スーツの販売は立地にもよる、全国チェーンの衣料 品量販店の間にあるため人通りはまずまずだが、とに かくスーツを着る仕事が減り在宅ワークとなって、来 客数が減った上に購買意欲も落ちている。
		衣料品専門店 (売場担当)	お客様の様子	・外商客の消費動向は、直近2～3か月には特に買い 控え等はなかったが、5月に緊急事態宣言が発出され たことが影響し、店外催事も当日の見合せ等があっ た。高額商品に対する消費は厳しいように思える。
		家電量販店(店 員)	販売量の動き	・前年は巣籠り需要で売上が良かった。それと比較す れば落ちてきている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・半導体不足の影響が顕著に表れてきている。新車の 納期も軒並み数か月待ちになっていて、新車を受注し ても車が来ない状況である。売上は前年比9割ほど で、厳しい状況と言わざるを得ない。緊急事態宣言が 発出されてから、客も遠出を控えるようになってお り、メンテナンス用品の売上も落ち込んでいる。
		乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・業種によってかなりいろいろな格差が出ているが、 相対的に厳しくなっている人の方が多いため、景気は 下向きになっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大のため、商業施設の新設や改装工事などで延期又は中止になる物件が出ている。その他の物件についても同様に着工が延びている物件がある。
		その他専門店 [貴金属](経営者)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が適用されて以来、商店街の通行人数が大幅に減少し、同時に来客数も激減した。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からは非常に良い傾向であると思えるが、商店街の飲食店は9割が休業で、ただし補助金がある。当社も売上が大幅減少で補助金もなく、経済・経営面では悪化の一途をたどっている。
		その他専門店 [書籍](店員)	単価の動き	・緊急事態宣言が延長されたが、前年と比べると巣籠り需要も減っているし人出も多くなっている。前年は巣籠り需要の影響もあって書籍の売上は伸びたが、春頃から例年どおりに戻ってきたため、前年と比べると2割ほど売上は落ち込んでいる。
		その他専門店 [雑貨](店員)	来客数の動き	・新型コロナウイルス対策の影響である。
		高級レストラン (経営企画)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加、まん延防止等重点措置の適用、さらに緊急事態宣言によるアルコール販売停止と段階ごとに来客数が低下した。特に平日、夜は急降下した。テイクアウトが若干増加した。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で外出する客が少なく、時短営業の影響もあり売上が例年と比べ落ち込んだ。
		その他飲食[ワイン輸入] (経営企画担当)	それ以外	・取引先の飲食店は、5月の緊急事態宣言で酒類の提供が制限されたために、売上の確保がままならず、仕入れも大幅に控えている。事業を継続できない事例も増えてきた。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・予約が入ってもすぐキャンセルになる。
		旅行代理店(経営者)	それ以外	・自動車関連企業は好調な反面、新型コロナウイルスの影響によって旅行業や飲食店等時短営業等を強いられている業界のリストラ、閉店が進みつつある。コンビニの棚も空きが目立ってきており、商品の仕入れを抑制している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスのためである。
		通信会社(営業担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が出てから、やや来客数が少なくなったように感じる。
		テーマパーク職員 (総務担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言の対象となる県が追加され、期間の延長も検討され始めている。
		その他レジャー施設[鉄道会社] (職員)	来客数の動き	・当地でのまん延防止等重点措置の適用や独自の非常事態宣言等、コロナ禍が収まらない状況で観光列車への影響が大きい。
		理美容室(経営者)	来客数の動き	・余り人が出歩いておらず、景気は良くない。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・やはり新型コロナウイルスの影響が大きい。
		設計事務所(職員)	お客様の様子	・打合せのなかで、景気に関しては、全くといっていいほど好調になる感じは見受けられない。
		その他住宅[住宅管理] (経営者)	単価の動き	・今まで下請に任せてきた仕事も自社でやらないと合わないくらい厳しい。この先、利益確保が難しくなってきた。
	×	商店街(代表者)	販売量の動き	・ステーション系売店は、駅の売店や空港店などがたがたである。商店街もシャッター通りと化して、たがたである。
	×	一般小売店[酒類] (経営者)	販売量の動き	・飲食店でのアルコールの提供自粛要請により、当社の取引先は食中心の飲食店でも今回ほとんど休業になり、当社のような業務用酒販店は売上が9割以上減少となった。従業員はほとんど休みで、出勤しても午前中の2時間程度の業務で終了してしまう。そういう日々がずっと続いている。倒産の危機である。
	×	一般小売店[惣菜] (店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言で明らかに来客数が減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による百貨店への土日休業要請や新型コロナウイルス感染者の高止まり傾向により、外出が一層手控えられており、来客数も大きく激減している。一部の高額品に顕著な動きはあるが、全体の売上のカバーには至っておらず、マインドは前年同期より落ち込んでいるように感じる。
	×	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長が決定したことによって、需要の更なる落ち込みがみられる。レジャーや物品購入に対する消費マインドは、一層冷え込んでいるように感じる。
	×	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言により来客数が大幅に減少した。
	×	百貨店（計画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出により来客数が急激に減少しており、特に一般客の購買意欲の減退を感じる。
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・前月に引き続き、小売店、飲食店で来客数の減少がみられる。
	×	コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響により、夕夜間の来客数が減少している。特に22時以降は全く客が来ない。
	×	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は早く梅雨入りをして天候が不順で、飲料水を始めとして売上が低迷した。
	×	家電量販店（フランチャイズ経営者）	来客数の動き	・4月以降、来客数の減少が続いている。元々イベント買いの少ない店舗であり、高齢客が多いため外出自粛の影響を受けている。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売はとても厳しい月となった。半導体絡みで生産がストップしており、また、ゴールデンウィーク以降も需要が盛り上がりえない状態が続いている。
	×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全体的に良くなく、余り売れなかった。動きはそう悪くはないが、3か月前と比べると悪い。たまたまなのかは分からないが、値段が高いと売れないのは間違いない傾向である。
	×	その他専門店【雑貨】（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後、街中心部への客足が7割程度になった。とはいえ、大型商業施設でも集客のある生活必需品は営業可能で、ダメージは思ったよりは少ない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・5月11日までのまん延防止等重点措置の適用から5月12日の緊急事態宣言の発出で、客足がほぼない日が多くなっている。
	×	一般レストラン（従業員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用対象地域に入り、時短営業、アルコール禁止となり、売上は全く上がらない。
	×	一般レストラン（従業員）	お客様の様子	・とにかく一部の常連客しか来ない状態である。
	×	都市型ホテル（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長により6月の予約客からキャンセルが相次いでいる。加えて新規の申込みも低迷していることから、打つ手が見当たらない。
	×	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・緊急事態宣言で、会議中心の宴会は7月までキャンセルとなった。レストランは夜の集客がない。宿泊は、10%台の稼働である。
	×	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・都市部の緊急事態宣言が延長され、当地もまん延防止等重点措置の適用で旅行に行く人は全くいないので、仕事がゼロの状態である。
	×	旅行代理店（経営者）	それ以外	・3度目の緊急事態宣言の発出により、その他の業種もそうだが、特に旅行会社は、3か月前も今月も厳しい状況が続いている。
	×	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新規契約件数、解約件数共に、前月あるいは前年同月と比べて大幅に減少しており、人が動かなくなっていることを感じる。
	×	通信会社（サービス担当）	それ以外	・大掛かりなシステム移行に伴い、注文が受けられない状態が続いているため、今月の販売量は激減している。
	×	レジャーランド（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等の自粛要請により低水準の来場者数となった。また、時短営業、アルコール提供の停止要請や、例年よりも早い梅雨入りも来場者数の減少に影響した。
	×	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・緊急事態宣言が延長されたためである。
	×	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きから、景気は悪くなっていると判断する。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	美容室（経営者）	それ以外	・世界的な新型コロナウイルスの感染拡大で、本当にここ1年半は客の出入りが少なくなった。当店の客は高齢化しているため、外出が怖いということからパーマを掛けるのも少し加減している。
	×	理容室（経営者）	お客様の様子	・もういい加減に新型コロナウイルスの話は終わりにしたい。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍で外出自粛のため客が集まらない。先行きが不安である。
	×	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・リフォームの依頼が少し増えてはいるものの、新築住宅は少ない。
企業 動向 関連 (東海)		*	*	*
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北米自動車向け設備では凍結されていた計画が再開したり、納期の短い引き合いが増えている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・職場が変わり、コロナ禍でも比較的好調な半導体関連となった。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体の需給問題により、納期遅れなど市場への影響が出始めているが、受注そのものがなくなったわけではない。通信関連機器の受注、販売共に好調で、今年から来年に掛けてその需要は拡大していくものと思われる。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前々年までの実績には至っていないが、前年と比べ物量が若干ではあるが増加傾向にある。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・5月下旬時点では、前年と比べて受注が回復しつつある。荷主の業種によっては、好調なところとまだまだ沈んでいるところと明暗が分かれている。
		不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・活発な売買案件はあるが価格は横ばいである。
		化学工業（総務秘書）	それ以外	・新型コロナウイルス第4波による6月20日までの緊急事態宣言の延長が決定した。長く続く関連業界の経済停滞、自治体の支援金支出は、その後を考えると気が重い。東京オリンピックによる景気高揚も期待できない。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量が減少している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言のため、客先の業界でほとんど設備投資をしていない状態が続いている。なかなか売上の見込みが立たず、非常に悪い状態である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工作機械関係及び自動車関係については前年を上回る状態ではあるが、その他の製品については例年の10～15%台で横ばいが続いているため、全社的にはほぼ横ばい状態が続いている。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・航空機業界は相変わらずずっと底で、月の半分くらいしか稼働がないような状態である。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	それ以外	・緊急事態宣言下での外出控えによる。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・本来なら景気はやや良いと答えるところであるが、半導体不足で完成車の生産量が減っているため、どちらともいえない。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・日用雑貨の物量は安定しており利益を出しやすい状況が続いている。取引先の生産材メーカーの多くはいまだに前年同月の物量を割り込んでいるが、物量が安定しているため利益に余り影響はない。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・停滞という意味で変わらないのではなく、3か月前の景気がややよくなっている状況から、今月もそのやや良い状況を維持しているという意味で景気は変わらない。荷物の取扱量が微増しており、少しずつ前年と比べて伸びている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍の状況はしばらく変化がないと考える。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（従業員）	取引先の様子	・景気は、トータルでみて今は若干良い傾向にある印象を受けている。緊急事態宣言などにより飲食店などは低迷しながらも、製造業は比較的忙しいモードであったり、オンラインサービスなどは逆に発展をしている。そういった2極化が発生しており、良いか悪いか分からない状況のため、景気としては変わらないと判断した。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・コロナ禍の生活に特に大きな変化はない。外出の自粛により、観光関連、飲食関連業者を中心に、引き続き経営は厳しい状況が続いている。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりも雨の日が多い上に、新型コロナウイルスの影響により出費を控える傾向も続いており、売上の厳しい状況は継続している。
		不動産業（開発担当）	競争相手の様子	・不動産取引において、コロナ禍以前と比べ積極的な投資が停滞していると感じる。ただし、悪化しているとは感じない。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったばかりなので、客も各イベント等に関して様子見の感がある。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・出荷量が通常どおりである。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・飲食店は、時短要請があるので相変わらず業績は悪い。それ以外の業種については、毎月の決算を見ても比較的好調で、この状況は変わっていない。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・今月も前年比で増収増益となる見込みであり、コロナ禍ではあるが、この数か月間、売上は順調に推移している。取引先の客足も好調であると聞いている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークも営業したことで来客数は伸びた。しかし、その後のコロナ禍対策で来客数は伸び悩んでいる。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月は4月より良く、ゴールデンウィークを挟みながらもまずまずの結果であった。ただ、競合先の仕事量、取引先や飲食店の状態などをみると経営環境は良くない。まだまだ注意が必要と考える。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症について、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が延長になった影響が大きく、全般的には受注量、販売量共に大幅に減少し、景気はやや悪い。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・注文見込みの数量連絡を受けて生産する製品で、実際の注文で後倒しになる依頼が増えている。客の稼働率が下がっている。
		鉄鋼業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・鋼材価格は、メーカーの国内需要を無視した今までに類を見ない幅の値上げが行われ、このまま進めば我々中小企業の存亡に関わる危機である。自動車などの客にはほぼ値上げを行わず、我々中小流通業者だけの分を大幅に値上げするのは法律にも抵触するのではないかと恐れ、関係省庁の調査を求めたい。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・仕事量は余り見込めず、残業を取りやめようかという動きになっている。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言による仕事の延期や中止の話が出てきていると、取引先や同業者から聞いている。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・飲食店だけでなく、開店休業状態の小売店が多い。新型コロナウイルスの給付金では家賃も払えないと知り合いの店主が嘆いていた。今後、体力のある大手だけが生き残っていく前兆が、ありありと感じられる。
		通信業（法人営業担当）	それ以外	・副業を持つ人や複数の仕事をする人が増え、生活維持がかなり大変な人が大勢いる。新型コロナウイルスのワクチン接種も遅々として進まず、ストレスが社会にまん延している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・取引先は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により休業に追い込まれていたり、売上が減り厳しい状況となっている。新たな分野への活路も難しい部分がある。
		公認会計士	それ以外	・コロナ禍が長引いているため、中小企業では経済活動の制約による売上減少、生産性低下やコミュニケーション不足等の悪影響が出ている。中堅・中小企業の給与・ボーナスは、減少傾向にある。
	×	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の影響により受注量が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	通信業（総務担当）	それ以外	・緊急事態宣言の対象地域が増えたり継続されることで、人の移動が一段と制限されているため、経済活動が低迷し続けている。
	x	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言下における土日の大型商業施設への営業自粛要請以後、一気に折込チラシの出稿枚数が落ちた。
雇用 関連 (東海)		-	-	-
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣終了時の後任について、3月時点では依頼が出なかったが、6月契約終了後の後任の依頼が出てきている。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症の第4波が到来しているが、自動車関連企業においては顕著な影響は出ていない。半導体不足という不安要素が続く。
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・新型コロナウイルス環境下でも、将来の事業予測に基づいて人に対する投資を積極的に捉える企業は増加していると推察する。
		人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・前年5～11月頃まで落ち込んだ開発従事者の労働時間は、12月以降回復基調にある。4月は前年と同水準まで回復した。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ホテル関係はいまだに何も無い。
		人材派遣会社（企画統括）	求人数の動き	・新規求人数は前年と同程度で、引き続き低調に推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者数も大きく変動しておらず、例年と変わらない動きである。
		職業安定所（次長）	求人数の動き	・有効求人数の前年同月比を3か月前と比較すると、製造業等の一部で増加に転じる業種が見え始めているほか、減少幅は改善傾向にある。ただし、前年同月は既にコロナ禍の影響を受けており、前々年同月との比較では、全体として大きく減少している。
		職業安定所（次長）	求人数の動き	・求人数などをみると、余り変化が感じられない。
		人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言の延長により先行きに明るい要素がなく、企業の採用意欲が低下している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言の影響である。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣求人数は回復傾向にあったが、緊急事態宣言の影響もあり、業種によっては一層の減少傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・当地には緊急事態宣言が出ていないが、長い新型コロナウイルスの環境下で消費は低調となり、企業への深刻な影響を感じる。なかには好調な業種や企業もあるが、ほんの一部である。ここ最近、景気は更に下降していると感じる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・緊急事態宣言が発出され、求人数が大きく減少した。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言の延長、変異株の影響及び製造業における半導体の供給遅延等、様々な理由により企業においては先行きが見通せない状況であり、依然として厳しい状態が続いている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者が増加している。
	x	-	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)		*	*	*
		商店街（代表者）	来客数の動き	・入込客は、前年4～5月が新型コロナウイルスの影響を受け、前々年比で6～7割の減少と極端に悪かった。前年からみれば、少しばかり良くなっているとみているが、前々年の水準までは回復していない。イベントの中止が続いており、良い材料は少ないが、前年よりは人の流れが出てきているようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・デイリーに関しては、ほぼ前々年程度で推移しているが、法人関係で景品等の動きがまだまだ良くないという感じである。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・早めに夏の準備を進めているようで、エアコンの販売が好調である。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・自動車の受注は順調に伸びているが、半導体の品薄状態などの影響で生産が遅れつつあり、納車までの日数がかかなり伸びている。場合によっては購買意欲に影響が出ないかと懸念している。
		自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・来客数は例年並みで、外出自粛ムードを感じない状況まで至っている。ナビゲーション等は半導体不足で品薄状態だが、販売量としては前々年からも伸びている。ガソリンも単価が高止まりだが給油量としては伸びており、車を使用した移動が活発になっていると考える。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・放送、通信サービス共に、契約者数が前年同期比を上回り、前々年同期の水準に戻りつつある。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月は新規分譲地の販売が始まり、土地と住宅のセット販売が進んでいる。契約予定の商談数がまだ多くあり、まだこれから商談も増えるとみている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・大都市圏での緊急事態宣言を受け、連日のマスコミ報道の影響からか、地方でも外出を控える傾向があるように感じる。人出や車の交通量が減っている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・お買い得商品の売行きは良いが、定番商品の動きが少ない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・販売量も単価も変わらない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・ここ数年で初めて前年比100%を超えている。とはいえ、前年4月は新型コロナウイルスの影響から売上が激減している月だったため、回復したわけではなく下げ止まったという感じである。ただし、下げ止まっただけで回復の兆しは見えていない。週末の利用客や、夕方など比較的単価の高いものが売れる時間帯の動向が依然として不調なままである。
		コンビニ（営業）	来客数の動き	・コロナ禍のなか、来客数が減少したままで、上昇の兆しが見られない。しかし、心理的な要素が大きいとみられるので、現状の生活様式でも通常の生活が問題ないという状況になれば、上向きとなる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・少し明るい兆しが見えてきたと思ったら、緊急事態宣言の発出や新型コロナウイルスの感染拡大で、急速に売上も来客数も落ちている。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・例年新しいモデルが出るのと来客数が一気に増えるのだが、この時期は外出規制の影響のせいか、客が少なく厳しい状況が続いている。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・時期や市況の違いはあるが、とりわけ変化がみられず、横ばいである。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは皆が巣籠りになるという前提で、仕入れを少し多めにしたが、見込みが外れてうまく売れなかった。仕入れ過多で悲鳴をあげている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・都市圏の緊急事態宣言を受け、ゴールデンウィークの帰省者数減少に伴って連休期間中の来客数が伸びなかった。その上県内の新型コロナウイルス感染者数が増加傾向になるにつれて、平日、週末共に来客数が更に減少している。販売量では今月は長雨の影響もあり、夏物商材の動きが鈍いが、家中需要と母の日ギフトなどの動きは良く、身近な生活用品や必需品は堅調である。
		通信会社（職員）	販売量の動き	・キャンペーンなどは打てないが、客の自発的な流れで何とかなっている状況である。
		通信会社（店舗統括）	販売量の動き	・来客数はある程度維持しているが、販売数につながない。
		その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・コロナ禍、第4波、変異株がキーワードになっていて、ひしひしと自分に近づいてきており、営業を継続するだけで大変な状況である。客も同様で、積極性や前向きとは程遠い行動になってきている。
		美容室（経営者）	それ以外	・高齢者へのワクチン接種の完了がまだ不透明であり、高齢者の来店が新型コロナウイルス発生以前に戻っていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・4～5月の受注高は、当社だけでなく他社もまずまずだったと聞いている。この状況が続くのか、すぐに失速するか、まだまだ予断を許さない。
		住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・展示場への来場者数及び客の反応に大きな変化はない。新型コロナウイルスの影響は余り感じない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・来客数が激減して今年で最も少なくなっており、厳しい状態である。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・県内の新型コロナウイルスの感染拡大に比例して外出を控える傾向が強まり、来客数が大幅に減っている。また、まん延防止等重点措置の適用に伴って隣県からの来店もなく、閑散とした状況が続いている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中は北海道展やスイーツなど食品の企画で集客したが、婦人服を始めとするアパレルへの買い回りが少なく、依然として販売不振の傾向が強い。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間の来客数が多く、催事や雑貨を扱う店舗などには多くの客が来店していた。しかし、ゴールデンウィーク以降、新型コロナウイルスの感染者数が増加し、特に平日の来店が減少している。高齢者、子連れのファミリー客が減少しているほか、男性客の来店が極端に減少した感じがする。出張、旅行などの外出が減少し、カジュアル衣料品が苦戦している。テレワークも都会ほどではないが増加し、クールビズの需要も減少している。ファッションへの感度が低めな地域でもあり、今は我慢して購入をちゅうちょする傾向がある。
		スーパー（仕入担当）	単価の動き	・原油、原材料の値上げにより価格が上昇している。買上点数も上がらず、景気としてはマイナス傾向である。
		スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・ワクチン接種が進まない影響もあるとみているが、消費者の外出機会が減少している。
		家電量販店（本部）	来客数の動き	・ここに来て来客数の減少が目立っている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・5月は修学旅行で2000名ほどの予約があったが、緊急事態宣言などでほとんどが延期や中止になり、500名ほどに減少している。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、客の動きが鈍くなっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・年間で一番売上が大きいゴールデンウィークは、今年も緊急事態宣言の影響で、全く人通りがない。ゴールデンウィーク明けも悪天候が続き、売上は前々年の半分以下である。集客施設である庭園や美術館が休業しているので、飲食店関連を中心に休業している店も多い。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	お客様の様子	・市内に酒類提供の自粛が要請されている。夜はもちろん、昼間にビールを飲みながら食事をとることもできなくなり、ランチタイムだけ営業していた飲食店も営業をやめてしまっている。不要不急の外出自粛の要請があり、街から人影が消えている。もちろん観光客の姿も全くない。
	×	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・3か月前は第3波が収まり、第4波となる前の平穏な時期だった。ゴールデンウィークの繁忙期を第4波が直撃し、前半の来客数が激減した。駅前や高速道路沿いの店舗は特に顕著である。前々年比30%を割り込むスタートとなった店舗もある。
	×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・16日にまん延防止等重点措置地域となり、20時までの営業と酒類の提供が禁止となったため、ランチ営業の集客は例年の3割ほど、夜の集客はほぼなくなっている。
	×	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・連休明けから、客足がバタッと止まっている。前年からのコロナ禍以降最悪である。
	×	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク明けに自治体独自の緊急事態宣言が発出され、その後、国からまん延防止等重点措置地域に指定されたことなどにより、当地域では消費者の行動が制限され、人の動きが止まってしまっている。郊外は比較的人がいるが、市中心部や繁華街、駅周辺の日頃人が集まる地域は閑散としている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・テレビなどマスコミから、景気が回復しないとの報道が耳に入る。当地では営業の制限はないが、アルコールや夜の外出の自粛などで、半殺し状態だと同業者から聞いている。当店も当月は大赤字で、これが続けばお手上げ状態である。
	×	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前々年の通年ベースと比べると3割強の水準で、新規予約とキャンセルがほぼ同数で予約保有数が増えない状態で推移している。最低水準の底をはっている感じである。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・緊急事態宣言やまん延防止重点措置の適用により、人の流れが止まっている。宿泊や宴会はほとんど利用がなく、レストランは要請に応じ1店舗のみ19時までの営業で、5店舗は休業している。これらにより全体売上高は前々年から70%以上ダウンしている。
	×	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス変異株の出現に伴い、出張、個人旅行共に3か月前より明らかに予約数が減っている。県民向けの割引キャンペーンの効果も限定的である。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・当地域での新型コロナウイルスの感染がなかなか収まらない。6月13日までまん延防止等重点措置が適用されたこともあり、終日酒類の提供ができなくなり、ほとんどの飲食店が休業している。夜の街には全く人がなく、タクシーは昼夜を問わず売上が80%減少している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・ビジネス客、夜の繁華街共に、非常に動きが少ない。
	×	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が長引き、まん延防止等重点措置も適用されているなかで、人流や人の移動を抑制する動きにより観光客が激減している。来客数が少なく休業する日も多くなっている。
企業 動向 関連 (北陸)		*	*	*
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・前月と同じ傾向にある。引き続き家庭消費向けが中心の市販用商品は堅調に推移している。また、結果的に家庭消費となるものだが、テイクアウト需要向けの業務用素材も好調で、全社レベルで前年を上回っている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工作機械の販売量及び受注量が業界全体としても、当社単体としても増加している。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・全国的な新型コロナウイルスの感染拡大傾向はあるものの、北陸は比較的少なかったこともあり、3月頃より受注量が上向き傾向である。
		税理士（所長）	取引先の様子	・客の様子では、飲食業や観光業、観光バス関係は、相変わらず厳しい状態であるが、それ以外の建設業や製造業関係、卸売では大分受注が上がってきており、仕事が忙しくなりつつあるという手応えを感じている。特に建設業は、収益力も改善の傾向がみられ、客も比較的好決算が出てきているようである。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の販売量は変わらず推移している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況及び自動車業界の半導体不足の影響が継続しており、今一つ受注の回復に力強さが欠ける状況が続いている。
		輸送業（役員）	受注量や販売量の動き	・他社の動向が話として入ってこない。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・なかなか仕事が出てこない、良い情報がないという状況が続いていると同業者から聞いている。
		司法書士	取引先の様子	・資産管理会社や子会社の設立、世代交代の役員変更等の依頼が多かった一方、後継者がいないため会社解散の依頼もあり、2極化の状況にある。
		精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・4月後半から5月末までの取引先での販売状況は、特に関東や関西エリアの緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響が大きいようにみられ、春先までの状況より悪くなっていると考えられる。
		建設業（経営者）	それ以外	・前月同様、当社がメインとする公共土木工事は順調に発注されており、受注もしているが、コロナ禍で移動を伴う交通、飲食、宿泊では客がた減りで、イベントやライブコンサートも軒並み中止されている。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・第4波の影響でかなり落ち込んでいる感触がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	金融業（融資担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の継続により、取引先の業況に改善の兆しが見られない。また、貸出しの条件変更の相談が増え始めている。
雇用 関連		-	-	-
		*	*	*
(北陸)		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・介護、清掃など一部業界では人手不足感からコンスタントに求人広告の出稿はあるものの、メーカーや小売などの分野では採用に積極的な動きが見られない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・コロナ禍でまん延防止等重点措置などが適用されているなかでも、商工業を中心に事業を再開する意向が強い。また、消費者もそれらサービスの利用を強く希望していることから、厳しい状況ではあるが、意欲は高いと感じる。とはいえ、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための規制が強く、景気回復への道は進めていないと判断せざるを得ない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新しい求人が少ない。コロナ禍となってから企業の求人は低調で、先行きの見通しがきかず、求人を出しづらい状況があるのではないかとみている。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、採用を抑制する企業が増えつつある。景気が良くならないので新たな採用、求人申込みも減少している。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の数が伸びない。
		新聞社〔求人広告〕（営業）	それ以外	・まん延防止等重点措置の適用から全ての活動が鈍化している感じがする。
	x	-	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		通信会社（社員）	販売量の動き	・コロナ禍の悪影響が続いているが、サービスの加入件数は減っていない。
(近畿)		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・百貨店の外商の上位客に関しては、時計や絵画といった高額品の商談が多くなっている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・2～3月と比べ、新型コロナウイルスの感染者数の急激な増加により、家庭での内食需要が旺盛である。前年に大きく伸びた各種の調味料も、1年後の今も引き続き売れている。相変わらず、マスクや除菌関連グッズも好調に推移している。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・競合店対策を強化している。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・3度目の緊急事態宣言が発出され、外出の自粛で家庭内での食事が増えている。それに伴い、調理関連やすぐに食べられる商品などの販売量が増加している。特に、前年は逆風が吹いた総菜が伸びている。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響もあり、白物家電の売上が良いなど、景気は比較的上向きとなっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されるなか、ステイホームのストレスから外出を我慢できない人が来店している。来客数は平常どおりに戻りつつあるのが現状である。
		家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・実売にはまだつながっていないが、客からの問合せは増えていると感じる。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍の状況であるが、客の不動産購買意欲は低下するどころか、上昇しているように感じる。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・賃貸マンションといった収益物件を求めている投資家は多く、不動産会社による開発用地の取得は、競争が厳しくなっている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で来客数が少なく、苦戦している。特に60～70代の客がメインの客層となるため、非常に苦しい。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・売上はほぼ横ばいとなっている。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・飲食店関係の注文が激減しており、厳しい状況が続いている。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で来客数が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・営業フロアや営業時間の制限が続いていることで、ふだんから来店が多く、営業状況を把握している客以外は、そもそも来店しなくなっている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・まだ緊急事態宣言による営業の制限が続いているため、売上は良くない。休業手当を受け取るよりも、営業を続けた方が、取引先の商品政策の上でも良いと感じる。今後、緊急事態宣言が継続されたとしても、休業要請が緩和されれば、新型コロナウイルスのワクチン接種も始まっているため、客の来店は増え、購買意欲は多少上向くと予想される。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長により、食料品以外は休業しているため、依然として売上は低迷している。ただし、客からの電話注文や、オンラインでの注文は前年よりも増えており、来店以外での購買の広がりは感じている。外商での高額の海外ブランド品への問合せも多く、株高を背景に、富裕層の消費意欲はむしろ高まっている。
		百貨店（服飾品担当）	来客数の動き	・4月25日からの緊急事態宣言を受けて、食品などの生活必需品以外の販売を中止したため、売上は大きく減少した。前年に続き、大変厳しい状況となっている。不要不急の外出の自粛による来客数の減少で、人流の抑制に貢献できているものの、早く再開してほしいという声も多かった。食品や生活必需品の売上は予想を下回っており、新型コロナウイルスに関する病床利用率の改善を待つ必要がある。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は増えているが、1人当たりの客単価は前年よりも下がっている。必要に応じて買い回りをしていると考えられ、コロナ禍が続くなかで、出費にはかなり慎重になっていると感じる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・当店は、複数の専門店が入居する複合施設でもあるが、5月はモールや百貨店が緊急事態宣言で休業となったため、売上は好調に推移したが、ビジネス関連や旅行、外出用の衣料品は、依然として不調が続いている。緊急事態宣言が解除となり、新型コロナウイルスのワクチン接種が終わるまでは、人の流れは完全には戻らない。
		スーパー（店員）	来客数の動き	・週末は朝から家族連れの客が多く、やや高額な果物のジュースやゼリーもよく売れている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数の前年比での推移は一定している。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言により、内食や巣籠り関連の需要は根強く、売上は堅調に推移している。
		スーパー（社員）	来客数の動き	・スーパーの食品売上は前年に大幅に増えたが、コロナ禍が長引くなか、今月の前年比は想定したほど落ち込んでいない。特に、来客数が増加している店が多い。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・常連客ばかりなので、ふだんと変わらない動きとなっている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・夜間の来客数は若干減少しているが、売上に大きな変動はない。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・来客数は少し戻りつつあると感じるが、全体的には横ばい傾向である。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍が収束する様子はなく、収入が減少している世帯もあるため、消費意欲は低下している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、自動車の生産台数や入荷台数が極めて少なく、在庫も偏っているため、なかなか販売に結び付かない。
		乗用車販売店（営業企画）	お客様の様子	・緊急事態宣言の行方次第である。
		その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客の消費行動が偏っている。今後もこの状況が続く。
		その他専門店【宝飾品】（販売担当）	お客様の様子	・元々宝飾品が好きな客は、購入目的がなくても来店してくる。ただし、そこで買うかどうかを左右するのは、コロナ禍での外出の制限のほか、宝飾品の着用機会の減少による、購買意欲の低下である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔医薬品〕（管理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の継続により、外出を控える状況は変わらない。ただし、生活必需品の需要に影響はなく、緊急事態宣言の解除や気温の上昇に伴い、嗜好品や季節商材の動きも向上くと予想される。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言への慣れで、一般客の動きには影響が少ない。むしろ商店の方が、緊急事態宣言を理由に消極的な商売をしている。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言による各種要請の影響が非常に強い。特に、酒類提供の自粛は営業の幅を狭めることになり、当社の事業のみならず、取引業者の経営もひっ迫した状態が続いている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・昼からの酒類の提供ができなくなり、客単価が上がらない。テイクアウトについても、当店は配達をしていないため、それほど受注が伸びていない。
		都市型ホテル（管理担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の状況に、来客数が左右されている。
		旅行代理店（役員）	それ以外	・まん延防止等重点措置の適用から、緊急事態宣言の発出につながり、更に延長となったことで、キャンセルに歯止めが掛からない。従業員を休ませているが、逆に休み疲れとなってきた。
		タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長により、不要不急の外出が自粛となり、日中の人出もやや少ない。ホテルの前で待機していても、全く客がいない。宿泊客自体が減少しているため、待ち時間が長くなり、営業収入が伸びていない。
		住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスに慣れたのか、来客数、販売量共に、前年よりも少し増加傾向にある。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	お客様の様子	・景気に大きな変化はみられない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・緊急事態宣言の延長による在宅時間の長期化が、引き続き住宅の住み替えニーズを底上げしている。さらに、富裕層を中心とした、資産の入替えによる不動産投資も堅調なため、高価格帯のマンション、実需向けの新築戸建て住宅共に、市場は安定的な動きとなっている。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	販売量の動き	・例年、この時期は夏に向かって商品の動きが悪くなるが、コロナ禍が始まった前年と比べても、今年の方が悪くなっている。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響で、納品先による販売量の差が出ているため、在庫調整が難しい。先行きも読みにくい状況である。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・4月後半からの緊急事態宣言による休業などで、回復傾向にあったボリュームゾーンのファッション商材の動きが止まり、食品の販売も大きく悪化している。2年前との比較では40%の水準にとどまっている。前月比では70%という水準である。
		百貨店（サービス担当）	それ以外	・前年と同様に緊急事態宣言が発出され、営業自粛の状態が続いている。営業時間は前年とほぼ変わらないが、売上は前年比で20%減少と苦戦している。6月からの営業再開に期待している。
		百貨店（営業推進担当）	それ以外	・緊急事態宣言が再度延長となる見込みであり、休業対象の業種は苦しい状況が続く。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・3度目の緊急事態宣言により、冷静な消費動向となっている。また、先行きへの不安による消費意欲の減退が進んでいる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価が下がってきている。
		スーパー（販売促進担当）	来客数の動き	・コロナ禍における、外食から中食や内食へのシフトの傾向は変わらず、売上全体は安定している。ただし、既存店の売上は前年比で徐々に落ち込んでおり、買上単価も低下するなど、まとめ買いの傾向も落ち着いてきている。緊急事態宣言は延長となったものの、自粛疲れの傾向から、徐々に通常の購買行動に回帰していると感じる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言でリモートワークを推奨する企業が増え、出勤時やランチタイムでの来店がなくなり、来客数が減少している。飲食店での酒類提供がないため、酒類の売上は増加しているものの、全体の売上を押し上げるまでには至っていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されるたびに、来客数が15%減少している。最近は中小企業もテレワークを始めている影響が大きい。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・今必要な物だけを購入していると感じる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言によって大きく変わったことはないが、夜間の人の動きは確実に悪いままである。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べると、緊急事態宣言の影響が大きく、売上は2年前の半分程度しか戻っていない。
		家電量販店（店員）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスの影響もあり、競合店、特に地方の中小企業や訪問販売による価格訴求の動きが目に見える。また、リフォームのように作業が伴う商品販売については、この時期は人との接触が嫌がられるため、商談までに至らないケースが増えてきたと感じる。
		家電量販店（人事担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言により、ゴールデンウィークが臨時休業となった影響で、予定したセールが開催できず、大きなマイナスとなった。例年よりも早く梅雨入りしたが、気温の上昇が伴わず、エアコンなどの季節商材の動きが悪い。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・飲食業や旅行業の客は、さすがに長引く新型コロナウイルスの影響に耐えられなくなり、廃業や業種の変更が増えている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新車よりも中古車の販売が圧倒的に多くなっている。
		その他専門店 [ドラッグストア]（店員）	来客数の動き	・今月は来客数が前年比でマイナスになり、目標も達成できそうにない。梅雨入りが早まるなど、天候の悪さによる影響もある。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出や延長で、ガソリンの販売量が減少している。
		その他専門店 [スポーツ用品]（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の延長で、大規模店舗への出荷が更に鈍化する。
		その他小売 [インターネット通販]（オペレーター）	販売量の動き	・問合せを含めて、受電数がかなり減少している。様々なキャンペーンも行っているが、余り反応がない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・酒類を販売できないため、客足や客単価に響いている。
		一般レストラン（企画）	販売量の動き	・売上の前年比は前月とほぼ同じであり、下げ止まりの動きが感じられる。ただし、2か月前と比べると10%以上の減少であり、継続的に景気が良くなっているわけではない。
		都市型ホテル（販売促進担当）	来客数の動き	・客室稼働率は3月の40%、4月の28%から、5月は約15%に低下した。新型コロナウイルスの感染者数が多かった4月と比べても、予約の入り具合が悪過ぎる。近隣のホテルが休館していることを考えると、出張者の減少が目立つ。これには、緊急事態宣言の出ている都道府県が多いことも関係している。レストランについても、ディナーは休業したまま、平日のランチのみ営業しているが、来客数は若干減っている。
		都市型ホテル（フロント）	来客数の動き	・緊急事態宣言が延長となり、レジャー関連での利用は皆無となっている。ただし、直近でビジネス利用の予約が入り、当日に急に稼働率が上がるなど、全体としては予想外に上振れている。リモートワークのほか、カップルによるディユースの利用が、コンスタンスに入ってきている。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・宿泊の稼働率は30%台が続いており、宴会も1日に数件で、開催のない日もある。レストランについても、休業や時短営業で厳しい状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・緊急事態宣言が何度も延長され、客のなかには、旅行を申し込む意欲がなくなったという声が増えている。先が見えない不安が消費行動に大きく影響し、以前よりも悪くなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ホテルの前で客を待つことが多いが、緊急事態宣言の発出以降はホテルを出入りする客をほとんど見掛けない。駅前での待ち時間もかなり長くなっており、通院といった最低限の動きを除き、状況は悪い。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・飲食、小売の取引先を中心に、受注が低迷している。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・複数の店舗が、休業を余儀なくされている。
		通信会社（企画担当）	それ以外	・緊急事態宣言でテレワークが可能な企業からの相談は増えているが、従来の営業が難しくなっているという声が多い。一方、会社の周辺の飲食店や小売店の空きテナントが増えており、足元での景気の低迷が実感される。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	来客数の動き	・5月の無料体験に1人も来ないのは、初めてのことである。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言の発出により、訪問の延期やキャンセルが以前よりも目立つようになっている。作業員の予定を埋めるのに苦労する日々である。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出により、5月中旬頃から入客が大幅に減少している。
	×	一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・前月下旬からの緊急事態宣言の発出で、近隣の大型商業施設を始め、大きなチェーン店も営業を自粛しているため、人の動きが止まったように感じる。外出したついでに立ち寄り動きもなくなり、開店休業の状態が続いている。それに拍車をかけるように、例年よりも早い梅雨入りが重なった。月の後半は雨の日が多く、どうしようもない日々が続いている。
	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、来客数が減っている。それに伴って販売量が減り、商店街を歩く人も少ないことから、景気は悪くなっていると感じる。
	×	一般小売店〔花〕（店長）	それ以外	・コロナ禍による悪影響が出ている。
	×	百貨店（売場主任）	それ以外	・前月の25日から発出された緊急事態宣言により、当店でも食料品以外は営業できていない。今月の28日までで、来客数は前年比で5.5%の減少、売上は13.2%の減少と苦戦している。緊急事態宣言の6月以降の延長も決まったため、状況は非常に厳しい。
	×	百貨店（売場主任）	それ以外	・今月は緊急事態宣言の発出に伴い、大阪では一部のアイテムを除いて休業状態となり、売上に対する大きな影響が出ている。特に、ファッションや雑貨関連は、季節性のある商品が多いため、その時期にしか売れない商材が多く、後から取り戻すことが難しい。
	×	百貨店（企画担当）	それ以外	・4月25日以降、緊急事態宣言による大阪府からの休業要請で、2階以上のフロアを閉鎖中である。
	×	百貨店（商品担当）	販売量の動き	・4月25日から緊急事態宣言が発出された大阪市内の店舗は、生活必需品を除いて大部分が休業状態となっている。前年は4月8日に食品を除いた休業が始まり、5月中旬からは各店とも営業が再開した影響で、前年比では大きく改善した。ただし、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大と病床のひっ迫により、都市部の食品や婦人洋品、郊外店の各商品共に、消費意欲は低調である。
	×	百貨店（販促担当）	それ以外	・緊急事態宣言による営業制限や街の人出の減少などで、前年と比べれば上向いているが、3か月前よりも大きく落ち込んでいる。食品やモチベーション需要は比較的堅調であるが、それ以外は大きな落ち込みとなっている。
	×	百貨店（特選品担当）	それ以外	・前月に続いて休業中のため、オンラインと電話注文のみという厳しい状況が続く。高額ブランドの商品については、神戸や京都で営業が再開しているため、大阪府の客が神戸で購入するようなケースが増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・緊急事態宣言による時短営業や土日の休業が大きく影響している。平日の来客数は、時短営業の影響もあり、前年比で58%の減少と厳しい。
	×	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・緊急事態宣言の延長に伴い、今月も生活必需品のみの営業にとどまり、婦人服や紳士服、子供服は店頭で販売していない。販売はオンラインストアに限定されるため、本来であればTシャツなどの初夏商材の売出し時期であるにもかかわらず、まとまった売上を確保することが難しい。
	×	百貨店（売場マネージャー）	お客様の様子	・緊急事態宣言による休業の影響もあり、目的買いの客が非常に多い。その一方、ついで買いはほとんどなく、購買意欲の減退もみられるなど、景気の悪化が実感される。
	×	百貨店（宣伝担当）	それ以外	・4月末から休業が続いており、一部には営業を再開した売場もあるものの、緊急事態宣言は6月も延長されそうである。取引先も商品を店頭から引上げ、郊外店に回しているなど、見通しの立たない状況が続いている。
	×	百貨店（販売推進担当）	それ以外	・1か月を通して、食品と一部の生活必需品を除き、休業している。
	×	百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・2年前の2019年度に比べ、来客数の動きは2月が13.6%の減少で、3月が16.0%の減少、4月が25.2%の減少、5月が18.2%の減少となっている。特に、4月中旬から5月中旬に掛けて、緊急事態宣言により悪化している。
	×	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響がまともに出ている。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響による外出の自粛で、出掛けることができないため、服が売れず、客も来ない。衣料品店は飲食店以上に落ち込みが激しく、救済策がなければ会社の維持は不可能である。政府は、衣料品店が必要ないと考えているとしか思えない。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出以降、来店客がほとんどいない状態である。先週末頃からは、1回目の新型コロナウイルスのワクチン接種を終えた客が何人か来店したが、その先が見通せない。介護の現場では、感染者が出始めており、高齢者の中で危機感が強まっている。
	×	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・大阪、兵庫、京都での休業要請を遵守したことで、ゴールデンウィークの売上に大きな影響が出た。緊急事態宣言の更なる延長が検討されているが、夏に向けてのエアコンや冷蔵庫などの需要は、生活必需品と認識できるため、平日は休業要請を緩和してほしい。
	×	住関連専門店（店長）	それ以外	・海外から商品を仕入れているが、新型コロナウイルスの影響で、商品価格や輸入コストの高騰が例年よりも目立つ。これには、円安の長期化による影響もある。その一方、客による案件の予算削減が今春から増えており、仕入先と客に対する価格交渉は難しさが増している。
	×	その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・主な客は飲食店であるが、緊急事態宣言の発出によって売上が減少している。
	×	その他小売【インターネット通販】（企画担当）	お客様の様子	・緊急事態宣言が再び発出されて以降、営業フロアは化粧品や食品に限られ、壊滅的な状況となっている。
	×	その他飲食【自動販売機（飲料）】（管理担当）	販売量の動き	・人の流れが抑制されたり、商業施設が閉まっている状態では、まず売上は上がらない。
	×	観光型ホテル（経営者）	それ以外	・5月は、ゴールデンウィーク中の5月1～4日の4日間だけの営業で、その他は全て臨時休館日であったため、売上はほとんどない。
	×	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明け以降は、全く人の動きがない。
	×	都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスにより、観光業界に悪影響が出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	都市型ホテル (管理担当)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置のほか、緊急事態宣言の発出と延長により、客室はもちろん、一般宴会、レストラン予約のキャンセルが相次いだ。婚礼においてもキャンセルや延期のほか、身内だけの婚礼への縮小などにより、大幅な売上減となっている。
	×	旅行代理店(店長)	販売量の動き	・緊急事態宣言で店舗は休業中である。宿泊施設や観光施設の休館も増えており、予約のキャンセルに拍車を掛けている。
	×	タクシー運転手 タクシー運転手	それ以外 お客様の様子	・何も言いようがない状況である。
	×			・緊急事態宣言の影響で、外出の自粛が広がっているため、タクシー利用者の激減につながっている。そういったなかで、飲食店などの補償対象となっている企業は非常に苦しんでいる。
	×	観光名所(経理担当)	来客数の動き	・ゴールデンウィークがあったため、今月は盛り上がりが見られたものの、それ以外では全体的に来客数が少なくなっている。
	×	遊園地(経営者)	それ以外	・休業要請に伴い、休業が続いている。
	×	競輪場(職員)	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出に伴う府からの要請で、販売ができないため、今月は売上がゼロである。
	×	その他レジャー施設[イベントホール](職員)	それ以外	・度々の緊急事態宣言の発出で、先の見通しが立たないため、事業の運営が難しくなっている。
	×	その他レジャー施設[複合商業施設](職員)	それ以外	・緊急事態宣言が延長となり、特に大阪地区では大型商業施設への休業要請が継続しているため、業績は大きな打撃を受けている。
	×	その他レジャー施設[飲食・物販系滞在型施設](企画担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出や延長による休業や出控えがあり、団体客の動きはまだみられない。
	×	美容室(店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で予約のキャンセルが続出している。来店があるのは若い客だけで、非常に経営が厳しい。
	×	住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・混とんとした状況になりつつある。飲食関係だけではなく、1次産業にまで影響が出始めており、不動産の動きが極端に悪化している。
	×	その他住宅[展示場](従業員)	来客数の動き	・住宅展示場では、緊急事態宣言を受けて集客イベントを全て中止にしたため、来場者数が激減している。
企業 動向 関連 (近畿)		石油製品・石炭製品製造業(生産管理)	受注量や販売量の動き	・新商品の販売が好調である。
		化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・前年よりも売上は相当回復しているが、例年に比べるとまだ6%程度悪い。
		化学工業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・自動車や家電向けの出荷量は、好調が続いている。建設材料向けは若干落ち込んでいるが、全体としては上向いている。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・問合せが少しずつ戻ってきたのに伴い、受注が少し増えてきた。マーケットが動き出しているように感じる。
		プラスチック製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・取引先の雰囲気は良くないが、受注量と販売量の落ち込みはない。無理に仕事量を確保していると感じる。
		窯業・土石製品製造業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言は6月20日まで延長され、当社を取り巻く環境も変わらない。前月と比較しても、特に変化はない。
		金属製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークの関係で売上はやや下降気味であるが、荷動きは相変わらず活発である。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・1年以上、売上の激減した状態が続いている。数か月先も今の状況が続くと予想される。
		電気機械器具製造業(宣伝担当)	受注量や販売量の動き	・5月前半は、緊急事態宣言により多くの量販店が休業となったが、実売はそこまで大幅な減少はなく、テレビや空気清浄機、洗濯機など、これまで好調な商品は引き続き堅調な動きとなっている。
		電気機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注は横ばいで、売上は減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で経営環境が厳しい企業による、設備投資計画の延期や凍結が増えた。ただし、体力のある企業は、先を見据えて粛々と設備投資の計画を進めている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新築やリフォーム、小規模改修については、何とか横ばいで推移している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響により、海外からの商品の入荷が遅れているので、納期が延びている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・Web媒体、紙媒体共に、広告の売上は2年前の水準を僅かに下回っている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・取引先の状況でいえば、回復のきっかけを少しつかみつつある企業と、本当に業況が悪い企業との2極化が進んでいる。そのなかで、当社は回復のきっかけをつかみ、今後の戦略を立てようとしている企業の支援で忙しい。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響に対応できている取引先は、新サービスや新製品など、新たな動きを始めようとしている。これには事業再構築補助金の存在がインセンティブとして働いている場合が多い。ただし、実際の売上増加などにはまだ結び付いておらず、景気は低迷したままとなっている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言の発出に伴い、大型商業施設が休業中のため、書店や雑貨、衣類関連の駅ナカ店舗では、一部で特需が発生している。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の延長による影響が大きく、なかなか客への訪問ができない。引き合いのあった案件も延期となっている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言は6月以降も延長される見込みであるなど、良くなる気配は感じられない。家庭用の商品は何とか売れているが、依然として業務用の停滞が続いている。
		金融業（営業担当）	それ以外	・緊急事態宣言により、飲食店などは休業や時短営業となるなど、前年から新型コロナウイルスの影響で大変な状態となっている。今後も緊急事態宣言が延期となる雰囲気もあり、先が読めない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先の決算では、売上、利益が減収減益となっていることが多く、景気は悪くなっているように感じる。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・緊急事態宣言の影響で消費が減少している。国民全体に、消費を控えるべきという雰囲気が広がっているように感じる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言延長により、折込チラシによる集客行為が控えられ、収益がダウンしている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3回目の緊急事態宣言の発出で、交通関係の広告のキャンセルが相次いでいる。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・コロナ禍により、経済が回らず、悪い状況になってきている。
	×	食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・主要都市での緊急事態宣言の影響を受け、外食や観光業界の売上が大きく減少しているため、飲料水の取引もかなり悪くなっている。
	×	繊維工業（団体職員）	それ以外	・緊急事態宣言の発出による、都心部での小売店の休業やイベントの自粛などで、大きな影響が出ている。
	×	繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言下では催事の集客も減少し、例年の半分以下の日もある。売上は前年比で30%以上の減少となる見込みである。
	×	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けから徐々に受注量が減少し始め、20日過ぎからは、一部の食品メーカー以外は一段と減少している。
	×	金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・半導体不足の影響なのか、自動車に生産調整の動きが見られる。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量の動きについては、景気のベースは良いものの、実績は悪いという状況である。その要因は、新型コロナウイルス対応による休日が多かったからである。今月だけで判断すると、このようになるが、何となくすっきりしない。
	×	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響で、百貨店や周辺の小売店が休業となっている。それに伴って家賃の値下げ交渉が増え、景気は悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他非製造業 [電気業] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染収束の見通しが立たないため、非常に不安である。
雇用 関連 (近畿)		民間職業紹介機関 (営業担当)	求人数の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種や、給付金の処理に関する特需が続いている。
		新聞社 [求人広告] (営業担当)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、コロナ禍の終わりがほんの少し見えてきている。企業によっては巣籠り消費などの新たな需要にうまく対応しており、明暗が分かれています。全体的には少しずつ良くなってきている。
		職業安定所 (職員)	採用者数の動き	・5月に入り、採用者数が目に見えて増えてきている。前年の4～5月が緊急事態宣言で大きく落ち込んだ反動もあるが、業種によっては採用意欲がかなり高まっている。
		人材派遣会社 (役員)	求人数の動き	・求人数は前年と比べると大きく増えているが、2年前にはまだまだ及ばない。
		人材派遣会社 (支店長)	求職者数の動き	・新年度となったが、特に大きな動きはない。
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・派遣求人については、前年よりも改善する傾向が続いており、2年前の水準に戻ってきている。緊急事態宣言の影響も限定的である。
		職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・近畿の有効求人倍率は1.04倍と前月比で0.01ポイント低下し、全国の各ブロックで唯一低下した。有効求人数が増加したものの、有効求職者の増加が上回ったことが影響した。なお、新規求人数が前年比で12.4%の増加となったが、前年の減少による反動であり、2年前と比べると24%の減少と、コロナ禍以前の水準には戻っていない。
		職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染第4波の影響で、上向き傾向であった景気も、下降線をたどるようになってきている。
		職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・求人数は底堅く推移しており、求職数を上回っている。求職は長引くコロナ禍による時短や休業で、ダブルワークを希望する在職求職者が増えているほか、家庭の収入減少で新たに求職を開始した無業者や、休業の長期化による雇用不安で自主退職した人の登録が増えている。
		民間職業紹介機関 (営業担当)	求職者数の動き	・新卒採用市場では1年単位で採用計画が動くため、3か月前と比べての大きな変化はみられない。ただし、3～5月は選考試験がピークとなるが、まだ結果待ちや選考中なのか、合同企業説明会の参加数は伸び悩んでいる。特に、対面型のイベントはコロナ禍の影響もあり、参加や出展を控える学生、企業がみられる。
		人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・閉店に追い込まれる商店が増えている。緊急事態宣言の延長による影響が感じられる。
		新聞社 [求人広告] (管理担当)	求人数の動き	・旅行や宿泊、飲食サービスの落ち込みは限界を超えている。4月末からの緊急事態宣言の再発出で、景気の先行きへの懸念が多く業種に広がっており、求人意欲は低い。
		民間職業紹介機関 (職員)	求人数の動き	・緊急事態宣言下であった前年と比べても、求人数が約2割落ち込んでいる。
	×	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・緊急事態宣言の延長で、企業による新聞広告などのプロモーションの動きが全く不調である。
	×	学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	・企業の採用活動は、学生を吟味し、厳選する形に変わってきている。また、採用活動を早期に終了する企業も出始めている。

9. 中国 (地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター)

(- : 回答が存在しない, * : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)		-	-	-
		スーパー (店長)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出と梅雨入りがほぼ同時期に重なって、特に夕方以降、来客数が増加している。
		スーパー (総務担当)	単価の動き	・来客数や客単価が前年を上回っている。家で食事する人が多く、一般客の売上が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・工事関係者の来客数、特に昼間の工事関係者の来客数が伸び悩んでいるが、全体では来客数は回復傾向にある。
		コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・前年と比べ、来客数は改善傾向にある。自粛期間中のため、近隣の販売店で食事を済ませるケースが増えている。しかし、前々年と比べると、来客数は減少している。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスが長引き、まだ終息の見通しも立たないが、感染急拡大のリスクの程度も何となく見えてきている。客が在宅のスタイルにも慣れ、サービスや消費について、少し落ち着いて向き合える時期にきている。
		競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・3か月前と比べると、電話投票の売上が増加している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・地域振興券や宿泊補助など自治体からの補助があるが、特定の業種に偏っているのか、必要以上に購入しないようにしているのか、活発な購買にはつながっていない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の人通りが少しずつではあるが元に戻ってきている。新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、客の不安も少しずつ減少している。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出中で、巣籠り需要に陰りもなく、生活必需品の食品スーパーは好調に推移している。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	来客数の動き	・新規の客が減少しており、インターネット販売も30%以上の減少が続いている。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・ほとんどの部門の売上が前年より良くなっているが、前々年の水準までは戻っていない。美術品は絵画や工芸などの催事が好調で、前々年以上の売上となっているが、観光部門の売上はゴールデンウィーク期間中の緊急事態宣言の影響で低調となっている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・巨匠の美術品や若手作家の絵画が売れているが、時短営業等が続けば、どうなるか分からない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で、客の来店頻度が低下、週末やセール時に客が集中し、まとめ買いも多くなっている。近隣やエリア内学校での感染者の発生で客の新型コロナウイルスに対する警戒心が強くなり、特に緊急事態宣言発出以降、客の警戒心は一段と強くなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・大幅に売上を伸ばした前年5月並みの売上を確保しており、現状では景気はやや上向いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス禍で客の来店頻度が上がり、来客数の低迷が続いている。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・5月16日の緊急事態宣言発出以降、売上は前年を下回っているものの、3か月前と比べると増加している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数、客単価いずれも前年を上回っているが、前々年の水準には届いていない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・展示会の来客数は余り多くなかったが、販売につながっている。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・5月の販売は前年をやや下回っている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・来客数が若干減少しており、客単価も伸び悩んでいる。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出の影響で、人が動かなくなり、売上が減少している。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・消費者が生活防衛のため買い控えしているのか、前月と比べると来客数が減少している。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響が続いているため、景気は変わらない。
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、ビジネス客、観光客いずれも落ち込みが継続している。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスのワクチン接種が開始しているが、全員が接種することにならないと、当分は客が旅行に行く状況にはならない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・特に消費意欲が3か月前と比べ減退した印象はなく、インターネットの速度アップや有料チャンネルの追加契約などの巣籠り商品の需要は堅調である。
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍の客の動向を見る限り、景気に変化はない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客の来場や問合せは活発ではないが、減少もしていない。購入意欲は高いので、新型コロナウイルスの感染が落ち着けば上向きに推移しそうである。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言に入ってから、引き合いがほとんどなくなっている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・客がどうしても必要な商品しか購入してくれないため、危機的な状況にある。
		商店街（理事）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で、現在は例外的な状況かもしれないが、いろいろなことを自粛している影響で、景気が停滞している。
		一般小売店 [茶]（経営者）	来客数の動き	・家庭にストックがあり、客が消費を抑えているのか、今月に入り、来客数が減少し、小売部門の売上がかなり落ち込んでいる。
		一般小売店 [印章]（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークで長期の休日があったが、新型コロナウイルス対策の自粛で活発な動きはなく、景気はやや悪くなっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・前月末から今月上旬にかけてのゴールデンウィーク期間中は前年と比べ、若者を中心に来客数が多かった。ただ、中旬以降は県内の新型コロナウイルス感染者数が急増したため、来客数や売上が厳しい状況になっている。
		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・物産展の休止等の影響があり、来客数が前年の7割程度で推移している。近隣自治体の緊急事態宣言が継続しているため、今後もこの状況に変化はない。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・来客数は前年より増加傾向にあるが、全国だけでなく、近隣でも新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、ファッションを中心に売上が悪化している。このまま緊急事態宣言が継続すれば、地方百貨店ではアパレルメーカーの撤退が続く可能性があり、飲食や土産物の売上も激減する。
		百貨店（外商担当）	それ以外	・緊急事態宣言の発出による外出の自粛や休業の影響で、景気はやや悪くなっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っており、客単価や買上点数でも売上をカバーできていない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は前年の水準まで回復しているが、客が無駄な買物をしない傾向にあるため、客単価が伸びていない。
		スーパー（業務開発担当）	来客数の動き	・客の来店頻度が減少し、青果を中心に価格も下がっていることから、厳しい状況である。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・客単価や買上点数が伸び悩んでいる。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で来客数が減少している。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出で、不要不急の外出自粛が要請され、訪問販売もイベントの開催もできず、客もほとんどいない。
		家電量販店（販売担当）	来客数の動き	・前年支給された特別定額給付金の給付がないため、景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出以降、一般の来客数が減少している。また、例年この時期に行う大型のフェアも開催できない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の影響なのか、客が少なく、販売にも結び付いていない。
		その他専門店 [布地]（経営者）	お客様の様子	・毎日新型コロナウイルスのニュースばかりで、地方では高齢者が恐怖で街に出ず、買物する気分になっていない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（支配人）	来客数の動き	・4月中旬頃から県内の新型コロナウイルス感染者数が急増し、ゴールデンウィーク後半から客の出足が鈍くなっている。緊急事態宣言の発出で、大型商業施設には時短に加えて、土日休業要請が出され、客の自粛ムードも高まっているため、売上や集客が大きな影響を受けている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売 [ショッピング センター] (管 理担当)	お客様の様子	・前年の自粛期間と比べると、客の危機感は薄れ、危機感はあるとしても外出を控える意識が低いいため、来客数は多くなっている。ただ、新型コロナウイルスの感染者数が前年よりも多く、緊急事態宣言も発出されたことから、客の不安感が高まっている。目的買いの客が多く、客が余分な消費を行わない傾向にあるなど、景気は確実に悪化している。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・5月上旬から夜の来客数の減少傾向が強まっており、集客策も打ちにくい状況であることから、非常に苦慮している。
		都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置から緊急事態宣言への移行で、営業縮小に加え、アルコール提供の中止をせざるを得ない状況となったため、宿泊、レストランいずれも予約のキャンセルが相次いでいる。駅周辺の大型商業施設も、営業時間の短縮、土日の営業中止などで、買物客が激減し、売上の見込みが全く立っていない。
		都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言を受けて、来客数が減少している。
		旅行代理店(支 店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの終息がみえず、ドメインである旅行の需要回復が見込めず、Go To Travelキャンペーンの再開も期待できないため、景気は回復しない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、大型連休も帰省客や旅行者がほとんどおらず、夜の飲食関係も冷え込んでいるため、厳しい状況が続いている。
		通信会社(総務 担当)	販売量の動き	・新規契約者数がこれまでに比べ少なくなってきた。
		放送通信サー ビス(総務経理担 当)	お客様の様子	・利用料の延滞金額、延滞件数いずれも上昇傾向にある。
		テーマパーク (管理担当)	お客様の様子	・来客数が通常時の半分以下となっている。
		観光名所(館 長)	来客数の動き	・緊急事態宣言による来客数の減少で、景気はやや悪くなっている。
		観光名所(管理 担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が拡大傾向にあった前年と比べても、来客数は10%程度減少している。
		ゴルフ場(営業 担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、予約のキャンセルが増加している。また、梅雨入りが早くなったため、来客数も減少している。
		設計事務所(経 営者)	お客様の様子	・米国や中国などで木材需要が急増し、国内で木材が不足、戸建て住宅の工期遅れや建築価格の上昇が発生しているため、客に悪影響が出てきている。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・緊急事態宣言が発出され、客との商談が中止となり、オンラインでの商談に切り替えているが、なかなか進まない。
		住宅販売会社 (営業所長)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言エリア外でも、県独自の対策が要請され、商談のキャンセル件数が増加傾向、商談の精度も低下している。
	×	商店街(代表 者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、景気の悪い状況が続いている。
	×	一般小売店[眼 鏡](経営者)	来客数の動き	・行政無線で毎日必要以外の外出を控えるよう呼び掛けられていることから、客が買物に行きづらくなっている。
	×	一般小売店[洋 裁附属品](経 営者)	販売量の動き	・客が少なく、販売量も増加しない。
	×	百貨店(営業担 当)	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、週末に休業しているため、来客数が減少し、売上の減少幅が拡大している。
	×	百貨店(営業担 当)	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出で、土日の休業を要請され、食料品や化粧品などのみの販売となり、平日の来客数や売上も激減している。
	×	スーパー(販売 担当)	お客様の様子	・緊急事態宣言が発出されて以降、客の外出や消費に対する意欲が明らかに低下している。来客数が日々減少しており、非常に厳しい状況になっている。
	×	衣料品専門店 (代表)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出で、来客数が半減し、売上も前年の6割程度の見込みである。
	×	家電量販店(店 長)	来客数の動き	・来客数が減少し、売上も上がっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出以降、来客数が前年から半減、売上も悪化している。
	×	乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出で、来客数はおろか、土日になっても道路に車が走っていない。新型コロナウイルスの感染者数の増加で、今まで以上に動きが鈍くなり、購買意欲も低下している。
	×	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出で、前年同様、商品が動かない。今後に対する不安もあるのか、客の財布のひもは非常に固い。
	×	その他専門店【土産物】（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出で休業を余儀なくされ、出荷者、関係業者、出店者などが非常に困っている。
	×	高級レストラン（事業戦略担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の対象地域となつてから、客が一段と遠のいている。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言の発出で、対象地域の店舗が休業となり、営業を継続している店舗の利益を食い潰している。また、主力商材である輸入牛肉の値上がりで、原価率が上昇し、利益が圧迫されている。週末のディナータイムの状況は、月を追うごとに悪化している。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今回の緊急事態宣言の発出で、時短営業でなく、休業を要請され、営業ができないため、景気はかつてないほど悪い状況になっている。
	×	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、来客数が著しく減少している。ゴールデンウィークもイベントが無観客になった影響もあり、売上は例年の3割程度となっている。緊急事態宣言の発出に伴い、店は休業となっている。
	×	バー（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスによる時短要請の影響で、景気は悪くなっている。
	×	その他飲食【サービスエリア内レストラン】（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、景気は悪くなっている。
	×	観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後、予約が全く入らず、キャンセルが続出している。
	×	観光型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出で施設を休業しているため、人の動きが全くない状況である。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・緊急事態宣言の発出で、夜の街にはほとんど人がいない。営業所の運転手は100人くらいいるが、そのうち35人が休んでいる状態で、かつてないほど厳しい状況である。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの第4波の影響で、人の動きがなくなり、売上が激減している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されたため、状況が悪くなっている。
	×	通信会社（広報担当）	お客様の様子	・客が物を購入する余裕が余りないようである。
	×	その他レジャー施設【温泉センター】（担当者）	来客数の動き	・緊急事態宣言中であり、今後もその影響がどの程度残るかが不明である。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍で、客が外出を控え、来店しなくなっている。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年と比べ、来客数や売上がかなり落ち込んでおり、景気はかつてないほど厳しい状況である。
	企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き
		繊維工業（監査担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で中止となっていた行事や催事が再開され、人の動きが活発となり、売上に結び付いている。前売り状況は、全国的に前年から増加している。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼向け需要の回復で生産量が増加、新型コロナウイルス禍での従業員の感染、濃厚接触者の自宅待機等による労働日数喪失があり、時間外労働は増加している。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上や受注動向が上振れしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・遅れながらも価格交渉が進んできている。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・4月までは雇用調整助成金を申請しながら帰休を行っていたが、5月は定時工数をやや割るものの帰休なしで操業している。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・業種によってばらつきはあるが、自動車部品、輸出用機械等には復調の兆しがある。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・今月に入り、データセンターの引き合いが多くなっている。前年度から取引先で計画されていたことが一気に新年度になって需要として動き始めている。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・生産量が余り変化していない。
		化学工業（総務担当）	取引先の様子	・自動車産業の動向によるところが多く、常に動向を注視している。
		非鉄金属製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・電子材料関係の受注量は新型コロナウイルス発生前と変わらず順調である。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・半導体問題が景気に悪影響を与えている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・木材等資材の納期や価格の変動、新型コロナウイルスの影響による計画の遅延等気掛かりな部分もあるが、順調に受注ができています。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・前年は1回目の緊急事態宣言が発出されていたため、個人の荷動きが好調だったが、今年の個人の荷動きは低迷している。会社関係の荷物はどんどん小口化され、小口荷物の多発送という状況になっている。
		輸送業（総務・人事担当）	受注量や販売量の動き	・今年に入って緊急事態宣言等もあるが、受注には影響していない。
		金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・地元の完成車メーカーの世界販売実績は計画を下回る状態が続いている。このため、系列の地元部品メーカーの受注は、月次採算で黒字を確保できているが、2年前の好調時と比べると1～2割程度下回っている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、客の動きが悪く、受注量や販売量が増加しない。
		会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で減少する業務がある一方で、新型コロナウイルス対策支援業務やリスクヘッジのためのアウトソーシング受託業務は増加しているため、全体では変わらない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月中旬まで受注量が落ち込み、中旬以降、徐々に回復しているが、依然として厳しい状況が続いている。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの変異株の拡大が収まらない状況で、海外の輸送運賃の上昇による原材料費の値上げなど費用が増加していることから、景気はやや悪くなっている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルスの影響により、部品の中には仕入先から調達できないものがあり、製造ラインの見直しが必要な製品がある。また、既存納入部品の単価も毎月のように値上げされ、現状、仕入先の変更も困難なため、仕入価格の上昇を当社が吸収せざるを得ない状況にある。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・主要客からの受注量は計画を大幅に下回っている。新型コロナウイルス禍で営業が難しくなっていることもあるが、それ以上に半導体不足による影響が大きくなっている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3月後半から4月に掛けて例年並みに持ち直しつつあった受注がゴールデンウィーク明けから止まり、例年の7割程度となっている。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・特にエンドユーザーが飲食店や観光と絡む取引先の業況は更に厳しさが続いている。
	不動産業（総務担当）	それ以外	・前月と比べ、来客数や成約件数が減少している。	
	×	農林水産業（従業員）	取引先の様子	・緊急事態宣言が発出されたため、飲食店が軒並み休業となり、市場への買い付け人数が激減している。
雇用関連		-	-	-
(中国)		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・緊急事態宣言の発出の影響で、景気は良くなっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・新型コロナウイルス禍で求職者数の減少傾向が続いている。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	周辺企業の様子	・新卒就活生の動きは前年よりも早い。3～4月に掛けてのすごい勢いで合同説明会、自社説明会、選考会へと進み、5月に入ってその動きがピタリと止まっている。志望企業を3月1日以前にざっくりと決めていた学生も多く、3月1日から本番開始というよりも、それまでにインターンシップなどで志望企業を絞り込み、3月1日から一斉にスタートするという印象である。複数企業を対象に動いていても、志望の企業から内定が出ると、ピタリと就活をやめてしまう傾向が多い。また、中途採用も回復傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・前年と比べ、新卒者の内定率が上昇している。内定を得ても、引き続き就活に意欲的であり、今後は内定辞退者が多く出ると見込んでいる。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人数は、全体では前年並みとなっているが、業種によって、また同業種でも扱う品目によって差が大きくなっている。
		職業安定所（雇用関連担当）	求人数の動き	・求人数は前年と比べ増加しているが、業界により業績の回復の差が出ている。
		人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・景気は緩やかな上昇基調にあったが、新型コロナウイルス第4波の影響で、再び求人や求職者の動きが鈍ってきている。求人は正社員性のあるものが減少傾向、求職者は離職中ではなく職に就いている人が何か良い仕事があれば転職したいという動機で登録されるケースが目立つ。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、新規求人数の減少が顕著になっている。
		求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言の発出で、企業の採用意欲が損なわれている。
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染が雇用情勢に与える影響は大きく、令和2年4月に1.92倍であった有効求人倍率が、令和3年3月には0.49ポイント低下し、1.43倍となっている。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・取引先で新型コロナウイルスの感染者が出たことによる商談の中止、緊急事態宣言が発出されたことによる採用活動の一時中断など、動きが止まっている。
		民間職業紹介機関（求人・人材採用担当）	求人数の動き	・緊急事態宣言による時短営業や休業要請で飲食関係の求人が大幅に減少している。新型コロナウイルスの終息に向け人材採用をした企業でも、再び人材削減の必要が生じ始めている。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	それ以外	・県内の新型コロナウイルスの感染状況の悪化に伴い、就職説明会等の実施が中止になるなどの影響が出ており、景気は悪化傾向にある。
		その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、飲食業やサービス業等の求人数が減少している。
	x	-	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)		-	-	-
		スーパー（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う警戒レベルの引上げによる巣籠り消費の恩恵を受けた。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大で、外食需要からのシフトが進んでいる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・前々年より来客数と単価が増加し、売上が上がっている。売上が良ければ景気が良いという簡単な話ではないが、今月の当店の売上は前々年、前年、過去3か月のいずれと比較しても増加している。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・当県の新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、宿泊予約の動きがやや良くなっている。
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・来客数は減っているものの、販売数はむしろ増えており、必要な物は購入されている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク中は想定より客が動いた。今年は梅雨入りが早く湿度の上昇で、髪をメンテナンスする客がかなり増えている。
		商店街（事務局長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの第4波は世界中の変異株が混在しており、収束の気配がない。ワクチン接種の進捗状況に社会も経済も翻弄されている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス対策による自粛期間中のため、人通りは少なく、来客数も少ないが、インターネット注文による宅配が増えた。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は来客数、客単価共に前年を少し割り込んでいるが、外商売上は前年を維持できている。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、客が3割程度減少し、売上も比例して減少している。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・新型コロナウイルスが経済全体に影響を与えている。良い物を買う客に変化はないが、安い物を買う客が二分化されてきている。安い物を買う客がディスカウントの店に多く流れている。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・前年より来客数は増加しているが、前々年よりは来客数、売上共に減少している。コロナ禍の状況が刻々と変化しているので、はっきりとは分からないが、景気に変化はみられない。
		コンビニ（商品担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置で外食産業では営業を自粛しており、地方都市は夜間の人通りが減っている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛要請により、来客数はかなり少ない。3か月前とほとんど変わらないので、景気に変化はなく、どの業種も同じではないかを感じる。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響なのか全車種併売の影響なのか不明だが、前年比で受注が伸びていない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・大口の客も若干いるが、全体的に客も購入量も少なく、売上が良くない。
		競輪競馬（マネージャー）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大が続くなか、首都圏中心に緊急事態宣言が継続し、県内ではまん延防止等重点措置を検討する状況にある。消費者は外出自粛や巣籠りが続いており、人出や消費購買力も低水準にある。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・流通量が減少している関係で、特に木材の価格が上がっており、工事に影響が出ている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・売上が前年同月より少し増加しているが、これは前年の営業日数が新型コロナウイルスの影響で少なかったためである。高齢者へのワクチン接種が開始されて景気は良くなっていくという期待は持てるが、現状では不透明である。
		商店街（代表者）	それ以外	・過当競争やコロナ禍、ネット社会など時代環境が変化するなかで、百貨店業界は都市部、地方にかかわらず再生が厳しく消え去りつつある。駅を中心として作り上げてきたこれまでの街づくりは崩壊の危機にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの第4波が到来し、ゴールデンウィーク後には、感染者数が急激に増加するとともに自粛ムードが高まったことから、来街者数が激減している状態で、売上も比例して減少している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数がかかなり増えており、警戒レベルが引き上げられたため、その影響を直接受けている。以前に比べて信じられないくらい悪い状態になっている。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・今月初旬に県内の感染者数が増えて以降、売上が急激に減少している。前々年度に対して60%程度の水準まで落ち込んでおり、かなり厳しくなっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・在宅時間が長くなったことで、宅内環境が整ってきたのだと思うが、来客数が減ってきている。
		家電量販店（副店長）	お客様の様子	・前年度はテレワークやオンライン会議などでパソコンや関連商品の販売がかかなり伸びたが、今年度は全体的にやや悪くなっている。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・例年4～5月は販売量と来客数が落ち込むので、今年もやや落ち込んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・5月の新車受注状況は、新型コロナウイルスの影響で減少していた前年の台数を下回る状況である。
		その他小売 [ショッピングセンター]（副支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数の激増により来客数が激減した月初に比べると、月末は感染が落ち着いてきたので、少し戻ってきたように感じるが、例年と比べると半分程度である。
		通信会社（社員）	それ以外	・当社サービスに対する需要自体は変わっていないものの、訪問営業を自粛しているため、契約件数は大幅に減少している。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で来客数が全体的に減少している。
		観光遊園地（職員）	来客数の動き	・特に4～5月は新型コロナウイルス感染再拡大の影響で感染対策期となり、人が動かず、飲食や宿泊、交通、旅行需要が軒並み落ち込んでいた。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染者数が増えてきて、行動を自粛している人が多い。
	×	一般小売店 [酒]（販売担当）	販売量の動き	・納品している全ての飲食店が5月31日まで時短営業か休業しているため、売上が激減している。
	×	百貨店（営業管理担当）	来客数の動き	・県内の新規感染者数増加の影響もあり、来客数が週を追うごとに減少し、滞在時間の短い目的購買の傾向が強くなっている。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・イベント中止の影響から週末の人の動きが悪いことや、地元企業の業況が良くないこともあって、前年割れの状況となっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が収まらない限り、自粛等の繰り返しで、客足は戻らない。
×	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・首都圏で緊急事態宣言が発出されたことで、宿泊客が全く来ない。当地においても、新型コロナウイルスの感染者数が増加しており、景気が冷え込んできているのが現状である。	
×	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・店頭の営業を再開したが、客の来店がほとんどなく、ネット予約も1日当たり数件しか入らない。また、既に予約済みの修学旅行等も延期や中止が発生している。	
×	タクシー運転手	お客様の様子	・当県の警戒ステージが引き上げられたことによる飲食店の時短で、閑古鳥の状態である。	
企業 動向 関連 (四国)		-	-	-
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が若干増加している。緊急事態宣言が継続しているため安心はできない状況である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度に入って、ようやく市の建築工事を受注できた。
		輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・全体の数量が増加し、売上高は前年同月を上回っている。ただし、新型コロナウイルスの影響がなかった前々年同月からは4%低く、完全には回復していない。
		通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・前年の同時期が特に新型コロナウイルスの影響を受け、落ち込んでいたので、前年比ではかなり良い。3か月前と比べると微増である。
		税理士事務所	取引先の様子	・前月と比べて売上が増加している。
		農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、統計を取り始めて最も早い梅雨入りになったこともあり、果菜類を中心に入荷減、単価高の傾向にある。ただし、価格をけん引する業務需要が不振であることから、数量の割に単価は上がりきっていない。5月は29日までの累計で、数量が前年比70～80%に対し、単価は105～110%となり農家所得を押し下げている。
		化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスは収束までに時間が掛かりそうであり、外食、土産物、イベント関連の商材の動きは悪い。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注減少による生産調整のための臨時休業は4月まで実施した。5～6月は予定していないが、受注が回復に転じたわけではない。
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・本格的な需要回復時期は不透明な状況が続いている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	取引先の様子	・県内の新型コロナウイルス感染症が、ここ1週間でピークアウトの兆候があり、精神的には多少の余裕が出てきた。当社並びに同業社においては、公私にわたり、行動や移動の制限、自粛の状況に変化はなく、景況感は良くないが、業況自体は堅調であり、経営指標は悪くないので、全体としては変わらない。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・ワクチン接種が開始されたとはいえ、新型コロナウイルスの感染状況は一進一退の状況にあり、市況に改善傾向はみられず、各取引先の月次売上や損益状況に回復はみられない。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が全国に広がった今月は、前年よりは良いものの、再度厳しくなっている。
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスのワクチンを保管する保冷庫の需要が一段落し、一過性の特需による注文が落ち着いた。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全国的に良い状況とは思わない。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍で青果物市場の取引が縮小傾向となり、市況の低迷が長引くなか、早い梅雨入りによる日照不足や病害を危惧した生産者の耕作早じまいが目立つようになり、出荷量が例年よりも大幅に減少している。例年よりも早い梅雨入りが青果物の取扱物量を押し下げるマイナス要因になっていることは間違いない。
	×	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に飲食業、観光業向け製品の受注が激減している。
	×	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・県独自の新型コロナウイルスの規制により、イベント等の中止や販売促進広告の急な中止があり、今月は悪くなっている。
雇用関連		-	-	-
(四国)		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・派遣スタッフの採用人数が横ばいである。必要なポジションには引き続き募集がある。
		人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染対策については、警戒期に引き下げられ、公共施設が運営再開したので、人の動きは増加し、景気も回復が見込まれる。しかし、感染再拡大や変異株に対する恐怖から消費ニーズがどこまで高まるか見込みが立たず、飲食関係の求人活動は消極的な状況である。
		民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人数が伸び悩んでおり、企業の採用のハードルも上がっている。
		学校[大学]（就職担当）	求人数の動き	・4～5月の求人数をコロナ禍以前の前々年と比べると半減しており、回復していない。
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・慢性的な人手不足の業界以外の周辺企業は特に中途採用の人数が減少を続けている。各社とも業績の悪化や景気の先行き不透明感から採用人数を抑えている。
		新聞社[求人広告]（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスによる経済への打撃が徐々に始まり、直接関係がなさそうな業界でも年度広報予算を下方修正しており、年間通して厳しい状況である。
		職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・求人数について前年同月を上回ったものの、新規求人数や月間有効求人数は前月より減少した。新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で、求人数の減少がみられる業種が多数あった。
	×	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響で、サービス業などの求人は低迷し、製造業も減産傾向であることから求人が少なくなっている。派遣への影響が大きい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
----	---------	-------	-------	----------------

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・全店舗の売上は、3か月前の前年比は79.7%、当月の前年比128.1%となっているため前年比ベースでは回復傾向に見えるが、当月の前々年比は70.1%であり、前々年比ベースではあまり回復していない。ちなみに北海道物産展の売上について、前年は開催をしていないので比較はできないが、前々年との比較は57.4%になっている。一方、衣料品関係がけん引している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・今月は一大イベントである母の日があり、売上を伸ばすことができている。新型コロナウイルスの影響もあり、生産量を減らしているため、仕入価格が高くなったが、何とか売上上昇することができている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・感染拡大により物産催事中止やオンラインへの変更になり、加えて集客を抑制したため、来客数は感染拡大前には戻っていないが、直近3か月は来客数が回復傾向にある。高齢者を含め滞留時間の短縮は継続しているが、午後の来客数はやや改善している。オンラインでの物販や物産催事の受注が多くなった。地方サテライトショップ、ギフトショップでは、遠出を避けた地元客による購買傾向が継続している。周辺商店街の人通りも増加している。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出後、新型コロナウイルスの病床利用率が危険区域に達したことや、緊急事態宣言の延長が決定したことから、前年ほどではないが、巣籠り需要のための来客数の増加や客単価の上昇が見受けられる。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・来客数と売上高は、共に前年と比べて増加している。依然として前々年には及ばないが、緊急事態宣言の延長もあり内食需要が続いている。前年落ち込んでいた刺身やすし、総菜関係の伸びが大きい。
		住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・徐々に夏らしい気候となり、夏物の寝具需要が高まっている。また冬物寝具を片付けるタイミングに差し掛かるため、買換え需要もみられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、非常に売上が悪い。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線サービスエリア拡大で、販売量が増加している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・例年は今の時期には、販売量が大きく伸びるはずであるが、今年は3か月前と比較すると販売量の伸び幅が小さい。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・飲食店が多いこの商店街には、日頃は来街者が多いが、新型コロナウイルスの感染拡大により、時短営業の要請や不要不急の外出を避けるため、ほとんど来店客がいない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・緊急事態宣言が発出され、商店街を買い物で回遊する客が非常に少ない。都市部でひっ迫しており、地方でも外出を控える人が多くなり、特に高齢者はその傾向が顕著である。
		一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスに大変影響されている。購買意欲が落ちている上に、当地では変異株の感染者数が増加している状況で、全体の購買力に影響を与えている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前月中旬から持ち直しの傾向があったが、再度の新型コロナウイルス感染者数の増加により、中心市街地で営業している店舗が最悪の状態に戻っており、他チェーンに譲る予定である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響で、昼の来客数が減少している。ただし、夕方に酎ハイ等の酒の需要が伸びている。
	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の影響で、周りの飲食店が時短営業をしており、また、夕方からは酒類の販売量が若干伸びている。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの終息がみえないため、来街者はほとんどいない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は変わらず、景気に変化がない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発出され、新型コロナウイルスも落ち着く状況ではないが、以前のような新型コロナウイルス特需はない。先行きの不安からか財布のひもが固く、高単価商材の販売量が減っている。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・前年の緊急事態宣言時は休業店舗数が多く単純に比較できないが、大きく落ち込んではいない。買換え需要も底堅く、現状維持の状況である。
		住関連専門店（経営者）	それ以外	・前年は新型コロナウイルスの感染拡大によりイベントが全て中止になったことで、大幅な売上減少となり懸念していたが、今月は下見に来ていた客の購入が多く、売上が伸びている。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	お客様の様子	・客の動きは、2～3か月前と比較すると若干減少傾向にあるが、巣籠り需要の影響で客が購入する量は増加している。したがって客単価の増加のため、前年と比較すると売上は横ばい状態である。
		その他専門店【書籍】（副店長）	販売量の動き	・緊急事態宣言と梅雨入りが重なり、来客数と販売量が共に減少している。
		その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（支配人）	販売量の動き	・都市を中心に緊急事態宣言が出ており、当県は飲食店の時短要請があるものの、比較的マイナス影響は少ない状態が続いている。緊急事態宣言の影響で、シネマの一部と厳しい状況が続いている旅行代理店以外は、前年比2けたの増加で好調に推移している。2019年比でも、約90%と回復傾向にあり、緊急事態宣言が解除されることを期待する。一方、旅行代理店は壊滅的な状況であり、支援策が早急に必要と考えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が発出され、時短営業要請によりレストラン業務が全く機能していない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・前年と比較すると県外からの客が増えず、キャンセルも多い。
		タクシー運転手	それ以外	・コロナ禍で緊急事態宣言が発出されているが、状況が変わっておらず景気は最悪である。
		通信会社（統括者）	販売量の動き	・前年は時短営業になり比較できないが、販売等は前々年並みで推移している。
		競馬場（職員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、加えて延長も検討されているため、来客数が激減している。
		美容室（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大で外出自粛していた客の気持ちに、余裕が出てきており来客数が若干増加している程度で、余り変化はない。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・落ち着いた新型コロナウイルスの感染が、ゴールデンウィーク後急激に拡大し、イベント会場の使用や予約がほとんどない。
		学習塾（従業員）	来客数の動き	・現状では少しずつ上向いているが、3か月前と比べると余り変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注状況は、この3か月ほぼ変わらず推移している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年より20日早い梅雨入りになり、また、新型コロナウイルスの影響も続いており、商店街の通りも減少している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・これ以上の下げ幅がなく、余裕がない状態である。飲食や旅行関係だけではなく、大半の店が新型コロナウイルスの影響を受け、悲観的になっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後には新規感染者数が増加しており、特に5月中旬に100人以上の感染者が出てからは、来街来客数が減少しており、売上も大きく落ち込んでいる。
		一般小売店【鮮魚】（店員）	お客様の様子	・飲食店向けの小売店だけでなく、一般向けの小売店も客は少ない。魚価は安いにもかかわらず、売上が上がらず利益が出ない。しかし補償はなく、大変ひっ迫している。
		一般小売店【茶】（販売・事務）	販売量の動き	・再度の緊急事態宣言や飲食店の時短営業で休業している店も多いが、当店は飲食店にも納品しているため、売上にかなり影響している。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・土日の休業要請が発表され、営業している売場が限られており、明らかに減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・コロナ禍でのまん延防止等重点措置における外出自粛により、来店客が大きく減少している。加えて、各種のイベントや行事が中止になり、人の動きがなくなり、需要も大きく減少している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言発出により更に人の流れが抑制され、来客数が減少している。コロナ禍から約1年経過し、消費者の購買行動も明らかに変化している。店舗での購入より、Webでの市場が急拡大している。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・コロナ禍の影響で、巣籠り需要が普通になっているが、新しい生活に慣れてきて、購買動向に変化が出ている。買いだめや家庭での調理が減り、持ち帰り総菜や必要以上の購入を控えるなど、巣籠りの在り方に変化がみられる。したがって、来客頻度は上がったが、販売量は以前より低下している。
		スーパー（統括者）	単価の動き	・前年のコロナ禍との比較では、来客数は維持しながらも客単価の減少が影響し、全体的に売上が下がっている。一方、総菜部門は好調で水産や酒が健闘している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・例年であればゴールデンウィークは、人の動きが活発になり、家族連れを中心に買上点数が増加し、売上も上がるが、今年はゴールデンウィークに入った途端に客足が大幅に鈍くなり、大きく前年を割っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言下でも、新型コロナウイルス感染者数の減少がみられず、20時以降は極端に入出が減少し、来客数が伸びない。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加で、売上の落ち込みが著しい。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、百貨店は土日が臨時休業となり、客足も悪くなっている。
		衣料品専門店（総務担当）	それ以外	・緊急事態宣言が発出されたために、来街者数が激減し、その結果、来店や売上が非常に落ち込んでいる状況である。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・前年の巣籠り需要や特別定額給付金特需が大きいのしかかっており、かなり厳しい状況である。客の購入は、1回の来店で決まらないことが多くなっている。
		家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・5月に入り来客数が激減している。新型コロナウイルス関連の特需も一段落したことに加え、端境期が重なったことが要因と考えられる。夏商戦までは、今の厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・年度末商戦が終わり、新車の需要は下がっている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・客は大きな出費に対して、慎重に判断している。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・自動車販売では、コロナ禍の影響をほとんど受けずに順調に販売を続けてきたが、半導体供給不足のため新車製造が落ち込み、販売店への供給が少なくなり、新車販売台数の減少が続いている。
		居酒屋（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの報道もあり、余り感染者がいない地域でも来客数への影響は大きく、売上が余り望めない状況にある。
		観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第4波で、県外からの人の流れが止まっている。運営するホテルの客室稼働率は5月は25%前後、6月の予約は更に落ち込み、平均15%の状況である。レストランでも酒類提供自粛要請が響き、ランチ、ディナー共に週末以外は閑散としている。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・コロナ禍が続いているが、当県では前月まで緊急事態宣言が出ていなかったため、近隣の客が若干来店していた。しかし、緊急事態宣言の発出により、客足が止まってしまっている。補助金は底を突き、借入れをしなければならぬ状態で、この先が非常に危惧される。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・早めの梅雨入りの影響もあるが、新型コロナウイルスの感染拡大により県外からの来場自粛が多くなり、また近隣の市町村では感染者数が増加していることで、地元や企業のコンペが中止となり、予約数が大幅に減少している。
		ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の影響で、予約はキャンセルとなり、客は減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・5月に入り緊急事態宣言が発出された影響で、サービスキャンセルが発生し、売上が減少している傾向である。
		設計事務所（所長）	単価の動き	・食品等生活必需品の価格が上がっている。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・緊急事態宣言の影響でイベントの開催ができず、来客数が減っている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・緊急事態宣言により外出が抑制され、住宅関係の展示場への集客がづらい状況である。そのため物件の動きもなくなっていくという悪循環に陥っている。賃貸関係では、新型コロナウイルスの感染が先行き不透明のため、引っ越しを先送りする人が多い。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・小売に関して来客数が大幅に減少している。来客数減少の要因として、例年5月は売上が減少するという季節性と、緊急事態宣言の影響が挙げられるが、それぞれ減少にどの程度寄与しているかは判断としない。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月後半から来客数が激減している。
	×	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染対策による時短営業要請や休業要請の影響で、飲食店向けの販売量が激減している。
	×	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され外出自粛が要請されており、来客数は大幅に減少している。午前中に買物を短時間で済ませる傾向にあり、夕方の来店は少なくなっている。最近では、郊外店におけるファミリーの入店が特に減少している。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・食品以外への支出は全体的に抑えられている傾向である。売上動向について、食品関連では新しい生活スタイルが普及し、健闘している一方で、衣料関連は新型コロナウイルス第4波の影響で低迷しており、住宅関連は前年の新型コロナウイルス予防商材特需の売上と比較すると苦戦している。
	×	コンビニ（経営者）	それ以外	・緊急事態宣言発出によるイベントの中止や感染者数増加による近隣学校の休校やオンライン授業再開、テレワーク等により、人の動きが大幅に減少し、来客数が減少している。生活必需品や外出自粛生活での購入状況も自粛疲れで鈍くなっており、当店は厳しい状況である。
	×	コンビニ（店長）	それ以外	・ホテル内にあるコンビニエンスストアのため、宿泊客数減少に応じてかなりのダメージを受けている。
	×	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・通常では2月が一番売上が悪い状態であるが、今月は緊急事態宣言や時短営業の要請の影響で、消費者の外出が少なくなっており、来店客が非常に少ない状態である。購入はあったものの、外出自粛により売上にはつながらず、厳しい月である。
	×	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、客の動きが鈍くなっている。また、商業施設への時短営業や休業要請等もあり、状況が悪くなっている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークはほとんど来店客がおらず、テイクアウトの注文が若干あった程度である。また時短営業の要請があり、ほぼ予約がない。時短営業期間でも客の来店はあるが、注文が20時まで、閉店が21時までとなると大変厳しく、繁華街には人が動いていない状況である。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・若干良くなっていたが、緊急事態宣言が発出され、外出自粛や休業要請があり、酒の提供ができず、県外からの客や市内でも夜歩いている人はいない。当店でも休業しなければならず、ほぼ売上がなくなっている。
	×	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・時短営業による自粛で、状況が悪くなっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言による営業自粛で休業中のため、状況は深刻である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・景気下向きの理由として、飲食店の酒類提供禁止が挙げられる。飲食店は苦しい状況ではあるが、時短営業や休業要請で休業支援金や雇用調整助成金を申請できる。一方で飲食店の取引先には補償がなく、苦しい状況である。
	×	都市型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、対応の仕様がいない状態である。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・再度の緊急事態宣言により、夜のタクシー営業が再び停止になり、昼間だけの営業で売上は、通常の2～3割であり、売上歩合制度のため休業補償と併せても、苦しい状態である。
	×	美容室（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言発出後、人の動きが悪く、おしゃれ産業の景気が徐々に悪くなっている。売上が落ちており、先行きが不透明なため、打開策を見いだすことができない状態である。
企業動向関連		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響により、半導体事業関連が増産傾向である。
(九州)		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今月は、客のオーダーメイド地図が好調である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体の動きが良くなるにつれて、他の電子部品の動きも良くなっている。
		電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・前年4～6月の売上が最低だったこともあり、若干良くなっている。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・自動車向けデバイスが若干上向きになっているが、まだまだ回復には至らない状況である。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月は予想に反して好調であったが、5月の連休後に厳しい状況になっている。少し戻りかけてきた外食部門が、新型コロナウイルスの影響で、伸び悩んでいる。量販店や冷食加工向けの納品は、好調な動きを示している。
		農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・例年より2週間早い梅雨入りにより、春野菜や一番茶は、5月下旬の出荷量減少と単価の上昇が起こっている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年の水害被害から復興が進んでいるものの、売上、生産共に急には元に戻らないため、今後も懸念材料が多い。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年と比べると、受注は回復している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で、今年度も最大のイベントである陶器市開催が中止になった。前々年と比較すると陶器市中止による落ち込みはあるが、前年より商品の動きは良くなっており、売上が上向いている。
		金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・前年比での受注量はほとんど変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月は少し持ち直しの気配があり受注額が伸びていたが、今月は受注額の伸びが鈍化している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き主要取引先からの受注が好調である。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注予定がようやく出そろっている。平準化やゼロ債等の予算で、発注も多くなるかと期待をしたが、例年と変わらない。社員の勤務のこともあり、民間や下請でも受注できるように営業を強化していく。
		輸送業（従業者）	取引先の様子	・前年から高止まりが続いているが、コロナ禍で健康食品が急伸している。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が延長となり、状況としては変わらない。相変わらず物量は低水準のままである。
		通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス対策に、具体策がみられない。
		金融業（従業者）	取引先の様子	・百貨店の売上はやや弱含みながら、スーパーマーケットやコンビニエンスストアの売上は緩やかながら持ち直しており、また住宅販売も上向きの兆しがある。一方、新型コロナウイルス感染者数が多いため、地元企業の求人が減少しており、雇用者所得は伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・半導体や工作機械等製造業で一部持ち直しの動きがみられる。一方、緊急事態宣言の発出により宿泊や飲食店等のサービス業の需要は回復しておらず、依然として低水準の推移が続いている。業界によって景況感に温度差はあるものの、全体としては3か月前と同様に景気は悪い状況である。
		新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・自治体関連の広告には動きがあるが、民間の動きは少ない。
		広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・収益が回復している客もいるが、コミュニケーション費用の削減が客内で常態化してきている。
		経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・今月の連絡会議はまだ開催していないが、全体の景気動向に変化がみられない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数や受注金額に大きな変化がない。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・緊急事態宣言が発出されているが、新型コロナウイルスへの対応が分かるようになり、客への訪問も以前より断られるケースが減少し、業務に余り変動はない。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が発出され、飲食店を中心に営業自粛が続くため、関連する食品会社、飲料会社等取扱量が2019年の5～6割程度と落ち込み、倉庫の在庫は減少している。またウッドショックにより木材の輸入が大幅に減少し、木材の価格高騰が続いている状態である。
		金融業（営業）	取引先の様子	・緊急事態宣言の影響は、第1波ほどではないにしても、マイナスに作用している。宿泊施設や飲食店の打撃は大きい。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の発出、延長により、酒の提供をする業種はほぼ売上が上がらない状態が続いている。したがって、他の業種のマインドとは大きく異なり、業種によって2極化している状況である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・飲食店等では新型コロナウイルスの影響による時短営業が続いており、繁華街は閑散としている。ゴールデンウィーク中の行楽地の入出は、前年からは回復したものの通常には程遠い。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村からの委託で調査や計画策定支援等の業務を行っているが、新型コロナウイルスの感染拡大が収束せず、今月に当県でも緊急事態宣言が発出されたため、当初予算の執行が遅れている。例年では、5月には一定の発注が行われているが、まだ発注されていない業務が多い。このため景気が悪くなっている。
	×	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・マスクや防護服の受注がなくなり、既製品の仕事はないに等しい。ほとんどの工場では、雇用調整助成金頼みになっているが、経営として苦しい状態である。
	×	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・業務用商材の売上に急激な落ち込みがあり、休業を余儀なくされている企業がある。
雇用関連 (九州)		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は2年連続で前年比が増加しており、増加率は40%である。さらに、有効求人倍率は、0.82倍と約2年ぶりに前年比を上回っている。
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・前年同時期と比べて内定している学生が増えている。その点では、緊急事態宣言は発出されているものの、長期的には良くなりつつある。しかし外国人留学生に関してはかなり厳しい状況で、全体的にはやや良いという状況である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・好条件の派遣案件でもなかなか人選に苦労している。新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、派遣業界に関しては、受注の停滞や求職者の動き等をもみても、景気の上向きを感じる材料が乏しい。
		求人情報誌制作会社（編集者）	周辺企業の様子	・求人情報誌の求人広告取扱件数が、前年比30%のダウンで推移している。景況感は、5月の連休前まで活発に動いていたが、緊急事態宣言が発出されると人の動きや休業する店も増え閑散としている。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・2022年卒業の求人は、業種により差があるものの、ほぼ例年通りに動いており、企業の採用活動も前年よりは順調に動いている。内定を得ている学生も前月より増えている状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・退職者の後任を取らない企業が3割ほど出ており、新規注文も前年と比較して半分以上という月が続いている。さらに勤務しているスタッフの時間縮小の相談も数件ある。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言を受け、周辺企業の広告活動が再び弱みとなり、当社では例年5月に求人特集を行っているが、大幅な落ち込みをみせた前年を更に大きく下回っている。また旅行・ホテル関係の広告もほぼ止まっており、緊急事態宣言の延長もあり今後も見通せず、景気は悪い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・5月半ばからまん延防止等重点措置が実施されたため、飲食店での酒類提供も制限され、休業している飲食店も多い。それにより人の流れも抑制され、中心市街地等の人も少ない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・緊急事態宣言の発出により、国や自治体で様々な感染対策や事業者への支援が行われている。しかし、一時的には効果があるかもしれないが、求人広告の動向も春先から比べやや下向きになっており、更に長引けば、解雇等の動きが出る可能性もある。
	×	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言発出により、取引先の休業や披露宴のキャンセル等が続いている。
	×	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の大幅な減少がみられる。
	×	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの影響で、収益減となり廃業する事業者が出ている。また引き続き休業している事業者も多く、今後が心配される。

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (沖縄)		-	-	-
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・ゴールデンウィーク以降、来客数は微増であるが徐々に回復しており、客単価も徐々に上昇している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年同期と比較して来客数が増加している。
		観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・ホテルの2月の販売室数が、県内の緊急事態宣言を受けて休業していた期間もあり前年比94%減なのに対し、5月の販売室数は、国の緊急事態宣言を受けて休業していた前年同月の0室から1498室に増加している。
		旅行代理店（マネージャー）	それ以外	・県予算で県内向けの観光キャンペーンをやっても、ごく一部にしか恩恵がないし、まん延防止等重点措置からの緊急事態宣言でどうしようもない。
		住宅販売会社（代表取締役）	それ以外	・以前に建築受注した手持ち工事があり、当面の工事は維持できている。
		住宅販売会社（役員）	販売量の動き	・賃貸住宅の建築減少が影響し、賃貸あっせんの売上が弱みである。
		百貨店（店舗企画）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの動員を期待したが、まん延防止等重点措置期間中で集客にややブレーキが掛かり、下旬から緊急事態宣言発出で更に集客が悪化し、計画値に対してマイナス20%となっている。
		スーパー（販売企画）	販売量の動き	・沖縄県が緊急事態宣言の対象に指定されてから、自粛による家庭内調理需要で少し回復しているが、それ以前の買上点数減少の影響がまだ大きく、今月は売上を厳しくしている。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・5月前半はゴールデンウィークの影響もあり販売も好調だったが、後半に入り緊急事態宣言発出後は予約のキャンセルも目立ち、来客数が減少傾向にある。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で商店街自体も、各店も大変危機的な状況である。客も少なくなっており、大変苦戦をしている。
	×	一般小売店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者の急増で外出ができなくなり、観光や飲食ができない。飲食以外の関連業者には支援金がない。廃業する店も出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3か月前は通常の営業体制に戻る可能性があったが、まん延防止等重点措置が4月より開始され、今月には新型コロナウイルス感染者数が増加、緊急事態宣言へ発展したことにより時間短縮、休業要請などの対応で来店客が激減している。
	×	コンビニ（副店長）	来客数の動き	・予測どおりゴールデンウィーク明けから来客数の減少が始まり、梅雨の時期も重なった、また日々の感染者数の増加による来月20日までの緊急事態宣言の発出を受け、大変厳しい状況が続いている。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・月初めの連休は回復傾向にあったが、ゴールデンウィークが終わり、新型コロナウイルス感染者も増え緊急事態宣言になってからは観光客も少なくなり、県民も余り出歩かなくなった。それと比例するように来客数も減り、店頭での売上も落ちている。
	×	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の記録更新、緊急事態宣言で酒類提供の禁止となり、夜の営業での入客が緊急事態宣言発出以降は全店入客なしが、1～2組と地獄が続いている。ランチはそれなりに入っているが、500円ランチなので、黒字には程遠い。
	×	観光型ホテル（代表取締役）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出され、宿泊予約のキャンセルが増えている。飲食も、昼間の会議では行われるところがあるが、夕方からの会議プラス宴会は、会議のみとなっている。
	×	観光名所（職員）	来客数の動き	・秋の修学旅行の予約キャンセルが増えてきている。
企業 動向 関連 (沖縄)	-	-	-	-
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年のゴールデンウィークに比べると明らかに売上が戻ってきている。梅雨入り後も晴れ間が多く、パーベキュー用材料の売上が好調である。
		窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・前月から見積依頼が公共、民間工事共に若干増加傾向で、今月も前月並みの依頼件数がある。
		*	*	*
		-	-	-
	×	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新築の受注、契約がゼロになっている。
×	会計事務所（所長）	それ以外	・緊急事態宣言の再発出により不景気が長期化しており、心理的な面を考えると景気回復には相当な期間を要すると危惧している。	
雇用 関連 (沖縄)	-	-	-	-
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・県内外問わず、新規求人及び説明会の依頼がある。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・派遣依頼はあるものの、既存客からの依頼がほとんどで新規依頼が余りない状況である。
		人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・通常案件が減少している。
		求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・求人数は微増したが、企業の採用活動において大きな好転は感じられない。また5月下旬から来月6月下旬までは緊急事態宣言の影響による採用活動の鈍化、停止が予測される。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	求人数の動き	・3か月前と比べると、求人数に鈍さがみられる。
	×	職業安定所（職員）	求人数の動き	・業種にもよるが、前年より求人数等は回復しつつあった。ゴールデンウィークで観光関係は少し持ち直した感があったが、ここに来て緊急事態宣言で、再び景気の落ち込みの雲間がある。